



活動年鑑 9

2013.6 - 2014.5



青年技術士交流実行委員会

目次

- ・青年委員会 2013 年度活動報告
- ・ITG 活動報告
- ・例会 G 活動報告
- ・国際 G 活動報告

[例会活動報告書]

- ・ 2013/5 オープン・イノベーションと知的財産戦略
- ・ 2013/6 日本科学未来館見学と BBQ
- ・ 2013/7 2013 年度合宿
- ・ 2013/8 ビアパーティ
- ・ 2013/9 自己紹介企画
- ・ 2013/10 2013 年度全国大会
- ・ 2013/11 テクノツーリズム ブリジストン TODAY 見学会
- ・ 2013/12 国際交流と委員会中間報告会
- ・ 2014/1 パネル討論、JABEE ガイダンス
- ・ 2014/2 講演討論会「技術士のあるべき姿、活躍する技術士像」
- ・ 2014/3 デイバートを体験しよう
- ・ 2014/4 特別例会「青年技術士展 2014 1 次・2 次合格者交流会」

[国際交流活動報告書]

- ・ 2013/10 日韓技術士国際会議
- ・ 2013/11 CAFEO31 (YEAFFEO20) 参加報告書

[サッカー&テクノ活動報告書]

- ・ 2013/8 サッカー合同練習会 (新潟)
- ・ 2013/8 テクノツーリズム (新潟)
- ・ 2013/10 日韓技術士親善サッカー大会
- ・ 2014/1 サッカー&テクノツーリズム
- ・ 2014/3 サッカー合同練習会 (新潟) + テクノツーリズム (酒の陣)

[青年委員自己紹介]

2013 年度 青年技術士交流実行委員会 活動報告

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各分会から推薦された委員、委員補佐により構成されています。委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含まれます。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施しています。2013 年度の主な活動を下記にまとめます。

青年技術士交流実行委員会は、青年層向け研鑽事業、地域本部交流、国際交流、を実施し、日本技術士会に対し青年層からの提言を心がけました。

①各種例会の開催

講演会やテクノツーリズム、スポーツ交流を含む交流会を毎月 1 回以上の頻度で開催しました。2013 年度は一次二次試験合格者が年間を通じ 4 月の特別例会まで継続して参加でき、スムーズに技術士会入会に至れる動線を築けました。各活動内容は報告書として青年委員会 HP にて公開を行っています。

②特別例会

2013 年 4 月 27 日に青年技術士交流実行委員会主催『一次二次試験合格者交流会』を開催しました。その中で参加者各自の専門性をアピールできるディスカッション企画として鉄腕アトム開発会議を実施しました。各テーマに分かれて行ったディスカッションの結果および活動報告は青年委員会 HP にて公開を行っています。

③各地域本部青年技術士組織との交流

各地域本部との交流会議を開催するとともに、2013 年 10 月 5 日に札幌市で開催された技術士全国大会において青年技術交流会議および青年技術士の集いを実施しました。その中で全国各地域本部青年組織の活動内容を共有しました。本年度開催される全国大会（九州）においても、各組織との交流を継続する予定です。

青年層は企業内技術士も多く出張や異動転勤等に伴う地域間の移動もあることから、全国の地域本部青年組織とのネットワークを活かし、技術士青年層のサポートにも努めて参ります。また技術士会組織との関係を築く取り組みに対して引き続き連携を取って参ります。

④国際交流活動

・2013 年 10 月 17 日～19 日に韓国・水原で開催された日韓技術士会議の第五分科会へのサッカー親善試合の開催支援を行いました。

・2013 年 11 月 10 日～13 日にインドネシアで開催された ASEAN 技術者協会連合国際会議『YEAFEO20（ジャカルタ）』への参加者派遣の支援をしました。3 名の会員を派遣し、2013 年 12 月 14 日の国際交流活動報告会で参加報告および派遣者による講演会やディスカッションを行いました。

⑤研修委員会所轄委員会行事への協力

2014 年 1 月 25 日開催の平成 25 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス（修習委員会主催）において、パネルディスカッションを企画・運営し受験生のモチベーション向上や技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築くことができました。

⑥新たな情報配信の試み

青年委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2012 年度青年技術士交流実行委員会活動年鑑を制作しました。

また青年委員会のホームページやブログ、フェイスブック等を積極的に更新し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告に活用しております。上記の活動を企画・実施するため、毎月の運営委員会を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催しています。

さらに本年度は ITG 内で Panda プロジェクトを立上げこれらのシステムをより使いやすいものとするべく改善活動を始めました。

その他、委員会活動紹介のポスターを作成し、各種例会等で掲示しました。これらのポスターは単なる活動の概要ではなく例会に参加する青年技術者の写真を活用し、「交流の楽しさ」を前面に出した PR を行い、技術士会入会への敷居の低さを実感できるようにしました。

⑦IT を活用した委員会活動の効率化およびその改善

Web サーバーを利用して会議・例会への出欠管理を行いました。また議事録・資料等をインターネット上のデータベースで保存管理することで運営の利便性、継続性、活性化を図っております。

⑧その他

企画委員会に協力し「先輩技術士からのメッセージ」を作成しました。合格者向けの情宣ビラや技術士会 HP に掲載され会員獲得に貢献しました。

1. グループメンバー

山本 小野寺 伊藤 杉山 瀧川 田角 安カ川 畠田 石井 藤井 村崎

2. 目的

青年委員会（以降、委員会）の活動の円滑な周知・実施のため、各種媒体を用いて必要な情報の発信・管理することを目的とする。

3. 今期の活動と成果

1) 同報メールの発信

日本技術士会の広報機能である同報メールを使用し、例会開催情報等を発信した（行事内容の詳細は例会 G 報告参照）。委員会の活動内容について、広範な事前周知が実施できた。

2) 技術士会 CPD 行事予定欄への記事掲載

日本技術士会の行事予定ページおよび機関紙上に、例会案内等の掲載を行った。特にウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化に成功している。

3) 組織維持の強化

情報管理強化のため、サーバー自動バックアップ方式の検討、および機能実装を行った。

4) 新たな情報発信の試み

委員会の広報手段として、従来のホームページ・ブログに加え、新たにフェイスブックを採用した。これらの電子媒体の高頻度かつ継続的な更新により、活動紹介、主催行事の事前周知、および開催後報告等の情報発信に活用した。

また委員会活動を紹介したポスター・フライヤーを作成し、例会等で掲示・配布を行った。これらの紙媒体では「交流の楽しさ」を惹起させる青年技術者の写真を多数用い、日本技術士会入会の敷居を下げることを狙った、プロモーション戦略を採用した。

さらに本年度は IT-G 内 panda プロジェクトキックオフを通じて、ドメイン・ブランディングを含めた対外情報発信の統一化、IT ユーザビリティ等についての改善活動を開始した。

5) IT を活用した委員会活動の効率化

ウェブサーバーを活用した、委員等の会議・例会への出欠管理を実施した。また議事録・資料等をサーバーに保存管理し、運営の利便性と継続性の向上を図った。

4. 今後の活動・展開

既存媒体を活用した広報活動により、着実なベースアップ（知名度向上、新規参加者獲得等）とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。今後は、以下の項目について議論を深め、委員会活動の更なる飛躍に向けたサポートを行う。

- ・委員会の活動内容・知名度向上に適した広報媒体の選定
- ・各種例会参加者の確実な事後フォローによる、リピータ層の確保
- ・例会コンテンツ充実に向けた、若手技術者が求める研鑽課題についてのリサーチ

以上

例会グループ活動報告（2013年 6月 ～ 2014年 7月）

例会グループリーダー 田中 雅人

1.メンバー

金丸、佐藤、中村、細野、吉田、田中

2.今期の活動

平成22年11月に開催された委員会合宿においては、平成23年8月の全国大会のテーマ「地球再生へのメッセージ～世界・アジア・日本における技術士の役割～」をコンセプトに則り、例会の基本方針としては原則参加型とすることに決定した。そこから一貫し、平成25年6月までコンセプトに沿った例会を実施してきた。

本年度、平成25年7月には改めて委員会合宿を開催し、青年委員会の活動方針などを委員全体での共有を図った。本年度はメンバーの入れ替えの年度であり新メンバーが多く、そういった中で今期の最上位テーマとしては「交流」を継続採用することとし、また、今期の各例会の担当と企画概要の決定を行った。例会企画の内容としては原則参加型であることを継続し、また新メンバーが多いこともあり、プレゼン大会、テクノツーリズム、講演討論会、ディベートなど定番の企画を多く取り入れた。

3.成果

例会の内容は今までと同様に原則参加型の例会の企画を継続している。今年度は新メンバーが多いことから、定番の企画を取り入れ、また、4月特別例会では昨年度と同様の企画を行ったが、それぞれの企画においてはこれまでの反省を活かされ、同じテーマでありながらもその企画内容はより洗練されたものとなった。

開催日	テーマ	人数
8/4	恒例、筆記試験おつかれビアパーティー	14
9/21	自己紹介企画-プレゼン大会	-
10/6,7	全国大会@札幌 青年の集い、テクノツーリズム	-
11/16	ブリヂストンTODAY見学会	21
12/14	国際交流活動報告会・パネルディスカッション	14
1/25	平成25年度技術士第一次試験合格者ガイダンス	150
2/8	講演討論会「技術士のあるべき姿、活躍する技術士像」	24
3/8	ディベートを体験しよう「小学生のスマホ利用は禁止すべきか」	11
4/26	特別例会 第一次・二次試験合格者交流会2014 出会いの春、技術士仲間を見つけよう	一部:68 二部:71
5/24	外部講師企画 「Your English is better than you think」	30

4.今後の展開

定番の企画を多く取り入れメンバーの資質向上を図ったのが今年度である。来年度以降はより挑戦的な企画も提案し、若年層技術者に対してより魅力的なイベントを企画していく。また、夏休みの小学生を対象にした企画などより一般社会に貢献できる企画も実施していく。

以上

国際交流活動報告

1. 国際交流活動の主旨

アジア・太平洋地域を中心に諸外国の若手技術者と相互交流を図り、会員に対して国際交流及び研鑽の機会を提供することを目的として活動を実施した。

2. 平成 25 年度の活動内容

平成 25 年度は、昨年度から継続して日韓技術士会議参加、CAFE0/YEAFE0 派遣を 2 つの大きな柱として活動を実施した。

(1) 第 43 回日韓技術士国際会議（韓国・水原／2013 年 10 月）

日韓技術士国際会議において、実行委員会へ協力し、会議への参加および親善サッカー大会の開催協力をおこなった。前夜祭においては、持参した青年委員長からの手紙を参加した青年委員が代読した。

(2) CAFE0/YEAFE0 派遣（インドネシア・ジャカルタ／2013 年 11 月）

技術士会員に公費派遣募集を行い、6 名の応募があった。その中から青年技術者 3 名（内、青年委員 1 名）を選出して派遣した。青年委員長からの手紙を持参し、各国代表者に手渡した。

参加準備は公費派遣者だけでなく、私費参加者も共同で行い、また会議期間中一緒に行動した。公費派遣、私費参加にかかわらず日本代表として一丸となった活動は、他の参加諸外国に対する安心感の醸成、今後の交流の継続性という点で一定の効果があった。

また、派遣者および応募者は、引き続き青年委員会開催の例会への参加や活動への協力を行っており、青年委員会活動への興味づけのためにも有効な取り組みであることが示された。

(3) マレーシア青年技術者代表団との交流（CAFE0/YEAFE0 参加後）

CAFE0/YEAFE0 派遣の一つの成果として、マレーシア青年技術者代表団との相互訪問に向け、連絡を開始した。

3. 今後の活動・展開

日韓技術士会議参加においては、青年技術士の参加者数が増えて活動が活性化するよう、引き続き広報活動に努める。

CAFE0/YEAFE0 派遣においては、これまで技術士会先輩諸兄が築きあげてこられた国際交流活動の一環として、流れを絶やさぬよう公費派遣を継続実施し、ASEAN 加盟国を中心とした交流を深化させる。また公費派遣者、私費参加者にかかわらず、一つの青年技術者日本代表として諸外国と相対せるよう、参加者のチーム化を促進する取り組みを進める。

マレーシア技術者との交流については、青年委員を中心として、より広い会員層を巻き込む形で実現させるよう努力する。

以上

例会活動報告書

行事名	5月例会 オープン・イノベーションと知的財産戦略
日時	平成25年5月25日(日) 13:30~17:30
場所	葦手第二ビル5階 CD会議室
担当者: (○印:リーダー)	鳶田 泰彦、村崎 諒、○中村 聡(記)
参加者数	35名+委員10名

1. 背景・目的

今回は4月特別例会から一転、例会の多様性を出すため、「勉強会」として開催した。しかし、単なる座学のみではなく、グループ討議を組み合わせた「参加型」の例会として、参加者により理解を深めていただくことを目的として実施した。さらに外部講師を招いて講演いただくことで、より専門性の高い内容となった。以下にその内容を報告する。

2. 内容

2.1 講演テーマ

「オープン・イノベーションと知的財産戦略」

2.2 講師

鶴見 隆 氏(職業能力開発総合大学校客員教授、株式会社戦略データベース研究所所長、工学博士)

2.3 講演内容

パート1. 国際競争環境の変化と新しいイノベーションモデル

- 1) 日本企業の国際競争力の推移
- 2) 国際競争力環境の変化
- 3) 研究開発向上への二つの視点
 - ・オープン・イノベーションへの転換
 - ・ビジネスモデルの構築
 - ・優れたビジネスモデルの事例

パート2. オープン・イノベーションのための知的財産戦略

- 1) ビジネスモデルのサイクルと知財のサイクル
- 2) ビジネスモデルの策定と情報活動
- 3) ビジネスモデルの推進における知的財産戦略
- 4) オープン・イノベーションのための特許情報活動
 - ・特許情報活動の現状
 - ・三位一体の特許情報活動(旭化成の事例紹介)

2.4 討議内容

「BMの推進における知的財産戦略」をテーマとしてグループ討議を行った。まず、知的財産を構築するにあたるケースを与え、それぞれの場合における判断基準、メリット・デメリットを話し合った。ケースは以下のとおり。

1) 知的財産構築

- ・目指す技術が市場にない時・・・自社開発の場合、共同開発の場合
- ・目指す技術が市場にある時・・・自社開発(迂回、代替技術等)の場合、ライセンスインの場合、事業提携・M&Aの場合

2) 研究開発成果の保護・保全

- ・特許性ありと判断した場合・・・公開か、守秘か
- ・特許性なしと判断した場合・・・公開か、守秘か

3) 知的財産活用

- ・自社で事業化する場合・・・自社単独か、ライセンスアウトか、事業提携か
- ・自社で事業化しない場合・・・ライセンスアウトか、譲渡か

議論の結果は班毎に発表し、他の班が質問・補足をするスタイルで勧められた。

3. 成果と所感

・今回は、参加者35名と多くの方に参加いただくことができた。理由として、以下が考えられる。

- ・4月特別例会での勧誘がうまくいき、その後のフォローも適切であったこと。
- ・今回のテーマが「知的財産」についてであり、近年その活用が重要視されていることから、参加者が興味を持ちやすかったこと。
- ・例会内容は盛況だった。講師の鶴見先生は各地で講演活動や企業の知財コンサル・教育研修をされているため、今回のような例会での講師もなれた感じであった。そのおかげで、参加者もグループ討議や発表での意見交換が活発に行われたと感じた。
- ・交流会は鶴見先生の人柄もあり、参加者も多く大いに盛り上がった。
- ・今回は4週間ほど前から募集を開始し、1週間前の時点で申し込み者は20名程度であった。その時点で同報メールを流したところ、10名以上の参加希望があった。今回はC,D会議室で収容人数が少なかったため、ぎりぎりの人数であった。そのため、予定より1日早く申し込みを打ち切った。同報メールの有効性を確認できた一方で、人数が多すぎてやや窮屈となった。今後、集客力の高いイベント時には、申込受付方法を考えていく必要がある。

4. 今後の展開

今回の例会のような参加型の勉強会というスタイルは、今後も有効と感じた。講義を聞きたい人とコミュニケーションをとりたい人の両方のニーズに応える形となった。今後はテーマの選定とディスカッションの手法を工夫することで、さらに参加者の満足度を高めることができると考える。

5. 写真

講義状況-1



講義状況-2



討議状況



発表状況



行事名	6月例会:日本科学未来館見学会とBBQパーティー
日時	2013年6月30日(日) 日本科学未来館見学会 9:30~12:00、BBQパーティー 12:00~15:00
場所	(見学会)日本科学未来館、(BBQパーティー)都立潮風公園
講師、発表者	なし
担当者: (○印:リーダー)	○石井(記)、武井、山本、田中、山地、品田
参加者数	26名、(BBQパーティー)31名

1. 背景・目的

日本科学未来館の常設展示見学を通して、日々の素朴な疑問から最新テクノロジー、地球環境、宇宙の探求まで、さまざまなスケールで現在進行形の科学技術を体験し、最先端の科学技術を身近に感じ理解を深める。

2. 例会内容

2. 1. 日本科学未来館見学会(9:30~12:00)

日本科学未来館常設展示(5階、3階)の見学を行った。

- ーモノづくり、情報社会、ロボット、くらし
- ー地球環境、生命、宇宙、医療

2. 2. BBQパーティー(12:00~15:00)

都立潮風公園において、青年層技術士間の懇親を深めるため、BBQパーティーを行った。前日の拡大運営委員会から全国各地の多数の技術士の参加があった。

3. 成果と所感

今回は家族で楽しめるイベントとして企画を行った。子供や家族同伴の技術士もあり、普段の例会とは違った雰囲気での交流となった。

それまでの数日間、雨が降ることが多かったが、当日は偶然にも天候にも恵まれ、バーベキュー場では飲食のほか、参加者の子供たちと一緒にキャッチボールに興じる技術士らの姿もあり、普段は見られない一面を垣間見ることができたユニークなイベントとなった。

4. 今後の展開

今回は、あまり広報活動を行わない形での開催となったが、今後も引き続き、会員のニーズを満たす様々な催しを企画し、幅広い会員活動や交流を支援していきたい。



以上

行事名	2013年合宿
日時	2013年7月20日(土)、21日(日)
場所	晴海グランドホテル 会議室
講師、発表者	山本委員長、田中副委員長
担当者: (○印:リーダー)	○山本委員長、中村委員、品田委員、田中副委員長(記)
参加者数	1日目:18名、2日目:12名

1. 背景・目的

7月より年度が変わり、また新しいメンバーを迎えるにあたり、青年委員会の位置づけ・例会の方針をメンバー間でのシェアを行い、例会の年間計画を行う。また新メンバーでの交流も目的である。

2. 合宿内容

委員長議題(所信表明など)の後、これまでの合宿での議論の内容を復習することで、青年委員会の位置づけや例会方針のシェアを行った。これまでの結果を踏襲しつつ、さらに自分たちなりに落とし込むため、「青年委員会のあるべき姿」をテーマにディスカッションを行った。以上を踏まえ、例会の年間計画として、各例会の担当と企画概要を決定した。また、メンバーの各グループへの割り当てを行った。

年間計画の決定内容は以下の通り。その他、詳細は議事録を参照。

	企画内容	主担当	サポート	サポート	サポート	サポート
7月	合宿	山本	田中	中村	品田	-
8月	ビアパーティ	金丸 安力川	佐藤	昆野	-	-
9月	自己紹介プレゼン	瀧川	田中	-	-	-
10月	全国大会	-	-	-	-	-
11月	工場見学	吉田	鳶田	杉山	-	-
12月	中間報告・国際交流報告	高橋	(昆野)	(野口)	-	-
	サッカー例会	(藤井)	高橋	-	-	-
1月	1次合格者ガイダンス	伊藤	山本	河辺	-	-
2月	外部講師(合格本)	小野寺	(藤井)	山本	田中	-
3月	ディベート	(村崎)	(田角)	(太田)	-	-
4月	特別例会	杉山 (幹事長)	(細野) (副幹事長)	丸山 (司会)	品田 (会計)	田中 (前年幹事長)
5月	外部講師(技術英語)	(越智)	佐藤	松田	-	-
6月	拡大委員会+テクノ	安力川	(石井)	中村	-	-
7月	合宿	-	-	-	-	-
8月	ビアパーティ	-	-	-	-	-
	夏休み子供向け企画	佐藤	安力川	伊藤	田中	中村

()付きは仮おき

3. 所感

- 新メンバーを主担当に割り当てた案は好評だった。今年度は産みの苦しみだが、来年度はパワーアップが図れる。
- 来年度の合宿は例会グループにて内容をしっかりと練りたい。
- 懇親会で盛り上がった話から、鉄道ワーキンググループという新しいグループが誕生した。新しい試みなので、色々試してみてしっかり昇華させたい。
- 金銭関係について会計担当と密に相談して進めるべきであった。
- 青年の広報と知名度アップが課題であることも認識・共有できた。ディスカッションの成果であり、ディスカッションを行ったのは良かった。
- 今回の合宿は企画を練る時間がなかったので、ほとんど独断で企画してしまったことも反省点である。

以上



昆野委員補佐による国際グループ紹介



ディスカッション発表の様子



合宿集合写真



親睦会の様子①



親睦会の様子②



親睦会の様子③



親睦会の様子④



いいね！

行事名	恒例ビアパーティ
日時	8月4日(日) 18時30分～20時30分
場所	銀座ライオン 新宿エルタワー店(新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワーB2F)
講師、発表者	
担当者: (〇印:リーダー)	〇金丸 阿沙美、安力川 幸司 (準備:佐藤 理英、昆野 哲也)
参加者数	19名(内訳:会員13名うち委員5名、非会員6名)

1. 背景・目的

青年交流委員会では、技術士二次試験終了後の夕方からビアパーティを開催している。本行事は青年交流委員会 30年の歴史を誇る行事で、当初は試験監督の慰労会であったが、最近では受験生の慰労、各部門の技術者の情報交換・交流の場として気軽に参加できる行事として開催している。

2. 活動内容

今回の会場は、各試験会場から集まりやすい新宿駅近くのビアホール。個室を貸切りすることができた。山本委員長の挨拶・乾杯で、会が始まり、おいしいビールを片手に試験に関する情報交換・近況報告等で盛り上がった。



(撮影:安力川 幸司)

3. 成果と所感

会場の立地が良かったこともあり、ほぼ全員が時間通りに集合し、最初から大いに盛り上がった。特に今年度技術士試験の内容が改訂されたこともあり、土日に行われた試験内容についての話題が中心となった。今回、個室での開催だったため、席を移動しながら多くの人と交流しやすい状況であったことも、会が盛り上がりにつながったと考える。多くの人と親交を深めることができ、楽しい時間を過ごすことができた。反省点としては、集まりが良かったこともあり、受付が集中し、手続きに多少手間取ってしまった。

4. 今後の展開

青年交流委員会のビアパーティは、30年以上の歴史がある恒例行事であるので、今後も継続して開催したい。また、今回、Ⅱ期目の委員(佐藤・昆野)により、事前に会場確保・案内提示を開始していたこともあり、Ⅰ期委員に交代した後もスムーズに実施することができた。次年度以降も今年度と同様に、円滑にビアパーティ開催ができるよう、Ⅰ期とⅡ期の委員で連携した準備を行うことを続けていきたい。

【記:金丸 阿沙美】

行事名	9月例会: <自己紹介企画> ~ 青年委員会のメンバーを知ろう! ~
日時	2013年9月21日(土) 14:00~18:00
場所	東京メガシティ1F パーティールーム
講師、発表者	なし
担当者: (○印:リーダー)	○田角、瀧川、田中、金丸、松田
参加者数	19名

1. 背景・目的

本企画は新委員の着任に伴い、委員、委員補佐同士の相互交流を深めることを第一目的とし、自己紹介を通じてプレゼンスキル向上を目的として実施した。

2. 例会内容

2. 1. <自己紹介企画> ~ 青年委員会のメンバーを知ろう! ~ (14:00~18:00)

本企画では、委員・委員補佐全員を対象とし、1人8分の持ち時間で自己紹介や技術PRについてプレゼンテーションを行った。

今回は特にプレゼンスキル向上に重点をおき、全員に評価シートを配布し(右表参照)、各自の発表について採点・集計を行い、高得点者に表彰を行った。また、後日各発表者へ評価項目の得点および評価者コメントのフィードバックを行った。

例会欠席者についてもプレゼンテーションを作成してもらい、ファイルを全員が閲覧・採点し評価を行った。

さらに発表後、「良いプレゼンとは何か?」についてディスカッションおよび意見をシートに記入し、とりまとめた(別紙参照)

発表態度	発表者の声の大きさは適切か
	発表者のしゃべるスピードは適切か
	身ぶり手ぶり、聴衆者とのアイコンタクトはできているか
表現方法	話の内容はわかりやすいか
	話し方は面白い(魅力的)か
	時間配分は適切か
プレゼンテーション	プレゼン資料はみやすい(わかりやすい)か
	プレゼンテーションの構成はよいか
	発表テーマ(ストーリー)はよいか
	業務(技術)内容は理解しやすいか

3. 成果と所感

本企画を通じて、委員・委員補佐同士のパーソナリティ、技術についてお互い理解が深まった。また各自のプレゼンテーションを見聞きすることにより、自分のプレゼンのあり方を見直し、今後の参考とすることができた。まとめで得られたキーワードとして、良いプレゼンのポイントとしては「わかりやすさ」「対話等によるインタラクティブ性」「ストーリー性」、プレゼンター側のポイントとして「経験」「練習」「客観的意見を得る」等が共通認識としてあげられた。これら以外に「プレゼンターの見たい目」「熱意」等の定量化困難な項目もあげられた。

反省点は、評価シートの集計方法、担当者の割り振り等で、詳しくは幹事へのアンケートにより、「改善したい点」、「良かった点」を別紙の通りとりまとめた。

4. 今後の展開

今後の自己紹介企画と評価のあり方について、より簡便に行える方法を模索することと、プレゼンスキルの向上のため、良いプレゼンテーションのあり方について、今後の例会で議論を深めていく。



以上

[幹事アンケート集計結果]

	改善したい点	議論の余地	事前準備	企画自体
松田	・評価シートのレイアウト: 評価基準と採点用シートを分けていれば、休憩中に回収し、集計できたかもしれない。		●	
	・時間配分: 最後のほうは 疲れてしまったので、20人規模の自己紹介は3分スピーチが妥当かと思いました ⇒ 質疑応答、ディスカッションの時間が取れたかも。	★		●
瀧川	・集計に手間取ってしまったこと(すみません)。次回は評価シートを都度回収し、PCに都度打ち込めるような形態をとればよいと思う。		●	
田角	・時間オーバー: 最後評価シートの 集計にもものすごく時間がかかり、会場の予約時間をオーバーしてしまい、安カ川さんにご迷惑をおかけした。		●	
	・評価シート集計方法: 集計方法について正直なところノープランで臨んだため、大幅に時間がかかってしまった。せめて集計 用紙でも準備しておくべきであった。手書きの集計という点について、PCやスマホでの入力という意見もあり、今後の改善点として検討していきたい。		●	
	・ディスカッション: 集計でいっぱいいっぱいになっている間、山本さんにアドリブでディスカッションをお願いする形となってしまった。本来担当でやるべきであり、重大な反省点。		●	
山本	・やるべき項目の明確化 (企画段階で委員長&例会gと詰める)		●	
	・担当者の割振り(会後の作業も含め平準化すべきだった)		●	
	・委員自身の資料締切意識の高揚(を今後どうするか)	★	●	
田中	・採点の「ひとこと」欄を書く時間がなかった。「ひとこと」欄だけは後日改めて書いてもらってもよかったかも。			●
	・準備において、工程表とチェックシート、持ちものリストをきちんと作るべきであった。(内部向けイベントという甘えがあった)		●	
	・例会当日の田角さんの負荷が高すぎた。事前にきちんと役割分担をし、平滑化すべきであった。		●	
金丸	・準備段階、当日、後日の分担作業の明確化		●	
	・集計方法、記載方法の簡略化、効率化		●	

	良かった点	議論の 余地	事前 準備	企画 自体
松田	・企画内容:自信のプレゼンのスキルの確認と、他者の評価をすることで、改めて良いプレゼンとは何かを問う機会となった。			●
	・タイミング:初顔の次に開催し、委員を知ることができた(普段は近況報告で済ませてしまうので)			●
瀧川	・今まで名刺上のこと位しか知らなかった委員の方々の内側を知り、今後の委員会活動がしやすくなったと思う。			●
	・人のいろんなプレゼン手法を見ることで勉強になった。			●
	・人に評価してもらうことで、自分のプレゼンの改善点がはっきりした。			●
田角	・企画内容:各自の普段の仕事内容や自己紹介を詳しくみることができ、委員・委員補佐の個人を知るよい機会になった。プレゼンの練習としても、他の人の持っている表現方法などを参考にすることができてよかった。			●
田中	・採点方式にしたこと:集中してみなプレゼンを聞くことができた。また、競争になり盛り上がったと思う。			●
	・賞品のアイデア:大人の科学+賞状(賞状が意外に嬉しかったです!)			●
	・アイスブレイク:みんなのエンジンがかかりました!			●
	・金丸さん、プロジェクターの提供ありがとうございました!		●	
	・安力川さん、パーティールームの提供ありがとうございました!		●	
	・松田さんのお土産のセンス!		●	
金丸	・委員のことを知るいい機会であった			●
	・普段発表を聞く時、内容を聞くことで夢中で、プレゼン方法や話し方などに着目していなかったのも、おもしろい企画であった			●

[内部アンケート結果・すごいプレゼンとは？]

	1 佐藤	2 金丸	3 田角	4 杉山
すごいプレゼンとは(簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」と「結論」がきちんと対応している 最も重要な結果(一番主張したいこと)が、最初の方にある プレゼンの流れは、「最も重要な結果」を説明するための論理的な構成となっている 「事実」と「意見」が明確に分かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容に流れがある(起承転結) 夢中になる(採点を忘れるくらい) 先が知りたくなる 共通点の一つでも見いだし、共感できる部分などがあると引き込まれやすい 	<ul style="list-style-type: none"> オーディエンスを惹きつける「つかみ」と「トーク力」、最後まで離さない「キープ力」 わかりやすさ 聴衆の年齢層、職業、知識レベル等を考慮した(対応した)プレゼン構成 最も伝えたいポイントを適確に相手に伝える 影響力がある、あるいは心を動かすプレゼン(感) 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝えるための手段を工夫している インパクトがある(意外性含め)
自分でやるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも1回は練習が必要 時間は厳守 	<ul style="list-style-type: none"> 場数を踏む(経験) 経験により、聞く側の興味をひくポイントが掴めたり、時間感覚がつかののでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> 練習 時間構成と時間内で話を収める話術 	<ul style="list-style-type: none"> 伝える相手がどんな目的で聞くかを想像する 単語にならないように起伏を付ける(起承転結とは別) なるべく会場の人の目を見る
他力が必要と感じたこと		<ul style="list-style-type: none"> 評価してもら(ダメだししてもらう&褒めてもらう) 他の人の発表を見て、いい発表のポイントを見つける 	<ul style="list-style-type: none"> 複数人を前に発表練習+レビュー、ダメ出しを洗いざらいしてもらう プレゼン等の文章、キーワード、図表チェック 客観的な視点でのチェックが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 専門分野外の人に聞いてもらう(声色、動きなど客観的に見てもらえる)
その他、感じたこと		<ul style="list-style-type: none"> 2番手がいい、1番手だと場の雰囲気かわからない 最後の方だと聞く側が疲れてくる、内容が先に発表した人と被った場合ベースが崩れる(論文発表などではないのかもしれませんが、、、) 自分の説明より前に発表した人の内容を取り込んだりして、時間の配分に影響する場合がある 軽い内容(今回のような自己紹介等)と業務・研究発表等でやはりプレゼン方法、評価ポイントが違う 文字の大きさのメリハリ(重要事項は文字を大きく目立たせる、補足事項は簡潔に) PPT上では、文章を長く書くのはNG。ポイントを箇条書きする程度とある程度の図・イラスト・写真等を説明の補足としてわかりやすく示す(図・写真シートのメインにならない) 	<ul style="list-style-type: none"> 練習と場数を踏むことが重要 ポイントを伝えるコツを会得する 人のプレゼンをたくさん見る(話し方、プレゼンいずれも) 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く人の反応、どんな雰囲気かわかるので2番手以降が良いです プレゼンは情熱
誰のどこが良かったか	<ul style="list-style-type: none"> 山本さん アイデアが奇抜で聞いていて面白かったです。ただ、山本さんご自身の仕事内容をもっと知りたかったです。 田中さん 自己紹介プレゼンとして、構成・ストーリーともとてもよかったです。 小野寺さん 前半にご自身の研究・技術が詳細に紹介されていて、非常によかったです。 松田さん ご自身が獲得していった技術の流れがよくわかりました。(ただし、チンが鳴ったら巻きを入れましょう) 	<ul style="list-style-type: none"> 伊藤さん:さすが先生！教壇上に注目を集める力を感じる力強いトークでした。 田中さん、安力川さん:全員の興味を確実につかむネタを入れている。 杉山さん:仕事の楽しさ、普段の努力等、想いがしっかり伝わるプレゼンでした。 山本さん:自分を製品(しかも会社の製品を意識してる)に例えた自己紹介が面白かったです。 昆野さん:具体的なポイントが言えませんが、安定感のあるプレゼンで、落ち着いた聞いていました。 	<ul style="list-style-type: none"> 中村さん ご自分の携わっている技術と仕事为主线に写真で紹介され、わかりやすいと同時にすごいと感じました。フローチャートの中のご自分の担当箇所を示してあるのもわかりやすかった、 田中さん 表紙の少女マンガ「君に届け」でもうやられたと思いました。プレゼンの展開も聴く人の興味をひきつける趣向ですばらしく、何が一番すごいかというと、それでいて時間ピッタリに終わったところです。 小野寺さん 年取のグラフがよかった。オミックスについても一般向けにわかりやすい説明となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 田中さんの実用性のある項目での選択肢、最初に自分の知りたい欲求を引き付けて最後まで話を聞く体制が最初に構築できていた。 山本さんの第三者(奥さん)目線の解説と最後のさ〇えさんのシムレット。 安力川さんの時間に縛られない落ち着いたトークと気になる業界情報満載のコンテンツ 吉田さん、川辺さんなど歴史情報とリンクさせることによりイメージしやすい内容を入れる

	5 安力川	6 中村	7 伊藤	8 山本
すごいプレゼンとは (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> 誰にもわかるよう簡単に伝えている。 主張が聴衆の記憶に残っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 説得力(主張したいことが明確) つまり理解しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 共感 	<ul style="list-style-type: none"> 最初のつかみを最後までと切らせない 根拠のない自信(とりあえず声大きい、意味なく微笑んでいる) 安心感 パワポが見やすい(文字大きく、色合いに一貫性)
自分でやるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> 相手の知識、特性に合わせた説明レベル 論理的説明 主張の整理(絞る) 時間厳守 	<ul style="list-style-type: none"> 場数を踏む(経験値up) 	<ul style="list-style-type: none"> 他人のプレゼンの分析・評価 (ただ聴衆としてみるだけでなく、自分へのフィードバックを常に意識) (そして上記からのお〜)実践 	<ul style="list-style-type: none"> 練習と推敲 pptは紙にだして持ち歩き赤ペンで直す、パソコンで推敲はしない ひたすらMP3プレーヤーに録音して聞きまくる プツツ言う 人のプレゼンを研究する(良いところはまね、悪いところは排除する) 広告やCM、看板をよく観察する
他力が必要と感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 録画 アンケートでの遺慮無しコメント 質問と受け答えの時間 スライドダメだし(改善提案) 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人のプレゼンを見る 自分のプレゼンに対する意見・質疑をしてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> 人に見て貰う 	<ul style="list-style-type: none"> 嫁に見てもらい意見をもらう 会社においては「頑張ってる」と言われるまで上司に見てもらおうこと→会社で叩かれ切ると、外の会場は度胸がすわる 講演とかを数人で聴きに行き、今のどう思う？と話し合う 「良い」「悪い」と行ってくれた人に「具体的にどこが良いのか(悪いのか)?」しつこく掘り下げて聞く
その他、感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> よいプレゼン講座 などの外部講座があっても良いのかもしれないね 評価の仕方をもっと明確にできるならしてもいいのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> パワポの見易さも大切だが、話し方が重要なファクターのような気がした。 	<ul style="list-style-type: none"> いつもお客様からの目線で スライドはあくまでツール 時には根拠のない自信も必要 	<ul style="list-style-type: none"> 同じpptを違う人がしゃべっても何故か評価が違う... なぜだろう 人柄というものは数値化できないのか? ネットで「プレゼン」「上達」とうで探すと暇つぶしになります 最初の一声が成功の鍵を握る。プレゼンはカラオケと同じで自分の持ち歌を歌うようなもの。「すみません」「中途半端ですが」「緊張してます」は一緒にカラオケBOXに来た人のワクワク感を削ぐ どんなに歌が下手でも途中で「やめろ」と言われないのと同じでプレゼンも同じ途中で途中で止めたくなっても何とか向こう岸までたどり着く努力をする この人大丈夫かな?と思われないように気をつける 自分オリジナルはなく、ほとんどが後から身に付いたもの。大半は人のプレゼンの解析で上達する(はず) それでもひと握りのプレゼンの天才はいると思います
誰のどこが良かったか	<ul style="list-style-type: none"> 田中さん: ともかく熱意が伝わりました。 杉山さん: 落ち着いたプレゼンで安定感があります。 藤井さん: 見たことないダイナミックなプレゼンでした。 瀧川さん: スライドデザインがいいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物を出されると一気に心を奪い取られる(田中さんの受話器、杉山さんのチョコレート) 流行り言葉や俗語を組み入れると親しみがわく(金丸さんの「ドボジョ」、田中さんの「君に届け」、藤井さんの「倍返し」) ハブニングが時に聴衆の集中力を上げる(河邊さんの「全部出ちゃってる...」) 	<ul style="list-style-type: none"> 杉山さんの、衣装 中村さんの、隠しボタン 山本さんの、写真 吉田さんの、家系図 小野寺さんの、年収と体重の相関 河辺さんの、パッと見、技術トけ離れた内容 金丸さんの、忙しい1日の円グラフ 	<ul style="list-style-type: none"> 伊藤さん: 声の大きいところ トップバッター(先鋒)に適任! 瀧川さん・丸山さん: ppt色使いのセンスの良さ絵が威張っていない 田中さん: 意外性(隠しアイコン) インタラクティブ 杉山さん: 笑顔、落ち着き、安定感、現場と日常 安力川さん: じっと聞き入ってしまう(量化が難しい)

<p>すごいプレゼンとは (簡潔に)</p>	<p>9 吉田</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間を忘れさせる 体験した気になる 疑問点が発生しない 	<p>10 小野寺</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体を通じたメッセージ性 起承転結・序破急という使い古たかのような構成はやはり大切 	<p>11 昆野</p> <ul style="list-style-type: none"> 目を引く仕掛け もっと聞きたくなる内容 インタラクティブ性 	<p>12 高橋</p> <ul style="list-style-type: none"> 最終目標点に向かってプレゼンに話を展開できる 聴講者との対話をしながら臨機応変に対応できる
<p>自分でやるべきこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 慣れ 資料作りをもっと勉強する 時間配分を考える 緊張しない 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を測った練習、スタンディングで スライドを観ずとも話せる程度の自己プレゼンの熟知 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手のことを考える 楽しくする 小道具や服装のアイデアもあったが面倒がらずやる 	<ul style="list-style-type: none"> 構成は常にはじめての聞く聴衆の気持ちで作成する。相手を引き込むプレゼンができる。 新しい環境では常にPPの動作確認を実施する。操作ではなくプレゼンに集中することができる。PPの場合、一つのシートで一つずつ疑問を解決するように作成する。
<p>他力が必要と感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 率直な意見感想を行ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の反応、目線の確認 忌憚なきコメント 	<ul style="list-style-type: none"> コメントを貰う 確かな運営(力強い司会・強制終了など) 	<ul style="list-style-type: none"> 目の前でうなずきながら聞いてくれる聴講者がいるとがんばれる。他人のプレゼンを聞くときはしっかり聞こうと思う。
<p>その他、感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンは普段、行う機会が少ないので、緊張して、うまくできませんでした。 皆さん、本当にプレゼンが上手で関心しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 質疑応答は、やっぱりあった方が良い 質疑応答、双方向対話があつたのプレゼンだと思います 質問力も大切 	<ul style="list-style-type: none"> 予め見てもら前提かどうかハッキリさせるパターンも試したい アイスブレイクが案外楽しかった 限定で質問タイム作る(例:直前直後の人が1回ずつ等)はどうか? 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で内容を修正していくうちにPPの内容を見てもわからなくなることもある。そのさじ加減が難しいと思う。 プレゼンの評価とはことなるが、資料の作成方法は大きく分けて次の二つがある。①目標を決めてトップダウンで作成する方法、②目次を決めてからボトムアップで作成する方法である。でも、結構、似た様な資料ができる。 個人的にはトップバッターがいい。前のプレゼンがあまりにも良くすると心が折れる。トップバッターはこれからのプレゼンの評価基準になるので平均的な結果しかない可能性がある。
<p>誰のどこが良かったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小野寺さんの収入グラフをまじめな話の間に入れて紹介していた点がとても楽しく良いと思いました。 杉山さんの角の処理の見本をチョコレート形で表したものが素晴らしいと思いました。 田中さんの固定電話の受話器のようなヘッドセット?を見せて頂いたのが大変、面白かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> 松田さん・佐藤さん、時系列のストーリーは、わかりやすいし、感情移入しやすい気がしていいですね。 中村さん・田中さん、やっぱりプレゼンに、写真の直訴力は圧倒的強いと思った。言葉を尽くしても、写真にかなわないことも多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> 田中さん> とにかく楽しいスライドでした。自身のお仕事が好きだからこそ熱くなれるのだと分かりました。聴衆に3択を提示するなど、インタラクティブな仕掛けも良い工夫です。 山本さん> 取扱説明書という切り口が斬新でした。楽しんでもらいたいと工夫した結果が良く出ています。ご自身の真面目さ、マメさと相まって完成度(成熟度)はナンバーワンと思っています。 杉山さん> 自信が感じられました。内容も技術者の心をつかむものであったと思います。実際の商品サンプルも説得力や興味を増す好材料です。製品のことももちろんですが、もっと色々な話を聞きたいですね。 藤井さん> 随所のアニメーションが素晴らしいです。藤井さんのトークベースは個人的にとっても良いと思っています。 田角さん> 写真活用で言えば一番と思います。安定感があり、今度は講義など、別の内容で聞きたいです。 安力川さん> 雰囲気作りがうまいです。笑いや関心の集め方は、内容だけでなく、ご本人のキャラクターの良さです。 金丸さん> ドボジョライフ面白いです。グラフはああ使うのかと気づかれました。安定感があり、もっと長尺で聞きたいと思いました。 伊藤さん> かつこいいという印象です。伝わりやすいトーク、メリハリの良さが印象的です。トップバッター有難うございました。 	<ul style="list-style-type: none"> 藤井さんのppの話題の切り替えとはやりの言葉で締めくくった点 杉山さんの聴衆に質問して回答を聞きあえて話さない点

	13 松田	14 河辺	15 丸山	16 瀬川
すごいプレゼンとは (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の世界に引き寄せる 相手側の意識を変える 	<ul style="list-style-type: none"> ストーリー性 意外性 一体感 	<ul style="list-style-type: none"> ワクワク感 わかりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を話に引き込ませることができる。 説得力がある。 場の雰囲気に応じた話し方ができる。 内容にメリハリがある。
自分でやるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい事を明確にする 情報を詰め込み過ぎない 	<ul style="list-style-type: none"> 慣れ あがり症の解消 	<ul style="list-style-type: none"> 練習 慣れ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉で伝えられるようになるまで練習すること(丸暗記は×、原稿を読むつもりで行ったらさらにアウト)。 あらかじめ時間配分に応じた無理のない構成を綿密に練ること。
他力が必要と感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 場の雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> ダメ出しをしてもらう いいところと悪いところを言ってもらう プレゼンの講習を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> レビューをもらう。 内容が伝わっているかの確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ダメ出し(声の大きさ、話すスピードなど)。 共感してもらえた部分の確認。
その他、感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 自信を持って話すことは大事 興味の引くネタを入れることも必要 	<ul style="list-style-type: none"> 人のいいところを参考にして自分のものにした プレゼン内容が最悪だったかな…。自分だけの満足感のプレゼンだった。 感想 皆さん各個人の個性のプレゼンをされていてとてもよかったです。参考になりました。またこのような企画を希望します。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務と自己紹介のプレゼンは少し違うのでは、と 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人のプレゼンを見て圧倒され自分のプレゼンを忘れないように注意。 笑顔で話す。 人前で話すことに慣れること(機会があれば逃げずに参加)。
誰のどこが良かったか	<ul style="list-style-type: none"> 田中さんの隠しパワポ 山本さんのSPEC紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 山本さん:プレゼンが他の人と違ってすごく良かった。 田中さん:パワーポイントの使い方、ストーリー性が参考になった。 伊藤さん:話し方やストーリー性が良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 田中さんの3つの選択は楽しかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> 山本さん→取扱説明書という独自の視点 田中さん→聴衆をとことん楽しませてくれたところ 杉山さん→すてきな笑顔と聞きやすい話し方 金丸さん→バランスよく「自己紹介」しつつ、強いインパクトを残したところ。

	17 村崎	18 藤井	19 田中
すごいプレゼンとは (簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔さ、分かりやすさ 興味を引く 聴講者とのコミュニケーション(一方的にならない) 	<ul style="list-style-type: none"> 頭に思い描いていることをスライドに表現し、スライドを見ずにプレゼンする ストーリー性があり、言いたいことが伝わる どんな質問にも答えられるよう準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> インタラクティブである 聴き手の反応をくみ取る 聴き手のレベルに合わせる その人らしさがある 内容にゆとりがある
自分でやるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> 練習 聴講予定者を想定した組立 	<ul style="list-style-type: none"> 練習(セミナーに参加するなど) 場の雰囲気への慣れ(緊張しやすいため) メッセージは、1スライド1ワードで表現する ターゲット(聞く側)のレベルを事前に把握し、練習する 	<ul style="list-style-type: none"> とにかく練習&イメトレ 原稿は完璧に暗記 誤差なく時間通りに終われるように 前日は頭が冴えて寝れなくなるくらい けど、当日は練習通りにやらない
他力が必要と感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> ダメだし等のレビュー 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンで尊敬できる人にレビューをってもらい、レビューを行いダメ出しを受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 反応してくれー ついてこーい
その他、感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> 発表から各人の個性を強く感じ取れ、面白かった 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンは、初めのほうが良い。 なぜなら、同じことを発表する場合先に話したほうが、予定通りプレゼンできるが 同じ内容を前者が発表すると、プレゼンの仕方を変えないといけなくなるため。 読ませる資料なのか、見せる資料なのかを考えて、プレゼンの準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> トップバッターがいい 会場を俺色にしてやるぜ 構成や論理的が成り立っていることは技術士なら当たり前 そのうえで+α(ネタ、オリジナリティ、その人らしさ)の魅力的な要素を入れてあることが大事
誰のどこが良かったか	<ul style="list-style-type: none"> 佐藤さんのまとまりの良さ、地図表示等のアニメーションなどの分かりやすさ、個人的に一番お手本にさせて頂きたいと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 山本さん テーマがはっきりしており、すぐに理解できるプレゼン資料でした 田中さん インパクトのあるプレゼンでした。会社でするには、かなり勇気がいりますがよかったです。 杉山さん 衣装です。意図してないと思いますが、制服を着るとプレゼンの印象も変わると思いました。 伊藤さん プレゼンの話の進め方がとても自然で聞きやすく、会話しているような印象を受けました。 	<ul style="list-style-type: none"> 瀧川さんのタイトルと聴き手にレベルを合わせた内容:「やっぱり下水道が好き」という一般女性の口からはとても出てこないであろうタイトルでインパクトがあります。単に「やっぱり猫が好き」とかだけタイトルと思いきや、内容もちゃんとタイトルに沿っていた点も素晴らしい!素人にも通じる下水道の楽しみ方もGOOD!これからはマンホールの蓋が気になって仕方ない!! 金丸さんのドボジョらしさ:ドボジョというキーワードは知らなかったのでも印象に残りました。ドボジョを代表した金丸さんの苦労話、いかに女性らしさを保とうとしているか、知らない世界を垣間見れたようで知的好奇心を満足させてもらいました! 丸山さんのタイトルと内容のギャップ:「自己紹介は苦手です」という元も子もないネガティブなタイトルでしたが、内容はとても前向きでポジティブであり、ネガティブポジティブというふり幅の大きさに心動かされました。ときどき大胆という意外性もGOOD! 山本さんのコンセプト:取説というコンセプトはとてもユニークですね!よく色々なたとえ話をなされる山本さんらしさが出ていました。管理人が奥さんというオチもとても面白かったです。が、事前に資料を読んでいたでネタばれでした^^; 伊藤さんの話し方:早口なのですが、それを感じさせないはっきりとした口調、かつ共感を得ようとする話し方、とても聞きやすかったです。真似できません。 小野寺さんのストーリー性:一見ばらばらの話題のようですが、全体にストーリーがありつながっているのでも理解しやすいです。 藤井さんのプレゼン:うまいことはすでに知っています。とても落ち着きがあって、話が論理的で明快。お手本のようなプレゼンです。ポイント、ポイントでネタが盛り込まれている点も良いですすねえ 松田さんのタイトル:「色々な事情」。色とかかってたんですね!事前に資料を確認した段階では気がつきませんでした!色と化学の関係が興味深かったです。色が見える原理は、私の電波が見える原理と同じでしたb 吉田さんの家系図:狙ってやっているのかわかりませんが、こういう笑いはとても好きです。シュールで真面目なんだけど、面白い! 田角さんの資料:写真の使い方がとても良いです。水のイメージと調和した綺麗で可愛い資料でした。 安力川さんの独特な雰囲気:制限時間を過ぎても気にしない物怖じのなさ。真似できませんw 杉山さんの衣装!と笑顔^^:完敗です!!

行事名	第40回 技術士全国大会 青年イベント
日時	2013年10月5(土)~6(日)+α7(月)
場所	札幌市民ホール第一会議室(札幌市中央区北1条西一丁目) 他
担当者: (○印:リーダー)	○山本 田中 中村 安力川 瀧川 金丸 小野寺 村崎 松田 (記は分担)
参加者数	統括本部からの参加人数9名

1. 背景

技術士会のイベントである全国大会に参加し全国各地の技術士と交流を深める。

2. イベント内容

2. 1. 青年技術士交流会議(10:00~11:45)@札幌市民ホール(42人参加)

北海道本部から依頼を受けて、山本が本セッションの企画&司会を担当した。

会のスタイルについては、地域本部の代表が活動内容の発表後、聴衆が質疑応答する流れで実施。(北海道本部の名物企画「学校に行こう」のコンセプトを参考にさせていただき、発表者を教師、聴衆を生徒と仮定した)

進め方については、各本部の「できていること(強み)」「できていないこと(課題や弱み)」をキーワード化し、司会がホワイトボードに貼付けてグルーピングする手法を用い、参加者全員の共通認識を導き出した。多かった課題としては「会員層の拡大」「知名度向上」「距離の制約」等が挙げられた。

結果、今回の課題の真因の一つとして「長期的な計画の必要性」が考えられ、以下を出席者の共通認識としてまとめにつなげた。「私たちは科学技術の専門家で、今後の日本のものづくりを活性化させ、技術士会ひいては魅力的な青年委員会にするには、10年後を見据えた綿密な活動方針と計画の立案(担当の割振り)をおこなってゆく」

(山本記)

2. 2. 青年技術士の集い(13:30~16:30) @札幌市民ホール(73人参加)

「技術士の知名度を如何にして向上させるか」という題にて、ワールドカフェ形式にてグループワークおよび発表を行った。ワールドカフェは、創造的なアイデアや知識を生み出したり、互いの理解を深めたりすることができる可能性を秘めた話し合いの手法である。題の議論過程における相互理解・気づきについては、大いに促進されたと感じている。ただし、難題であることもあり画期的結論を得ることは叶わなかったが、ワールドカフェ方式の効果は必ずしも結論に求めるものではなく、上述過程にて得られるものである点については改めて強く認識したい。

相互の共通点探しによる自己紹介タイム、名前を呼び合っのキャッチボールゲームといった、工夫されたアイスブレイクによって、メンバーの相互認識が効率的に行われたことは、今後の総括本部でのイベント企画においても参考となった。さらに、上題議論に先立ち、各本部の青年活動取り組みの事例についてのインプットタイムがあったことは、その後の議論の下地となり加速剤となった一方、各グループ討論内容の平準化に繋がった点も、今後の企画に向けて留意しておきたい。

(安力川・小野寺記)

2. 3. 青年懇親会(18:00~:) @海鮮バイキング難陀(76人参加?)

懇親会会場は地元密着型の海鮮居酒屋で行われた。参加者は大人数ということもあり、テーブルごとの乾杯でスタートした。会場はバイキング形式であった。そのため人の動きが活発になり、多くの人との交流が出来た。料理もバイキングとは思えない程のレベルの高さであり、「さすが北海道」といったところ。北の幸を満喫し、二次会への流れもスムーズであった。

(中村・瀧川記)

2. 4. 青年懇親会(18:00~:) @星空第二食堂(65人参加)

二次会以降は地元のバースタイルの店舗で、貸し切りにて実施された。1次会からの急な参加者が多数いたもの

の、北海道本部メンバーの十分な下準備やすばらしい幹事能力より、希望者全員がスムーズに会場入りする事ができた。一次会とは違い、メンバー同士の距離が近く話しやすい雰囲気があった。また、席替えも頻繁に行われた。これらの影響もあり、参加者間での交流が活発に行われ「全国大会の懇親会」に相応しい会であったと強く感じた。

(村崎記)

2. 5. テクノツーリズム @小樽(45人参加)

[行程]

バス組: 札幌駅→おたるみなと資料館→奥沢水源地→鯉御殿→小樽市総合博物館

徒歩組: 札幌駅→おたるみなと資料館→旧日本銀行小樽支店→小樽運河→小樽市総合博物館

[工夫していた点など]

<バス組>

- ・バスの中で事前講義、その後実地見学という効率の良いスタイル。
- ・通常では見学できないところの見学。そして、通常では見学できないということのアピール。
- ・それぞれのイベントが繋がっているというツアー全体の流れ:
 - 小樽が鯉漁で栄えたことをバスの中で座学→昼ご飯は鯉→鯉漁で建てた鯉御殿の見学という流れ。
 - 奥沢水源地そばにある完全天然浄水場の緩速ろ過池の見学→バスの中でのビンゴ大会でその浄水場でろ過した水が景品になっているという流れ。
 - ・奥沢水源地は、実は元・奥沢ダムだったというサプライズ。奥沢ダムは欠陥が見つかったためリスクマネジメントにより決壊させたという、技術的にも興味深いダムであった。行程表からは読み取れないサプライズである。
 - ・ガイドがその筋の第一人者であること:小樽全般については大学の教授、奥沢水源地については奥沢ダムの決壊を決行した責任者の方。

<徒歩組>

- ・北海道建築士会の方(2名のうち1名が小樽市役所の方)が同行し、長谷川さんの説明を加えながら堺町散策。
- ・担当の長谷川さんの解説は、すごく勉強されていて本当に素晴らしかった。
- ・北菓楼から出発し、旧日本銀行小樽支店までを、解説を聞きつつある予定だったようだが、早々にバラバラになってしまい、一部の方が説明をしっかりと聞き、その他は迷子になりつつ移動するだけになってしまった。
- ・途中、飛行機の関係でバラバラと離脱者がいたため、人力車の手配やレンタカーの手配をしており、個々の細かい対応を実施。ただ、あれだけ細かい対応をすると、かなり費用がかさんだのではないだろうか?ある程度、割り切って、時間帯でまとめて対応しても良い気がした。
- ・昼食は、人数が多い割に予約をしている気配がなく(予約していたのかもしれませんが)、小樽運河食堂という飲食店が集まっている箇所、空いているところに入る、といった感じ。ここは、もう少し準備が必要に感じたところ。
- ・小樽運河クルーズは、本来コースを往復するのが基本のところ、交渉して片道コースにアレンジしており、短時間で多くの見学ができるよう配慮されていた。

<合流後>

- ・小樽市総合博物館では、館長自らが館内を案内。
- ・国内に現存する最古の機関車庫(重要文化財に指定)を見学。熱を持った石炭を積む汽車を重要文化財に入れるという、本来なら許可が出ない利用方法だが、当時と同じ使い方をすることで特別に許可を得ているとのこと。
- ・SLに乗車し、回転台で旋回する様子を見学。
- ・中心部から少し離れた場所に位置するが、運河クルーズを片道にすることで、うまく全体のコースをまとめていた。
- ・帰り途中のバスの中では、ビンゴゲームと北海道ご当地クイズを組み合わせ、クイズに正解すると、自分の希望する番号が選べるというシステムでゲームを実施。社内も飽きさせない工夫をしていた。
- ・田中酒造亀甲蔵では、試飲を楽しめ、お土産を購入することもでき、空港に向かう前の最後の立ち寄りとしてよかった。

(田中・金丸記)

2. 6. ドボクツーリズム @夕張(松田、瀧川、金丸、中村、村崎、小野寺、安力川、田中)

[行程]

夕張石炭博物館 → メロン城 → シューパロダム(管理事務所) → 三弦橋 → 千歳空港

夕張市のシューパロ湖に架かる、三弦トラス鉄道橋「三弦橋」は、1962年に完成した大夕張ダムによって、森林鉄道が水没してしまうため、その移設補償として北海道開発局により建設された。ところが、1981年の台風で石狩川流域が浸水し、これを機に新たな治水ダムの計画がなされ、多目的ダムとなるシューパロダムの建設が開始された。

来年の3月から稼働が開始されるシューパロダムにより、従来の大夕張ダムから水位が上昇するため、この三弦橋は水没してしまう。ドボクツーリズムでは見納め間近の三弦橋見物のため、現地を訪れた。現在は立ち入りが制限され、事前予約をしないと三弦橋近辺へ行くことができなかったため、管理事務所の担当者に話を伺った。

三弦橋は、日本初の三弦構造をもつ鉄道橋で、木材を輸送する目的で建設された。三弦橋は、断面が三角形の形をしているのが特徴で、工事費用削減と、景観への配慮があったとされている。四角い橋に比べ軽く、重心を低くすることで、安定させることにもつながった珍しい橋である。

[反省点]

- ・とにかく事前調査が不足していた。
- ・石炭博物館は月曜休館で見学できず。
- ・メロン城は売却され消滅しており見学できず。
- ・三弦橋は申し込みで見学可能であったが、前日までの申し込みが必要で見学できず。

[成果]

- ・シューパロダムの管理事務局でビデオを2本みせていただく。大夕張ダムをシューパロダムに拡張する所以(洪水防止のため、等)がよく解った。
- ・安力川委員の石炭解説、金丸委員の土木解説はたいへん有意義であった。
- ・親睦が深まった。
- ・土木や、ダム建設の背景を知るよい機会となった。

(田中・松田記)

3. 成果と所感

(山本) 技術士会の中で青年委員会の立ち位置、統括本部の存在意義を改めて実感した。

(田中) 知名度向上を目的とするのではなく、いかに社会貢献するかが重要だと感じた。知名度は結果的に上がればよい。

(安力川) 全国で多くの青年委員が活発に活動されていることを実感した。

(瀧川) 各地域本部の利点や欠点は様々。集約化し、活かせる体制作りが必要だと感じた

(金丸) 各支部で活動の内容が異なるため、統括と支部相互の情報共有が図れるとよいと感じた。

(小野寺) 地理的な差異は小さく、各地で青年委員会の存在意義を確立し、活発なアウトプットを認識した。

(村崎) 技術士会全体に置ける青年委員会の意義や役割について、活動の歴史や具体的な議論を通し、認識する事が出来た。

(松田) 年に一度、各地の委員との交流を図ることで、刺激をもらいモチベーションアップに繋がった。

4. 今後の展開

(山本) 10年後の青年委員会を意識してこの2年間活動してゆく。

(田中) うちに閉じた活動だけでなく、技術士会の枠を飛び出した社会にも活動の範囲を広げる。

(安力川) 技術士の地位向上に向けた活動を行っていく。

(瀧川) 統括本部を主体とする地域本部の欠点補完体制をつくり、青年委員会全体での底上げを図る。

(金丸) 各支部での活動の良いところ、悪いところを統括本部にも取り入れられるとよい。

(小野寺) 単発型ではなく、PDCA型スパイラルアップの発展を期待しつつ、自らの一助を目指す。

(村崎) 技術士や一般の方々に正のスパイラルを与えられる+αの交流会を意識し、企画を立案していく。

(松田) 各地の青年委員とのコミュニケーションを活発にしていく。

以上



統括本部山本委員長の司会



地域本部の活動紹介の一例(四国本部小笠原委員長)



活動報告から抽出されたキーワード



午前の部集合写真(約 50 名参加)



午後の議論



午後、各グループの議論内容の発表

行事名	ブリヂストン TODAY 見学会
日時	2013年11月16日(土)14時00分～16時00分
場所	ブリヂストン TODAY (ブリヂストン東京工場内)
講師、発表者	株式会社ブリヂストン 峯尾啓司 様 (取締役・ITネットワーク本部長・技術士[経営工学部門])
担当者: (○印:リーダー)	○吉田、杉山、鳶田
参加者数	33名(内委員8名、委員補佐4名)

1. 背景・目的

高度に発展した社会は、様々な技術に支えられている。技術は、我々の身の回りにあり、とても身近なものである。そのような身近な技術の一つ、ゴムやタイヤの技術について様々な展示が行われているコーポレートミュージアム「ブリヂストン TODAY」。この施設を見学する事により、身近に使われている技術を学び、参加者の技術力向上と参加者相互の交流、参加者と協力企業の交流を深めて行く事を目的とし、(株)ブリヂストン殿の協力を頂き、会議室を飛び出した見学会として、本施設の見学を企画した。

2. 活動内容

この例会は、2部構成となっており、最初に、株式会社ブリヂストンの峯尾様による「ブリヂストンの IT グローバル展開」について講演を行って頂いた。

講演の後は、ブリヂストン TODAY(企業内博物館)へ移動し、展示物をブリヂストン殿説明員の案内で見学した。見学内容は、1階が、「タイヤの基礎知識コーナー」と「モータースポーツのコーナー」、2階が「タイヤの生産コーナー」と「環境への取組みコーナー」、地下1Fは、免震見学コーナーとなっていた。

例会全体のスケジュールは下記の通りである。

- 13:00 西武小川駅 現地スタッフ(委員・委員補佐)集合
- 13:45 西武小川駅 一般参加者集合
- 14:00 (株)ブリヂストン東京工場入場
- 14:10 委員長より青年委員会の紹介
- 14:20 (株)ブリヂストン 峯尾 様 講演 「ブリヂストンの IT グローバル展開」
- 14:45 ブリヂストン TODAY 見学
- 15:50 主催者挨拶・解散
- 16:00 ブリヂストン TODAY 内自由見学(16:30 まで)
- 17:00 懇親会(国分寺「天」)

3. 成果と所感

講演会では、(株)ブリヂストンの峯尾様より、経営工学に基づいた講演を行って頂き、参加者も熱心に受講しているように見受けられた。現役の大企業の経営者でもあり、業界の現状や今後の展望について、周辺諸国の動向や需要を独自に収集したデータを元に、世界規模での経営戦略をどのように展開していくか、貴重な話を聴講することができた。

ブリヂストン TODAY 内の見学も、参加者は、熱心に見学している様子で、説明員の方に対しても、多く質問をしている様子が見られた。タイヤやゴム等に関連する技術部門の方には、直接、勉強になる内容であったと思う。又、タイヤやゴムに直接関連のない技術部門の方にも、技術的な感性を刺激する成果はあったと思う。皆で技術を学ぶという目的は果たせたと考えている。

しかし、得られた成果はあったと確信しているが、反省点もいくつかあった。以下に本例会の反省点を挙げる。

- ① ブリヂストン TODAY は企業内博物館であるが、工場と誤って、生産設備を見学できる事を期待して参加された方も何名かいた。会員からの期待の高さに答えるべく、企画立案をしていきたい。
- ② 集合場所での待ち時間中、参加して頂いた方に対する配慮が欠けていた。待ち時間中も青年委員会らしい対応をできるように委員間で意識すべきであった。
- ③ ブリヂストン殿との打合せが足りず、参加者の入場場所、方法が急遽変更になり、多少、混乱した。

上記以外にも反省点はあるが、大きな反省点としては上記3点であるとする。

4. 今後の展開

青年技術士交流実行委員会の企画として、技術士会の会議室以外で行う例会は少ないようであるが、昨年の工場見学に続き、今回、企業内博物館の見学ができたので、今後も、同種の企画を検討すべきだと考える。

講義を受講する事も技術レベルを引き上げるには、必要と思うが、実物を見ながら、技術的な説明を受ける方がインパクトは強い、だから、工場、施設、博物館等、目で見て体験できる例会の企画を今後も検討し続ける必要があると思う。

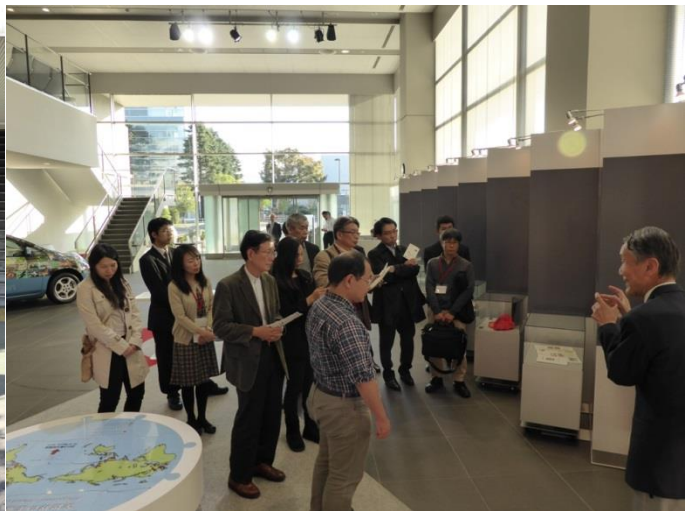
但し、このような見学会の場合、見学場所を提供して頂ける企業を探すのが難しい事が今回、体験できた。一般に公開している企業以外の場合、相当なコネクションが必要である。委員や委員補佐の人脈を広げ、様々な立場の方々と交流を広げていく必要があると思う。又、例会開催が土曜日という事も工場見学、施設見学を提供して頂ける企業を制限していると感じた。今後、平日の開催という事も視野に入れる必要があると考える。

今回の見学会では、次回開催に向けての課題が見つかることができた。課題を元に次回の開催に向け入念に準備をし、参加者にとって有意義な見学会を計画していきたい。

— 以上 —
【記: 吉田 清一】



[写真1] 集合場所の様子



[写真2] 見学の様子



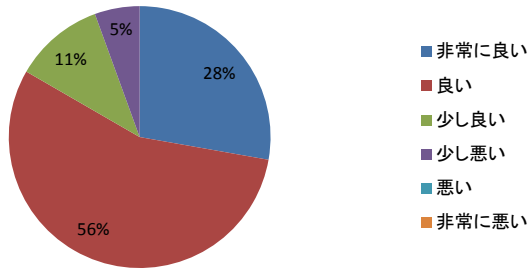
[写真3] ロビーにて集合写真



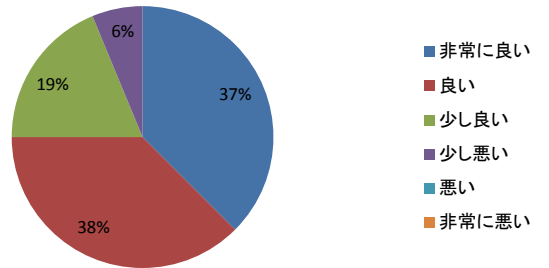
[写真4] 懇親会の様子

[外部アンケート結果]

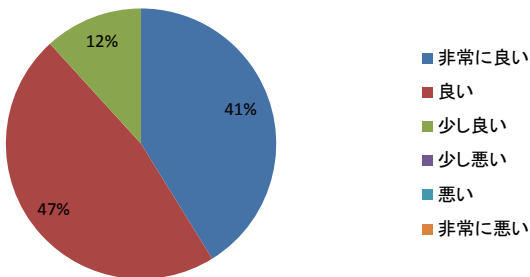
Q1 講演内容について



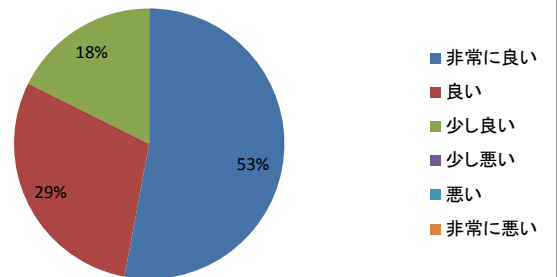
Q2 見学会の内容について



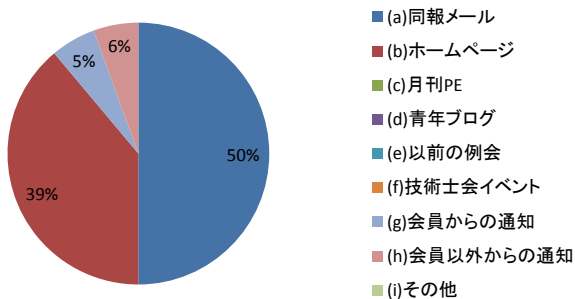
Q3 例会前の運営スタッフの準備について



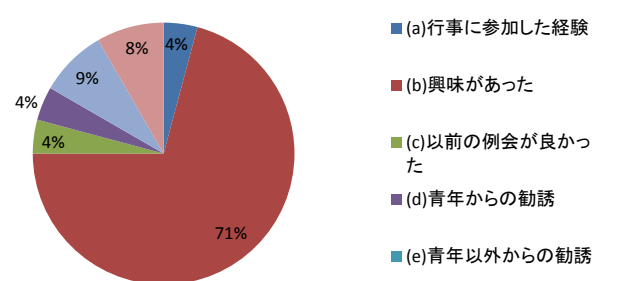
Q4 例会中の運営スタッフの対応について



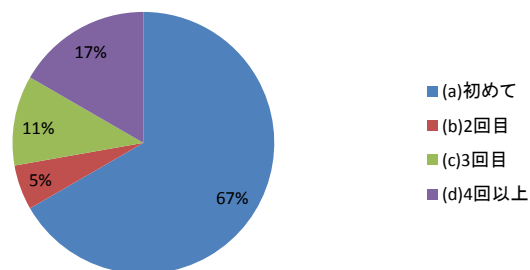
Q5 例会をどのように知ったか?



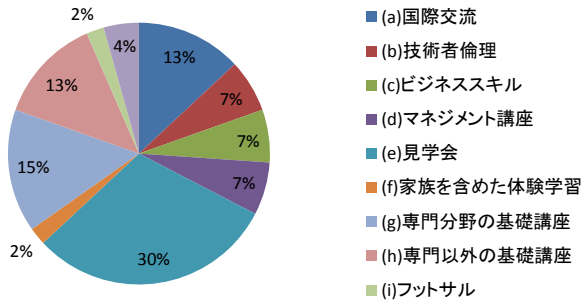
Q6 参加理由



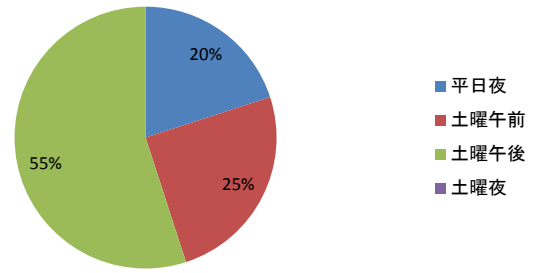
Q7 青年の例会参加回数



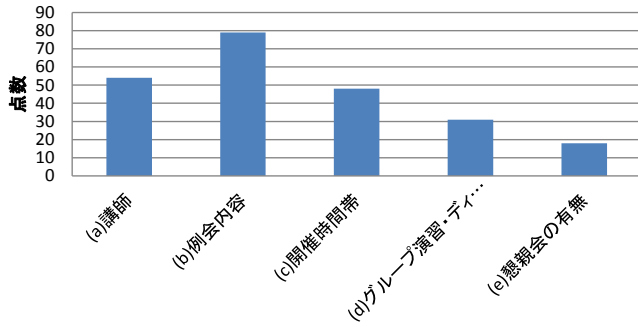
Q9 今後参加したい例会



Q10 例会開催の時間帯



Q11 順位



行事名	12月例会:国際交流と委員会中間報告会
日時	2013年12月14日
場所	葦手第二ビル AB会議室
講師、発表者	発表者:青年委員
担当者: (○印:リーダー)	○高橋(記)、野口、昆野、中村
参加者数	34名(CAFEO参加者3名、青年委員17名含む)

1. 背景・目的

今回の定例会の目的は青年技術交流実行委員会の中心とも言える国際交流活動の報告を行うことで若手の技術士のグローバルな思考・視点の成長の一環とすることである。また、青年技術士交流実行委員会の活動の中間報告を行い、活動の目的・意図を委員自身が再確認するとともに、多くの技術士に青年技術士交流実行委員会の活動を周知し交流の場を広げることも一つの目的である。

2. 例会内容

2. 1. 例会スケジュール

- ①開会挨拶(高橋委員補佐)
- ②青年技術士交流実行委員会活動報告(山本委員長)
- ③例会グループ活動報告(金丸委員)
- ④広報ITグループ活動報告(山本委員長)
- ⑤国際グループ活動報告(太田委員)
- ⑥日韓技術士国際会議参加報告(高橋委員補佐)
- ⑦CAFEO参加報告(小池さん)
- ⑧演武(園家さん、昆野委員補佐)
- ⑨パネルディスカッション(司会:佐藤委員、パネラ:安力川委員、坂東さん、小池さん、園家さん、昆野委員補佐、高橋委員補佐)
- ⑩委員長講評(山本委員長)

2. 1. 青年委員会の中間報告

・担当者から青年技術士交流実行委員会、例会G、広報ITG、国際Gの活動報告を行った。

2. 2. 国際交流報告

(1)日韓技術士国際会議参加報告

・10月17日から19日に韓国水原市で開催された日韓技術士国際会議の参加報告を行った。

(2)CAFEO参加報告

・11月10日から13日にインドネシアのジャカルタで開催されたCAFEOの参加報告を行った。

(3)演武

・CAFEOで実際に行った演武や阿波踊りを披露した。

(4)パネルディスカッション

・日韓技術士国際会議参加報告およびCAFEO参加報告から青年技術士交流実行委員会としての国際交流はどのような姿であるべきかを中心にディスカッションを行った。

・CAFEOやYEAFFEOの参加から一足飛びにビジネスへの飛躍は難しいかもしれない。青年技術士交流実行委員会の名にもあるように、まずは「交流」を主軸とした二国間交流への発展を目指していきたい。そのため、今回のCAFEO参加時には青年委員長から各国代表者宛の親書を送っている。

・また、交流先は日本の技術を習得したいと考えているため、技術士としての技術力を常に磨き続けることが重要であり、有言実行をモットーに委員会の活動を続けていくべきである。

<Q&A>

Q:日韓の基調講演で「科学技術時代の到来による創造経済活性化と経済主体の役割」とあったが、財閥中心の韓国経済において技術士の役割をどのように感じたか。

A:韓国では技術士に対する地位や認知度が高いと感じた。

Q:ビジネスへ繋げるためにはCAFEOへの参加も必要であるとの意見があったが、国内での意見は統一されているか。

A:統一はされていないが、CAFEO と YEA FEO の不足している部分を補ってより効果的な国際交流を行っていく必要がある。

Q:ビジネスへ繋げるためには何が必要か。

A:ビジネスへ直結するような具体的な提案が必要である。また、口だけで行動を伴わないような発言を避けることが重要である。

Q:CAFEO で日本刀等の演武があったが、問題意識はなかったか。

A:CAFEO 参加者でも議論を行い、少しでも不快な思いのする方がいるか直ぐに中止することは避けなかった。問題があれば、日本の文化であることを丁寧に説明することで回避したいと考えていた。

3. 成果と所感

- ・今回は CAFEO 参加直後ということもあり、参加者たちの熱い思いが会場に参加した方々に伝わり、CAFEO 参加報告およびパネルディスカッションは成功したと思う。ただし、参加者が少なく次回に繋がる成果を挙げるまでは難しかった。
- ・青年委員会の中間報告はグループ毎に資料を作成していたため、統一性がなく参加者に伝わりにくかったと思う。中間報告のあり方は再度検討する必要がある。
- ・事前の案内等のタイミングが遅かった。特に、2 回目の同報メールが前日であったため効果があまり感じられなかった。同報メールの配信は遅くとも 1 週間前に行う必要がある。
- ・会場の準備や設定等において、細かな点で不足している部分がかかりあった。

4. 今後の展開

- ・青年委員会としては、CAFEO での種まきが終了し、これから、まずは二国間交流を目指した活動を中心に行っていきたいと考えている。
- ・若い技術士や修習技術者への国際交流のアピールを継続的に行いたいと考えている。

5. 写真

- ・CAFEO の演武披露



- ・パネルディスカッションの風景



6. アンケート集計結果

(1) 内部アンケート

【反省点】カテゴリ分け			
項目	意見	原因	対策
企画に関して	・幹事(高橋さん、昆野さん)がパネリストになってしまったこと		・専属の司会者がいたほうがよかった。
	・冒頭が退屈すぎる点：一回目の休憩で帰っちゃった人がいました。。	・たぶん、つまらなかったんでしょうね。。 ・前半の講演で飽きたのか？	・盛り上がりすぎてきたところで休憩取った方が良かった。 ・興味を持ちそうな内容を、最初に匂わせておけば良かった。
	・スケジュールの前倒し。国際交流を目指してきたのに、ほとんど終わってる、、、という感じの方が数名いたのではないのでしょうか。 私の考えすぎかもしれませんが、終盤で入ってきた方が何名かいたので。	・国際報告の時間を狙ってはいってきたのではないのでしょうか？	・当日スケジュールの案内はしていた？
	・あがりすぎてた金丸の中間報告。人前で発表がどうも苦手であがりすぎました。途中で呼吸困難で倒れるかと思いました。		
	・各Grの報告がまとまりがなかった点(各Gでバラバラに作った感じがした)	・各Gの報告をバラバラに作成した。 ・事前にすり合わせをしなかった。	・青年委員の活動報告はG単位ではなく一括での報告でもよかった。 ・前半の青年の中間報告は、各Gでの内容調整をした方がいい。
	・パネラーの自己紹介にまとまりがなかった。 ・集客力は、「成果報告会」という名称かも、というご指摘はその通りなのかもしれませんが、ひとりずつでも心をつかむためのものを、、、	・事前にすり合わせをしなかった。 「国際交流活動報告会」というタイトルからして退屈そうである。	・あらかじめパネラーの簡単なプロフィールやバックグラウンドを記した紙を配るか？ ・魅力的なタイトルの設定。
準備	・今回、初めての参加でしたが、案内の内容から、あそこまで興味がある内容だと思っていませんでした。 もっとたくさんの人に聞いてもらい、次は参加したいと思ってもらえる機会になるといいと思います。 ・今回のディスカッションは、修習技術者、若手技術者が聞けばかなり刺激的だったと思うのですが...本当に紹介したい青年層(20~30代)に向けた必要がある。	・事前アナウンス不足	・アナウンス方法・内容の工夫。 ・例会の様子をYou Tubeでアップするなどして興味を持っている人にアピールする必要がある(かも)
	・参加者が少ない。特に・初参加者、若い参加者(青年層)が少なかった。 ・今回は、私も部会の若手の会MLに対して誘いのメールを出したりしたのですが、やっぱり単に「こんなのあるから来て下さいね～」だけではダメみたいです。	・二回目の同報メールが前日発射、というのは、あまりに遅すぎた感がある。年末のこの時期、週末に予定が空いている人は少ないと思われる。 ・キャンセルが出たことも知っているが、活動そのものの魅力が伝わっていないか？	・二回目の同報メールは、遅くとも1週間前が適当。 ・参加者が少ない場合は、青年メンバーが参加者として参加する、もあり。 ・参加者が少ない場合の集客方法を考える必要がある。
	・1週間という短い期間でしか議論できなかった	・準備期間不足？	・1回は、事前にフェイストゥフェイスで議論した方がよい。
	・skype 中継は、人とハードウェアに頼っていたので、継続性がないかも知れません。 場合によっては、選択肢に加えたいので、どう活かしているか、、、	・リソース不足	・人材はともかく、資機材の調達は予算的に難しいか？
	・パネリストの名前表示、受付の表示、名簿の整備、このあたりの細かいことの準備が不足していたと思います。 このあたりの基本動作は、経験者がサポートできるとよいなと思いました。	・例会Gおよび2期委員のフォロー不足	・名簿の整備 50音順で並べておく、ふりがなを振っておく、ドタ参の方に欄を作っておく、懇親会などのチェック欄を作っておくなど。 ・幹事がやるか、例会Gがやるか決めておいた方がよい？
	・幹事としてどこまで指示すべきか不明確だった。		・幹事の立場と役割の明確化。
受付	・受付の遅刻者対応方法：瀧川さんがずっと外でスタンバってくれました。		・欠席者、遅刻者は必ず出るものであり、仕方ない？しばらく(開始30分程度)スタンバった後、「遅れてきた方は直接中へお入りください」的な案内くらいか？
	・改善したい点というか、検討したい点ですが、申し込みの受け付け方法:		・行事予定表とメールの使い分け
	・前日に同報メールを流したのですが、4名も追加参加がありました。	・案内が直前過ぎた？	・これはタイミングが良かったというより、メールでの申し込みを受け付けたおかげのような気がします。(通常は基本的には行事予定表からの参加しか受け付けていない)
	・受付に青年委員会の会場だとはっきり分かるように案内を出したほうが良かったかも	・農業の人が誤って何人もこちらの受付に来た…。というより農業の方の案内がわかりづらかった？	・案内(張り紙)の実施
当日の委員の対応	・青年メンバーが阿波踊りを踊っていなかったこと	・委員会内部への事前連絡が十分で無かったため、心の準備ができなかった？	・事前(運営委員会の時など)に協力を強く要請する。
	・委員はホストのだけれど、今回のように参加者より委員が多いような場合、半分くらいの委員は参加者の振る舞ってよいのではないかと？ ・青年委員が座って一緒に聞いた方がいいのか、後ろに立っていた方がいいのか判断がつかなかった。 ・最初、委員がみんな立っていたのだけれど、部屋の大きさに比べてたくさんの方が立っていたので、威圧感が出てしまっていた。 ・参加者より立ち見の主催側の人数が多い光景は異様だった。	・当日の委員の居場所がはっきりしていなかった。	・席が空いていたので、後ろに座ったが、いっそ、係用の席と分けてもいいかもしれない。 その方が、主催側だとわかりやすい。 ・サクラとして参加者に加わる。
	・控室で準備中の委員が騒がしいときがあった。	・ホストとしての意識	・運営委員会時に注意喚起？
	・アンケートの回収率が低かったこと	・アンケート記入のお願い不足。 ・記入時間の確保不足。	・記入をもっと催促すればよかったか、アンケートの内容を工夫した方がよかったか ・参加者が帰る際に、受付側で再度案内、アンケート記載スペースを設ける配慮をすればよかった。 ・アンケート回収ボックスの設置または出口で委員が回収。
	・ちょっと食べ物が足りなかったかも。	・事前予測不足	・事前に頼んでも良いかと(今回ドタ参がおおかったので事前予測は難しいのも事実)

【良かった点】	
項目	ご意見
例会内容	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションという企画(盛り上がった) ・演武と阿波踊りの再現(盛り上がった) ・CAFEO報告者が若手であったこと(イケメンだったこと) ・小池さんプレゼンから現地での雰囲気がよく伝わった ・演武が盛り上がった ・演武と阿波踊り ・YAFEQ、日韓とも、充実した報告内容で盛りあがったこと ・パネルディスカッションというスタイルで、提言が出来たこと。 ・内容について「正直目標を達成できていない」と堂々と言えたこと。 ・演武・阿波踊りの再現は実地の雰囲気をいくらかお伝えできたと思う。 ・青年委員会の活動を改めて紹介できたこと ・YAFEQの報告に動きがあったこと(動画、演武、Skype) ・スライドのみにならないほうが、見る側も楽しいです。 ・例会全体に動きがあり、参加者を飽きさせなかったこと。(演武、パネルディスカッション) ・パネルディスカッションはうまくいったと思います。意見を持った方に発言して頂いて、会場からもパネリストからも建設的に議論が進んだとおもいます。 ・演舞の準備はうまくいったかなど。実際に演じられたお二人に感謝です。 ・パネルディスカッションが盛り上がった。 ・CAFEQの報告で演武や阿波踊りがあった。 ・演武と阿波踊りの実演があったこと(スライドだけでは静かになりがちだが、かなり盛り上がった)。
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・海外から安力川さんのSkype参加 ・高橋さんがパネリストに対して予めアンケートをとり、それをわかりやすくまとめてくれていたこと → ディスカッションの時に、非常に役に立ちました。 ・アンケートを基に、残り1週間でパネリストの間で熱い議論が交わされたこと ・skype うまくいったと思います。MacBookAir の威力と安力川さんの根性で。 機材を準備していただいた村崎さんに感謝です。 ・食べ物の盛りつけは、松田さんのアイデアとセンスで見栄えよく見せられたかとおもいます。一手間をかけるると全然違いますね。
受付	<ul style="list-style-type: none"> ・受付はうまく回っていたと思います。
当日の委員の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・適材適所 <ul style="list-style-type: none"> → 佐藤さんのファシリテーション → 高橋さんの買い出し取りまとめ → 松田さんの交流会 食事の盛り付け → 金丸さんの中間報告(個人的見解☆) ・パネルディスカッションの佐藤さんの司会 <ul style="list-style-type: none"> 参加者、パネラーへの話の振り方が素晴らしい! ・高橋さん、佐藤さんの仕切りっぷり ・高橋さんと、佐藤さんの司会進行が素晴らしかったこと。 ・机の準備、交流会の準備、片付けなど委員それぞれが、指示がなくても動いていたのはとても良かったと思います。前回の反省が共有できているなどおもいました。 ・小池さんのプレゼン(フレッシュ! これぞ青年委員会の売り)

【コメント】

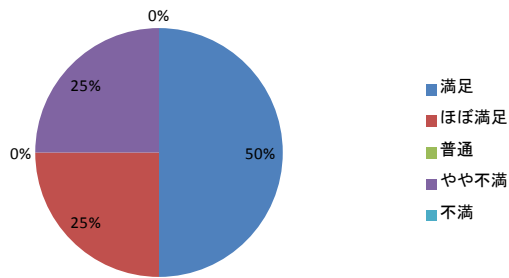
例会全体としては十分に成功したと考えられるが、準備の開始時期のタイミングが図れずに対応がぎりぎりになってしまったことと例会中の細かな設定を想定できなかったことは反省すべき点であった。細かな点については、事前準備の段階から参加者の視点を想定しておくことが重要であると感じた。

(2) 外部アンケート

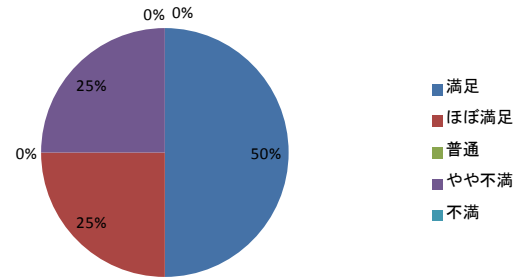
12月例会アンケート集計結果

アンケート回答数 4名

Q1-1 発表者の話し方や進め方



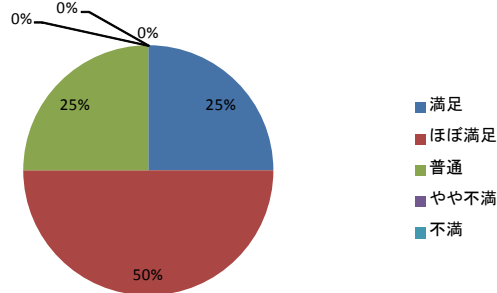
Q1-2 発表者の用意した資料の内容



Q1-3 発表者に伝えたいこと(コメント)

- ・素晴らしい活動 今後も続けていただきたい。
- ・もっと内容(他国プレゼン)を伝えて欲しい。

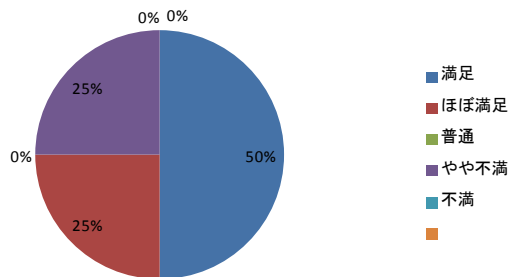
Q2-1 スタッフの対応



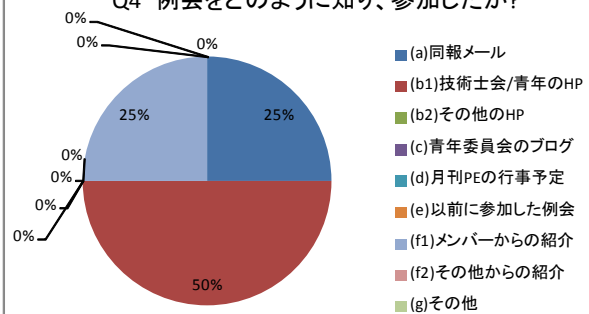
Q2-2 スタッフに伝えたいこと(コメント)

- ・他の国はどうした活動をしているのか？
どうしたいと思っているのか全くわからない。

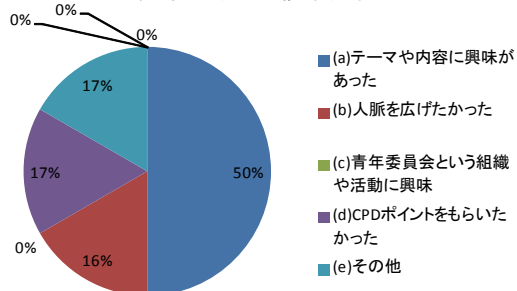
Q3 今回の例会は全体として



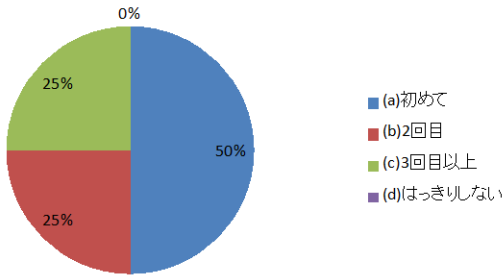
Q4 例会をどのように知り、参加したか？



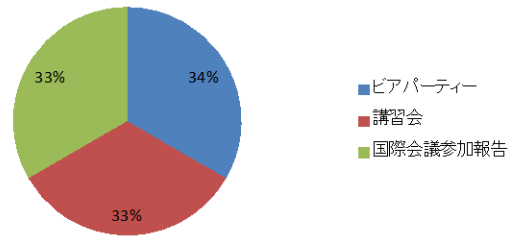
Q5 参加目的(複数回答)



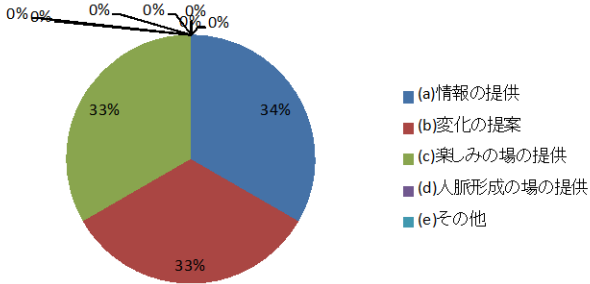
Q6 青年の例会参加回数



Q6-1 過去に参加した例会で、象深かったテーマ (2回目以上参加者)



Q7-1 今後開催してほしいイベント



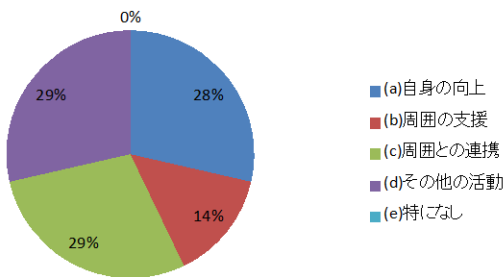
Q7-1 コメント

- ・技術内容も知りたいです。(情報の提供)

Q7-2 内容以外についての希望

- ・土曜を希望
- ・他国のPresentationの内容等をもっと伝えて欲しい。何か提案はなかったのか？

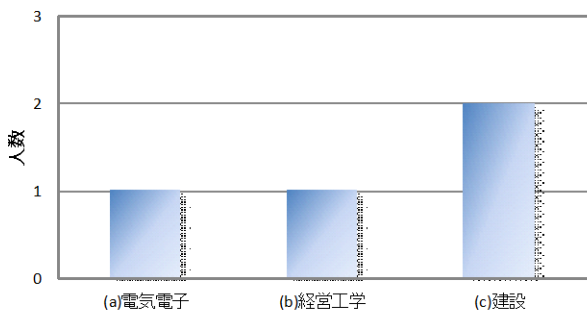
Q8 本業以外の活動について(複数回答)



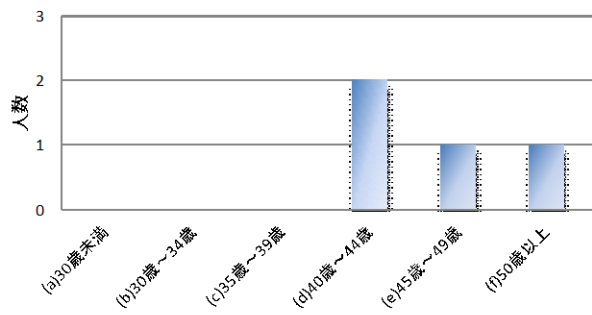
具体例

- (a) 修習分野に加え、技能系の資格取得
各種セミナーの参加
- (b) 電気主任技術者として、住民の安全確保
- (c) 経営工学部会での40-60才同の交流
- (d) NPO活動(公共交通関連)
仕事を通じての交流

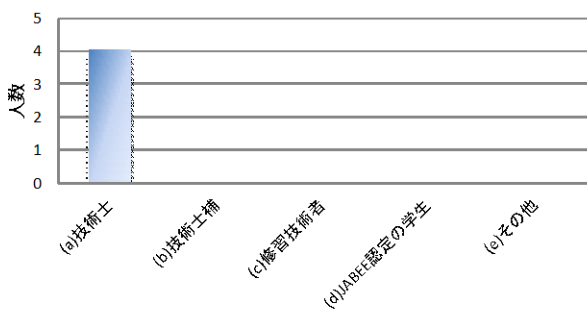
Q9-1 部門



Q9-2 年齢層



Q9-3 会員層



【コメント】

今回の例会としては国際交流の報告がメインであったため、青年委員のグループの中間報告のポイントはあまり高くないと感じた。国際交流をメインに押し出し、他国の考え方や交流の実績等を中心に展開した方が参加者にとって有益であったと感じる。次回の国際交流報告ではその点を考慮していければと感じた。

以上

行事名	平成 25 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス パネル討論
日時	平成 26 年 1 月 25 日(土) 15:00~17:15(質疑応答含)
場所	コクヨホール
講師、発表者	コーディネーター:伊藤友加里(技術士/原子力・放射線) パネリスト:野村晃平(技術士/金属)、小野寺純(技術士/生物工学)、 杉山耕治(技術士/機械)、笠松功(修習技術者/農業) パソコン操作担当:村崎諒(青年技術士交流実行委員会委員補佐/情報工学)
担当者:	伊藤友加里
参加者数	約150名(参加申込者数)

1. 背景・目的

修習技術者支援実行委員会(以下、修習委員会)が主催する第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンスにおいて、本年度もパネル討論を青年技術士交流実行委員会(以下、青年委員会)にて担当した。修習技術者に対し第二次試験受験へのインセンティブ付与、技術士会入会への案内を目的とするガイダンスの中で、青年委員会としては以下の目的のもとパネル討論を実施した。

パネル討論目的:技術士と修習技術者との、テーマに沿った対話を通じ、会場の受験生に対し、技術士第二次試験合格と技術士会活動参加への強い動機付けの場を提供する。

2. 内容

タイトル:技術士への道～プロフェッショナルへの挑戦～

テーマ 1:技術士までの道のり

討論に入る前に技術士の 3 名から、合格までの道のりと合格後の今について、また今後目指す目標について発表してもらった。実際に行った試験対策の具体例から、二次試験突破のための取り組みや姿勢、モチベーション維持方法などを探っていく内容とした。

テーマ 2:技術士を目指して

ここでは修習技術者に焦点をあてた。受験にあたっての不安点・疑問点、また受験対策として実際に行っている取り組みについて話してもらい、技術士からコメント・アドバイスをもらった。

テーマ 3:技術士会との関わり

一次試験合格後に入会したパネリストに、会員となればどういう活動ができた、あるいはできるのか、そのメリットを紹介してもらった。

テーマ 4:技術士になり何が変わったか

技術士として登録後、自分があるいは周囲がどう変化したのかを技術士 3 名に話してもらった。資格取得の意義を探る内容とした。

テーマ 5:技術士として目指す道

今後技術士としてどういう道を目指すのか、そのキャリアプランを話してもらい、修習技術者が夢を持って受験してもらえる内容とした。

3. 成果と所感

3-1 全体的な視点から

ガイダンス終了後、技術士会幹部や修習委員会などの関係者から好評を頂いた。また青年委員会主催の交流会に参加した修習技術者からも「参考になった」、「技術士会のイメージが(良い方向に)変わった」という感想を頂けたのでおむね成功したものと感じている。

パネリスト4名には事前準備から当日まで、本業の仕事や技術士会でのその他の仕事が忙しい中にも拘らず、より良い討論作りのため熱心にご尽力頂いた。その成果が先述の結果につながったものと思う。心から感謝申し上げたい。

3-2 昨年度までとの変更点から

事前準備やパネル討論の大意その内容は例年にならったが、昨年度までの手法と変更した点(結果的に違った点を含む)を挙げる。今後の参考とされたい。

・準備スケジュールの早期進行

スライドの作り込みと発表練習に重点を置き、スライド初版完成までを年内に終えるよう設定した。昨年度よりパネリストの決定からスタートが早く切れたのも影響が大きい。年末年始の忙しい時期なのでパネリストにとってみれば良い面悪い面もあっただろうが、スライドの作り込みと発表練習に重点を置くという意味では早めのスケジュールを組んで良かったと振り返る。

・青年委員会スタッフブログでの情報発信

多くの受験生が技術士制度や試験に関する情報を得るのはまずインターネットを通してではないかと考え、ガイダンスへの参加申し込み増も期待し、青年委員会スタッフブログ(<http://blog.goo.ne.jp/ipej50>)にてパネル討論準備状況報告やパネリスト紹介などを行った。私の独断だったが、パネリストにはブログに掲載する文面確認や写真提供にもご理解とご協力を頂き計9回の投稿ができた。ブログアクセスと、ガイダンス申込みの効果は正確には分らないが、青年委員会の広報も含め何かしらの貢献ができたと考えている。

・発表練習の設定

金属部会若手技術者の会(YES-Metals!)の協力を得て、先方会合時に発表練習の場を設けた。初めての試みであり、また当時(12/21)の発表内容はまだ荒削りの段階で見てもらうことに戸惑いもあったが、会のメンバーからはより良い発表に向けて貴重なコメント・意見を頂戴し、我々には気づかなかった点も多く、やって良かったと有意義な経験となった。

・事前顔合わせ会の設定

昨年度はガイダンス当日に全員が初めて顔を揃えたが、今年度は前述の発表練習後に事前顔合わせ会を設定した。先の発表練習に参加できなかったパネリストらも一同に会うことができ、お互いの発表内容についてなどを議論することができた。顔合わせ会の効果か、コーディネーターとパネリスト間の連絡用に立ち上げていた専用メーリングリストでのやり取りも活発となり、パネリスト間の結束も高まった。当日の初対面者はおらず、その点ではリラックスして迎えられたのではないだろうか。

・討論内容理解への配慮

当初2名登壇予定だった修習技術者が1名となったため、テーマ2(技術士を目指して)を深く掘り下げることが必要(可能)となった。参加者の討論への理解を助けるため、今回も「テーマスライド」として、討論中の背景にテーマ名を書いたスライドを投影予定だったが、先述の理由からテーマ2ではテーマ名のほか、修習技術者の不安点・疑問点、取り組んでいることを詳しく書き出したスライドも追加し、それを改めて読み上げてから技術士にコメントを貰うなどして、より参加者が理解しやすいよう工夫した。

また、今回はスライド投影用パソコンを操作するための専用担当者(村崎さん)を配置願った。コーディネーターの操作により参加者の注意力が一時そちらに向かう懸念を避けることができた。また専用担当者に任せることで、スムーズな進行にもつながった。

4. 今後の課題

コーディネーターの視点から今後の課題を挙げる。

・パネリストへの指揮について

過去のコーディネーターの様子をうかがうと、パネル討論準備に関するパネリストへの指揮については、大方パネリストに任せる方だったり、逆に指示が細やかな方だったり様々ようだ。パネル討論の中身はコーディネーターの指揮による影響も大きく、またそれが討論の面白みへと繋がる。よって指揮の全てをマニュアル化できないし、しない方がよい。しかし、マニュアルが無いとはいえ、コーディネーターとなる人はただ単に例年にならって進めるというのではなく、ある程度自分の方針を最初に決めてから指揮をとるべきと感じた。私自身、成功面もあるが、思慮が浅かったための失敗面もあり、反省するところである。

・準備スタートから当日までのタスクスケジュール化と申し送り事項の一覧化について

前項で指揮のマニュアル化は不要としたが、タスクスケジュール化と申し送り事項の一覧化は必要である。過去に作成された記録がないので、歴代コーディネーターは先代からの伝達に頼ってきているものと思われる。一度整理と確認をしておきたい。概要のみを示すようにし、詳細はコーディネーターの個性に任せられるよう配慮する。

・パネル討論企画そのものについて

今回は昨年度より15分延長され、2時間15分の持ちだった。昨年パネリストで参加した時は感じなかったが、コーディネーターとして2時間15分を見ると、討論の内容に対して聞く側の興味、集中力などを2時間以上も持続させることを考えれば、工夫すべき点、改善すべき点は多い。

今後も同じスタイルを継承するにしても、ガイダンス、パネル討論が現在のスタイルになって数年がたち、一度企画そのものを見直す時期ではないだろうか。これは青年委員会だけで決められるものではなく、修習委員会とも協議が必要であり簡単には話が進まないと推察されるが、こちらの意図や目的は二の次にして、少なからぬ参加料を払って足を運ぶ修習技術者を第一に考え、以降の改善に期待したい。

以上

パネル討論風景①



パネル討論風景②



パネリストのみなさん



発表の様子・野村さん



発表の様子・小野寺さん



発表の様子・杉山さん



発表の様子・笠松さん



パネル討論後・関係者記念撮影



タイムスタンプ	良かった点	反省点	改善提案	その他
1/26/2014 9:43:32	たくさん委員・委員補佐が、自分の来られる時間を見つけて動員活動に参加したこと 初参加の方も、自分で考えてビラの配布場所や、活動の説明をしていくこと。 パネルディスカッションの充実した準備。 ポスター、チラシに時間をかけて作りだめたこと。作業された瀧川さん、金丸さん、そのほか知恵を出した皆様に感謝です。	交流会は、会場に来る前に参加者に情報が届くようにしたい。金庫部会がお手本でしょうか？ そもそもこのガイダンスへ来る人を増やすために出来る事はないか考えたい。いままでは修習委員会にお任せだったが、共催でもあり、ある意味目玉はパネルディスカッションなので、それより魅力的に見せる広報方法がないだろうか？	1次試験合格者向けに、交流会の案内をばさむとよい ホールへの入口側にも人を付けてどろ配布した方が良かったと思う。とくに入口に近い側から入る人は、青年委員会のポスターを見なかった人も多かったかな？ 交流会の集合場所は、ロビーを出た先の2Fのホールの方が良かった(これは同じ会場なら)。 委員会の活動内容の「活字」があった方が説明しやすかった。 写真の出自を説明したあんらよがあると(今回のイメージ画像のポスターだ)よいかも。	会費が高すぎる件。青年委員会も開催なので、意見しても良いかと思えます。 クオリティは高いものを提供していると思いますが、一次試験の合格者にとって、4,000円の価値はあるかどうか？ あのポスターサイズだと、画素数が決定的に重要と感じました。もう少し鮮明にしたいです。 もっとみんな写真をとろう！写真を撮る人が限られているので、視点の多様性がなくて、広報のときにほしい写真がないこともありました。
1/26/2014 22:09:26	・パネル討論のきめ細かい準備 ・ポスターでイベントを伝え、ビラで詳細説明するというやり方。瀧川さん、金丸さん、お忙しい中、本当にお疲れさまでした。 ・入り口でビラを配ったこと ・女性陣とイケメンにブースに立ってもらったこと ・安力川さん、ブースの目的を周知してくれたこと ・小山田さんのサラ ・カラマンの3人体制 ・私服	・ブース側もリーダーを決めよう	・ブース(ポスター、ビラ)について、準備段階でリーダーが不在だったこと。(ビラの側では混乱を招いてしまいました) ・ブースは人手不足でした。ピーク時には説明聞きかたけと聞けてない人もいたかと思えます。 ・田中が参加者に対して語りまくる。ブースでも懇親会でも”:	・パネル討論は私の思っていたより固かったのですが、あんなんですかね?? ・両辺さんがいればまた違ったのかもかもしれません。 ・ポスターについては、ポスターセッションをイメージしていたので、詳細説明も必要かと思いましたが、そうではなかったですね。来年もポスターでイベントを伝え、ビラで詳細説明をするという方法で良いかと思えます。 ・私は電気電子部会のブースに立って部会の説明および青年委員会の説明をさせてもらいました。部会のブースでは参加者の方から話を聞きに来てくれます。部会を若い人に立ててもらって良かったと言っていたのでwin-winだったと思います。アピールの仕方としては、専門性は部会で、コミュカ、論理力など基本的スキルは青年委員会で学ぼう、といった感じの説明をしてみました。おかげで、電気電子部門からは二人ほど懇親会に呼ぶことができました。来年はほかの方もやってみてはいかがでしょうか？それをする場合はスーツを着ないといけませんかね。
1/27/2014 2:56:20	青年委員のロビー活動が活発で、チームワークが非常に良かったと思います。 懇親会では参加者に青年委員から積極的に声をかけている姿が素晴らしいかったです。 伊藤さんの話の振り方、返し方。	ブログなどで広報をしていたがブログは一方通行。 参加希望者と事前にコンタクトを取れずよ引にして、盛り上がりがいけないなと感じました。		
1/27/2014 14:00:55	積極的に青年委員会のアピールができた。 意欲のある合格者と会話して刺激になった。 入り口でポスターまでの案内ができた。	懇親会は当日に誘うのは難しそうだった。	青年委員会の例会への参加勧誘を中心した方がいい。	
1/27/2014 21:32:04	・見やすいポスター ・アフレップな勧誘 ・集結した委員の人数	・Facebookの「青年委員」のページがすぐに出てこなかった ・紹介マニュアルがあるとうれしかった ・数回会の参加方法、青年委員を紹介したいポイント ・委員の紹介、例会の案内、国際交流、飲み会と盛りだくさん	・青年ブースは毎年奥の場所になるので、ヘビー級の国際の横断幕を飾れば奥でも目立つかと思えました。 ・チラシのQRコードの上にHP,FBそれぞれの写真があればイメージがわくかと思えました	・来年も若手主導で呼び込みを期待します！
1/28/2014 17:00:03	・どいえずパネル討論が無事に終わったこと。 ・コーディネータという貴重な体験をさせてもらったこと。 ・ポスター展示でたくさん協力があったこと。(ポスター・ビラの作成や会場で終始担当下さった方はもちろん、教時間でもと駆けつけて下さった方も感謝が尽きません) ・次へつながらる青年委員新メンバー候補ができたこと。	・パネル討論への準備について、パネルリストへ指示が試行錯誤だったこと(特に修習技術者)。誰でもコーディネータは1度きりのことだから迷いはあると思うが、もう少しうまくやれた部分もあったのではと思う。 ・当日はパネル討論進行に集中し、ポスター展示のお手伝いに入れなかったこと。	・担当決定からパネル討論当日までのスケジュール化と必要なマニュアル化 ・ガイダンス及びパネル討論改善のための青年委員会あるいは修習委員会との協議(今のスタイルになって数年経過。そろそろ内容に関して一度見直すときは?)	お疲れ様でした。 次へ向かって引き続き頑張ってくださいませ。
1/28/2014 21:54:10	・伊藤さんのコーディネート ・RAPIROのトラブル。あれはあれでハッピー感があったよかったです。 ・ポスター、ビラのクオリティの高さ。 ・ロビーチームで活躍した女性達。女性が大活躍でした。 ・懇親会担当の小池さん、小山田さんの動きが機敏で素晴らしいかったです。 ・ロビーチームの私服。スーツの中で私服が目立って、フランクさが伝わったと思う。	・懇親会の当日勧誘は誘う側、誘われる側両方にとつきつい。 ・ポスターの写真の品質が良かった。写真を撮影して、簡単に(フルサイズで共有できる環境を作る必要がある。 ・ロビーチームの崩れ忘れ。説明内容や周知内容などを共有できなかった。	・懇親会はチケット制で、事前の案内を。 ・ポスターはもう少し準備期間が長いと、よりクオリティが上がりますね！ ・食補11時間開場し、13時まで何もないので、13時前に来る人も多い。どうせなら1時半から講演始めて、関係の体を長く取ればブースに多くの人が来てくれるはず。 ・朝の受付時は、奥のポスターまで来てくれるように奥の入口だけ開けておいてほしい。(手前の出入口は閉じておく) ・青年委員会のプレゼンをやったほうがいい	
1/31/2014 7:08:43	一番奥のブースであったにも関わらず、入り口待機の委員による誘導が功を奏し、懇話会以上の多くの人に青年委員会をしてもらうことができた。	ブース委員であるにも関わらず、二次会の開始時間などを失念していた(すみません)。	話をした参加者の多くが、周囲に技術士がおらず、二次試験受験のモチベーションの維持、相談相手探し(仲間探し)のために来場されていたように感じた。次回はブースを訪れた参加者に、同じ部門の委員・委員補佐を紹介できるように配慮できればよいと思った(例えば当該部門の委員不在の場合は記載してもらってあとから連絡がいくようにするとか)。	お先に失礼のため、13時までの感想です。 どうぞよろしくお願いたします。

行事名	2 月例会:講演討論会「技術士のあるべき姿、活躍する技術士像」
日時	平成 26 年 2 月 8 日(土)
場所	公益社団法人日本技術士会会議室(A・B) 葺手第 2 ビル 5 階
講師、発表者	講師:平野輝美 氏 技術士(化学部門)
担当者: (○印:リーダー)	○小野寺純(記)、藤井佳直、山本憲志、田中雅人
参加者数	35名(講師1名、参加者24名、青年技術士交流実行委員会10名)

1. 背景・目的

- ・ 現状における技術士の大半は、所属企業を技術士事務所として登録する、所謂「勤務技術士」である。技術士の法目的および三義務二責務を発揚させて企業業務にあたることは、勿論大いに意義にあることである。しかしながら、土業一般的な姿である企業活動から独立した技術士の姿は、制度に定義される独占業務が無いことからか、普段において見聞きが難しい状況となっている。
- ・ 将来の独立を検討している勤務技術士については、独立後の技術士業務の具体的な構築例、現段階で行うことができる必要な準備等についての、情報を得る機会を提供することを目的とする。
- ・ 1 月に行われた平成 25 年度技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス参加者を含む新たな修習技術者、口頭試験を終えて合格発表を待つ二次試験受験者に向けては、演題名に示されるような「技術士のあるべき姿、活躍する技術士像」を伝え、技術士の啓蒙および試験最終合格までのモチベーションを付与する。さらには、日本技術士会への入会、青年技術士交流実行委員会への参画を促すことも、併せて目的とする。

2. 例会内容

2. 1. 開会挨拶・青年技術士交流実行委員会の紹介 (14:00~14:15)

田中雅人 青年技術士交流実行委員会副委員長

- ・ まず日本技術士会の組織(セグメンテーション)を簡単に紹介した上で、青年技術士交流実行委員会のポジショニングを以下の通り定義した。一般部会が各々の専門性を追求するのに対して、本委員会は、論理力・コミュニケーション能力・リーダーシップ等の一般的な能力を涵養する場である。そのターゲットは全年齢であり、若手には発言する場を、ベテランは若手をサポートする場を提供し、互いに成長し合える場の醸成を目指す。
- ・ 本委員会の具体的な活動内容について、イベントの内容および写真を挙げて、紹介を行った。

2. 2. 講演「技術士のあるべき姿、活躍する技術士像」(14:15~16:10)

平野輝美 氏 技術士(化学部門) 平野技術士事務所代表

- ・ 当初の予定では、平野氏の講演を 90 分ずつに分け、このインターバルにグループワーク討論・発表を行い、講演内容の理解をさらに深める企画を予定していた。しかしながら、講演会討論会当日は大雪の荒天であり、参加者の帰宅の足が心配された。そのため、グループワーク討論・発表は中止とされ、講演と質疑応答のみの短縮時程にて本例会を行うこととなった。
- ・ 技術士業務を進めるにあたり、外部からの信用を得るためには:技術士の集合体である創造工学研究所を紹介。自宅事務所や公的機関支援等のインキュベーションオフィスでは、事業としての本気度合が疑われ、十分な信用が得られない。複数の技術士が費用を分担して、都心(西新橋)に事務所を構える重要性と得ら

れる信用についての説明。構成員とゲストとで、定期的に勉強会を行い、継続研鑽も事務所内で行っている。事業の法人化もまた、外部に対する信用に直結する。このとき、複数の出資者から構成される法人でないと、十分な信用は得られないことも注意点として挙げられた(添付資料 1、写真 1)。

- ・ 独立技術士の業務 1 ベンチャー企業への参画: 化成品などの開発販売を行う有限会社納諾相研究所、植物工場事業を展開する株式会社 Greenway 等の参加事業例を紹介。有望な技術について、実施可能な設備を持つ中小企業へ売り込みを行い、当該技術をベースとした事業の創出例について紹介。
- ・ 独立技術士の業務 2 技術士事務所業務: 所謂コンサルテーション業務である。東京都 VOC 対策アドバイザーなどの就任や、技術コンビニ倶楽部の立ち上げによる、業務開拓のための啓蒙、研修会、相談会などを行っている。ただし、コンサルテーションという形の見えないものに金銭を払いたがらない人が多い現状を説明。コンサルテーションを行う前に、コンサルテーションにお金を払える人間になることが肝要と力説した。
- ・ 独立技術士の業務 3 技術評価: 講演者がブルーオーシャン業務の事例として、時間を割いて説明した節である。人間に関する事故調査や犯罪捜査などの科学技術体系として、法医学が古くから確立されている。演者らは、法医学的な業務の対象を人間から「設備・製品」に置き換え、この事故・故障原因を調査するフレームワークを「法工学」として体系化を進めている。従前にこのような捉え方をした体系化例は無く、当該調査業務は独立技術士が自ら構築した事実上独占業務(ブルーオーシャン)と言える。
- ・ 技術士第三次試験 独立に向けた課題: 独立後の技術士業務に制限はない、技術士として行う業務すべてが技術士業務である。企業勤務のような大樹はないが、自己責任にて行いたい業務が行うことができる(自由)のが、独立技術士である。成功を目指すのであれば、上で紹介したようなブルーオーシャン業務を構築することが、キーとなる。企業在籍時の技術と経験だけで、独立後のビジネスプランを描くことは不可能であると講師は言い切り、これを「畳の上の水練(水泳練習)」と例える。ただし、企業在籍中にでもそのような独立後のリスクヘッジをたくさん作っておくことは、必ずしも意図する通りに働くものではないが、重要なことであるとして講演を結んでいる(添付資料 1、写真 2)。

2. 3. 講評・閉会挨拶 (16:15~16:20)

山本憲志 青年技術士交流実行委員会委員長

- ・ 本日の講演で最も印象的であったのは、レッドオーシャン/ブルーオーシャンの議論であった。しかしながら、ブルーオーシャンを掴むことは形式化された知では難しく、到達までの間、もがき苦しむ過程であるかもしれない。しかしその道筋には何らかの原理原則がある、という希望の光もあるかもしれない。その詳細は分からないが、本日の真っ白い世界、ホワイトオーシャンを歩きながら考えてゆこう、という講評にて例会を総括した(添付資料 1、写真 3)。
- ・ 続いて、田中副委員長が、重ねて 3 月および 4 月例会の紹介と、参加への呼びかけを行う。
- ・ 終了後に講師を囲んで、参加者、青年技術士交流実行委員全員で、記念撮影を行った(添付資料 1、写真 4)。

4. 成果と所感

- ・ 独立技術士の一例とその考え方について、本会参加者に余すことなく伝えることができたと考えている。本例会講師の師であり、創造工学研究所の創立者である本田尚士氏の著書である「技術者の自由業 技術士人生 —貧しけれども貪らず心豊かに—(三恵社, 2011 年)」で示されている通り、技術士の業務は他士業とは異なり「自由であること」を講師は重ねて示され、さらに事実上独占業務である「ブルーオーシャンの構築」を強く勧められた。このブルーオーシャン構築は、(特に独立における)技術士業務が自由であるからこそ可能になるものであることを忘れてはならない。よって、本例会企画の段階で幾度も議題に上がった「独立技術士の業務とは何か?」という問いは、そもそも意味をなさないものであった。企業に勤務する技術士と独立技術

士との業務の捉え方のギャップは、想像以上に大きいものであったことを、所感として挙げたい。

5. 今後の展開

- ・ 独立した技術士業務のいくつかの側面とその実例について、今回の講師から貴重な体験話を伺い、そして参加者で共有することができた。参加者アンケートの結果も概ね講演内容に満足との結果を得ており、さらに他の演者での同様な講演機会を求める声もあった(添付資料 2)。今回の講師は化学部門であり、その辺縁技術の展開例が主であったが、同様なトピックスから別角度の議論を行うことができるような、他部門の独立技術士を講師として招聘するようなかたちでの継続開催も、興味深い試みであると感じた。
- ・ 今回は気象状況のために中止となってしまったが、講演会とグループワークとを組み合わせる例会企画は、参加者の学習効果が非常に高まることが期待される。この講演討論会スタイルの例会を、今後も定期的に企画していけると良い。

以上、文責 小野寺

【添付資料 1: 2 月例会の開催状況】



写真 1 例会講師平野氏の講演



写真 2 平野氏の講演に傾聴する参加者



写真 3 山本委員長の講評



写真 4 例会講師、参加者、青年委員の記念撮影

以上

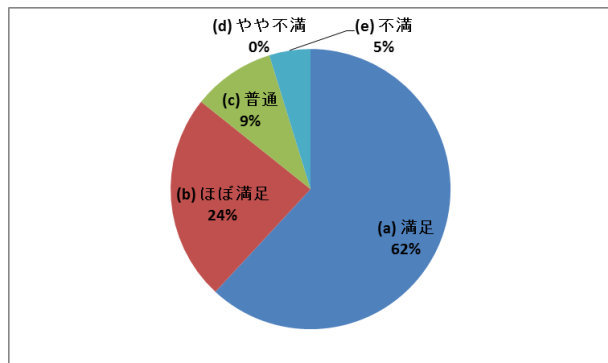
【添付資料 2: 2 月例会参加者アンケートの結果】

● アンケート回収率

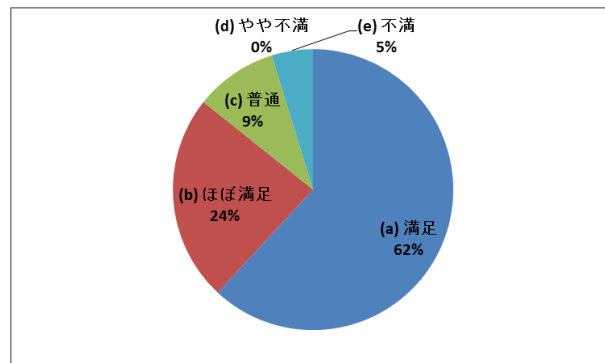
2 月例会参加者 24 名から、22 名 (91.7%) の記入済みアンケートを回収することができた。

● 今回の例会について

Q1-1. 講師の話し方や進め方



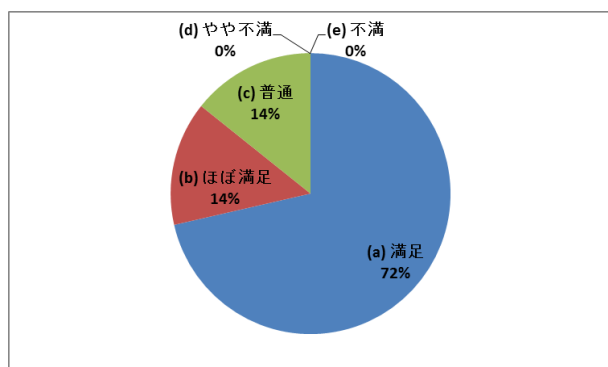
Q1-2. 講師の用意した資料の内容



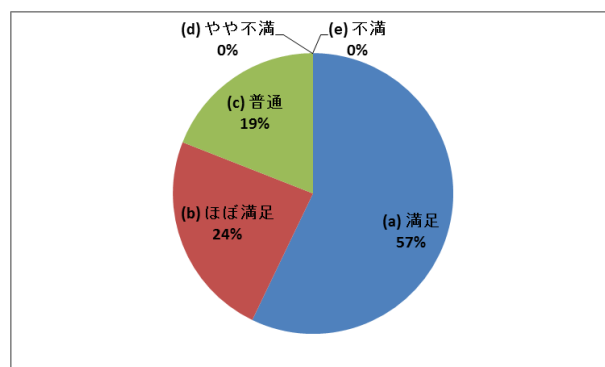
Q1-3. 講師にお伝えしたいこと

- ・ お金を払うかどうか？の話は心に残りました。自分の技術に対してお金を払える人間になりたいです。
- ・ どのような考えをもって事業に取り組んでおられるのかということで非常に参考になりました。
- ・ 自営することに対する考え方が参考になりました、ありがとうございます。
- ・ 三次試験の生々しい話は大変有意義でした。
- ・ 大変、素晴らしい、ためになる講演でした。ありがとうございました。
- ・ テクニカルライティングの冊子があれば買いたいです。

Q2-1. スタッフの対応



Q3. 今回の例会は、全体としていかがか

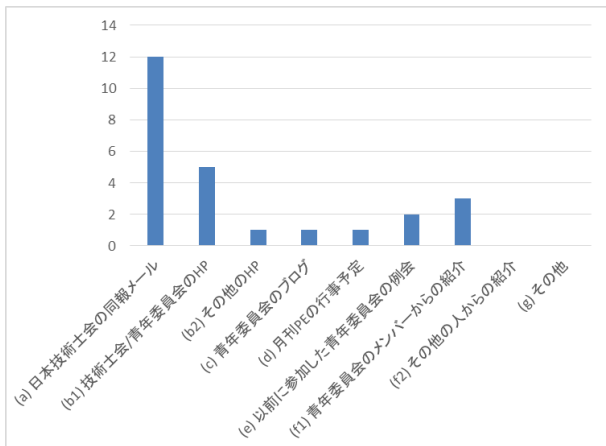


Q2-2. スタッフに伝えたいこと

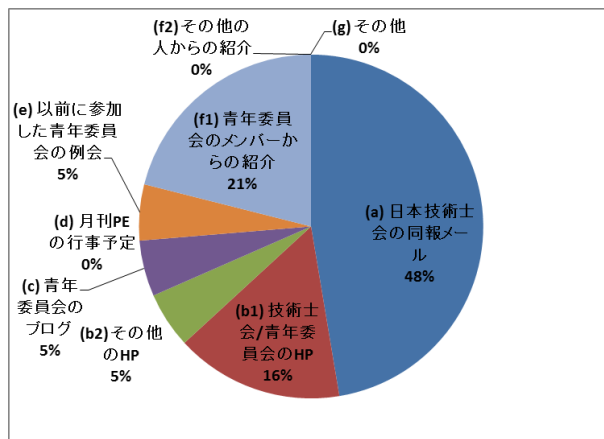
- ・ 準備お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ お疲れ様でした。
- ・ 雪の中、どうもありがとうございました。

● 今回の例会に参加するまでの経緯について

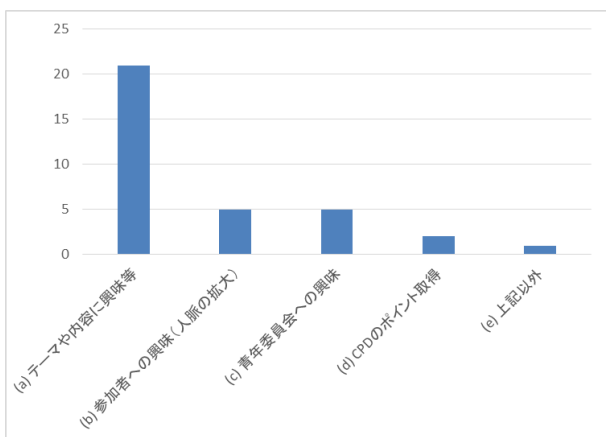
Q4-1. 今回の例会を、どのように知ったか(複数可)



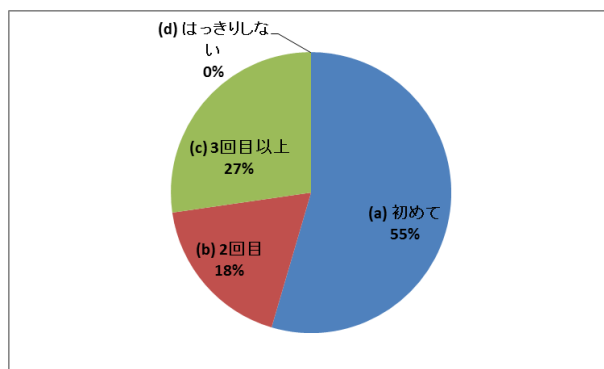
Q4-2. 前問で、特に参加のきっかけとなったのは。



Q5. 今回の例会に参加した目的は何か(複数可)



Q6. 青年の例会に参加するのは、今回で何回目か

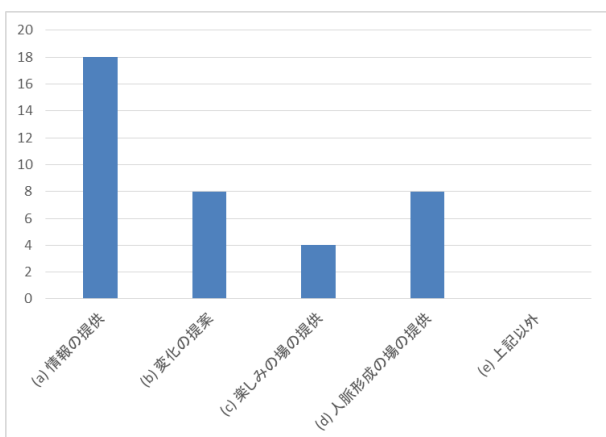


Q6-1 2回目以上の方:過去に参加した例会で、印象深かったテーマや面白かったテーマは

- ・ 国際交流
- ・ 講演会
- ・ YAEFEO, ビアパーティー
- ・ デイバート、国際交流活動報告会
- ・ フットサル
- ・ 今回のテーマが一番興味を持ちました。

● 青年委員会の活動について

Q7-1. 青年委員会の活動として開催してほしいイベント・内容(複数可)



イベント・内容の具体例:

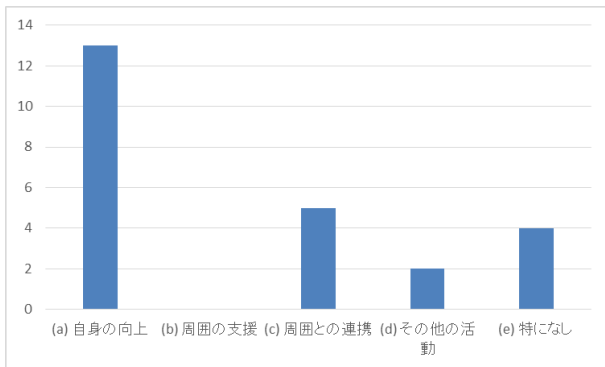
- ・ 講演会
- ・ 懇親会
- ・ 中小企業見学会連携の模索
- ・ 外国技術士資格の方との交流
- ・ 見学会
- ・ 国際交流
- ・ 社内技術士の活躍事例
- ・ CAFEO
- ・ 他の士業との若手との交流会
- ・ 開業体験記を複数の技術士の事例を聞きたい

Q7-2. 内容以外についての希望

- ・ 年齢オーバーですが、ときどき仲間に混ぜてください
- ・ 土曜がベスト、討論は是非やりたい!!
- ・ たまには名古屋でやってほしい。

● 技術士または技術者としての活動について

Q8. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をしているか(複数可)

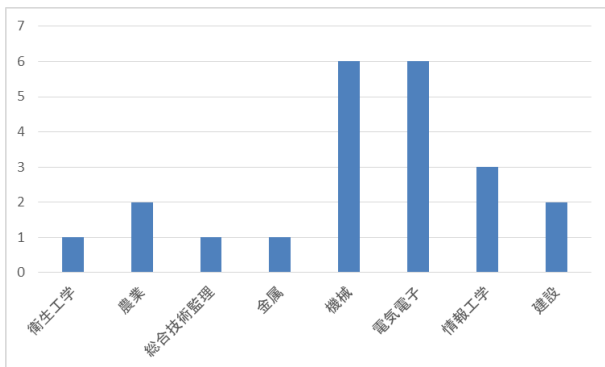


活動の具体例:

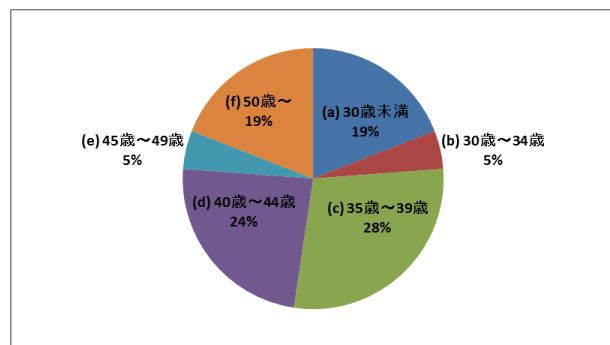
- ・ 基礎知識の取り込み
- ・ 地域の英会話教室
- ・ 年1件程度の資格の勉強
- ・ SNS
- ・ 資格の勉強
- ・ IT21の会
- ・ 他協会(リスクマネジメント協会)
- ・ Yes Metals、技術士ライフプラン研究会、技術士金属発表待ち、技術士総監・本年挑戦
- ・ 技術士になった際の得点を利用した方の具体例を紹介して欲しい。例: 電気電子部門の特典である設計管理者(鉄道)、監理技術者(電気、通信工事)等。

● あなたご自身について

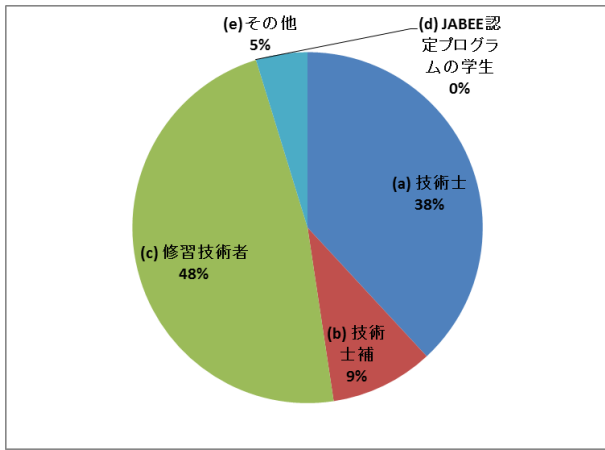
Q9-1. 技術部門(複数可)



Q9-2. 年齢層



Q9-3. 会員層(技術士の資格制度での位置づけ)



以上

行事名	3月例会:ディベートを体験しよう
日時	2014年3月8日 13:30~17:30
場所	萱手第二ビル 5F 会議室 C,D
講師、発表者	説明:村崎委員補佐 ディベート・講評参加者:10名 見学者:1名
担当者: (○印:リーダー)	○村崎 諒、細野 雄治、太田 道宏
参加者数	22名(内委員 11名)

1. 背景・目的

問題の争点を明らかにし、論理的に比較検証するスキルとして、ディベートに注目が集まっている。今の技術者には必携のスキルと言えるが、体験できる機会はそう多くない。初心者にも基本的なディベートを体験してもらい、技術者としてのスキルアップに役立ていけることを目的として企画した。なお、2011年6月例会「エネルギー問題についてディベートしてみよう」および2013年3月例会「ディベートを体験しよう！」の実績、成果を踏まえ、本企画の準備を実施した。

2. 例会内容

1) テーマ:「小学生のスマホ利用は禁止すべきか」の提示

テーマは事前に告知し、資料持参を依頼した。資料は当日コピーし、両チームに配布した。

2) 選手、評価者、タイムキーパー、オブザーバーの選出および役割定義

選手(肯定側、否定側を各4名選出。2回目実施時にメンバー入替を実施):

1回目

肯定側:

佐野さん(非会員)、杉浦さん(機械)、本田さん(情報工学・総監)、山本(英)さん(電気電子)

否定側:

田辺さん(電気電子)、外山さん(電気電子)、古川さん(衛生工学)、山本(恵)さん(電気電子)

2回目

肯定側:

田辺さん(電気電子)、古川さん(衛生工学)、坂東さん(情報工学)、竹入委員補佐

否定側:

佐野さん(非会員)、杉浦さん(機械)、本田さん(情報工学・総監)、山本(英)さん(電気電子)

講評者(ディベート採点票に従い、ディベートの採点および講評):

1回目:太田委員、松田委員補佐、細野委員補佐

2回目:外山さん(電気電子)、山本(恵)さん(電気電子)、細野委員補佐

タイムキーパー(ディベート実施時の時間周知。1分前および定刻に呼び鈴):

高橋委員補佐

オブザーバー(選手間のコミュニケーションの活性化および進行状況の監視):

安カ川委員、田中委員

3) 司会(村崎委員補佐)からディベートの基本ルールと注意事項、およびスマホの現状の説明を実施

4) ディベートの実施

ディベートはチームで2回行った。2回目は基本的には肯定側、否定側を入れ替えたが、委員以外にも新たに講評者を募集し、且つ見学者メンバーからも選手を再募集して実施した。肯定側、否定側でディベートの戦略を練った後(30分)、基本的な進行に沿って、「肯定側立論(6分)」「反対尋問(5分)」「否定側立論(6分)」「戦略タイム(5分)」「反対尋問(5分)」「否定側

反駁(4分)」「肯定側反駁(4分)」「戦略タイム(5分)」「否定側結論(5分)」「肯定側結論(5分)」の各時間を厳密に計って進めた。

5) 判定

1回目は0対3で否定側が勝利、2回目は3対0で肯定側が勝利した。

6) 実施しての感想

選手、見学者を含め全員から実施の感想を頂いた。

- ・ディベートのやり方が判り勉強になったという意見を特に初参加者から多く頂けた。
- ・実践の場として良い機会であるため、年に数回ディベート企画を設けて欲しいという意見があった。
- ・1回目と2回目で肯定側、否定側の立場が入れ替わることによる頭の切り替えが難しかったとの意見があった。
- ・ただし、1回目より2回目の方が1度体験したことで、やりやすくなったとの意見もあった。
- ・講師者担当して頂いた参加者については、双方の論点を追って採点することは難しいながらも、良い経験になったとの意見があった。

3. 成果と所感

- ・初心者に焦点をあてディベートを体験することを主目的としたため、テーマ選定がやや難しかった。技術の集大成的位置にもあり、かつ技術倫理的な議論も展開出来る「小学生のスマホは禁止すべきか」を選定した。最近普及度が急速に上昇していることにより参加者の身の回りにある技術要素であることもあり、参加者は抵抗無くディベート進行できたと感じた。
- ・参考資料の持参をお願いしていたが、当日非常に多くの参考資料をご提供頂けた。テーマ自体の関心度が高かったこと、またディベートに対し高い関心を持っている方が参加頂けたことが要因としてあると感じた。
- ・ディベート経験者がディベート非経験者をリードして下さり、チームの戦略立案時や発言時など、経験者はあえてフォローに回るなど非常に良い雰囲気になっていたと感じた。回を重ねてきたイベントの長所を感じた反面、運営側もそれを上回る良い準備をしなければと感じた。
- ・2回目のディベート修了後は見学者からも感想を頂いたが、見学者の意見からディベート全体についての議論が始まり、大変活気のある意見交換がなされた。次回以降も参加者から意見を頂く時間を設けて、ディベートの外でも議論が出来る仕組みを作ると大変おもしろいと感じた。
- ・基本の説明の資料は2013年に作成されたものに追記する形で準備した。内容が分かりやすいため、次回同様の企画を行う場合、今回の資料は有用と考える。

4. 今後の展開

- ・様々な側面から物事を見て、ロジカルに説明を組み立て説明するスキルは技術士、技術者にとって不可欠の素養であるが、今回実施したディベートが大きな一助となることを確認した。
- ・参加者からの評価も高く、体験型の例会として今後継続して実施する価値があると考えます。

文責 村崎 諒

3月例会「ディベートを体験しよう！」写真



村崎委員補佐によるディベートの基本説明



1回目肯定側作戦会議



1回目肯定側チーム立論



1回目否定側チーム立論



2回目肯定側作戦会議



1回目講評時

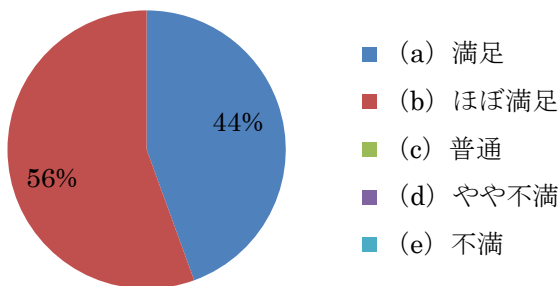


2回目講評集計時

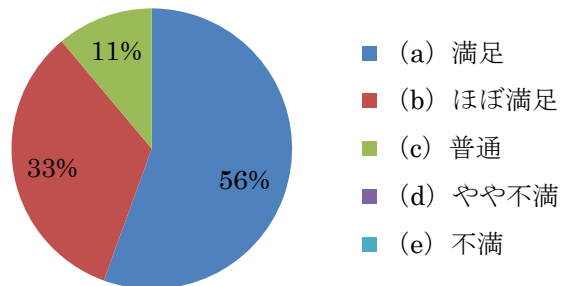


ディベート座席配置(ハの字)

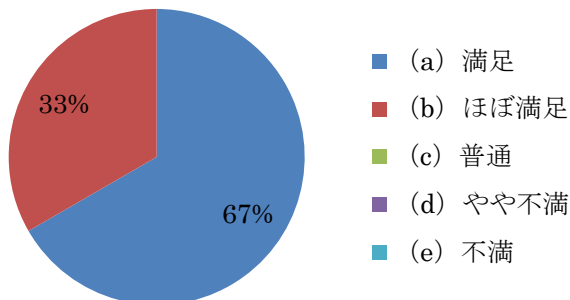
Q1-1 講師の話し方や進め方



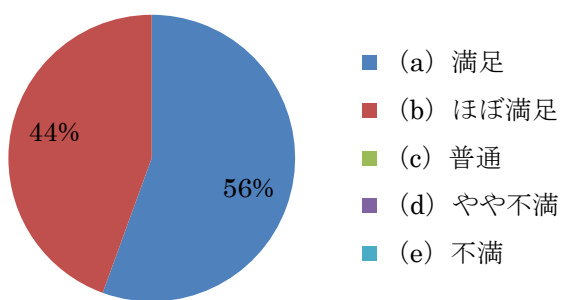
Q1-2 講師の用意した資料



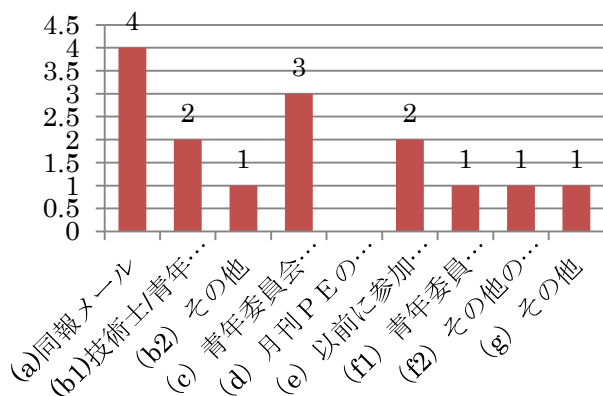
Q2-1 スタッフの対応



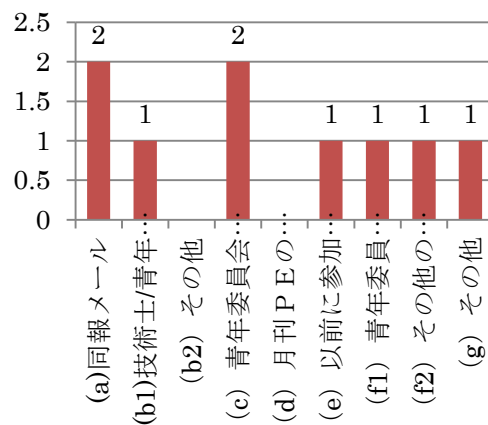
Q3 今回の例会



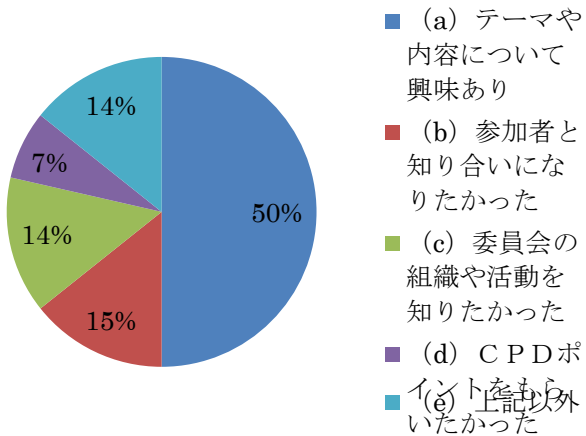
Q4-1 例会をどのように知ったか?



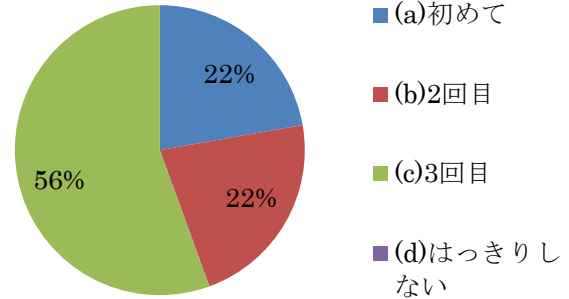
Q4-2 参加理由



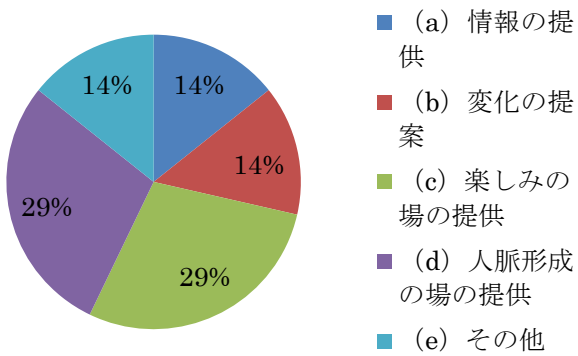
Q5今回参加した目的



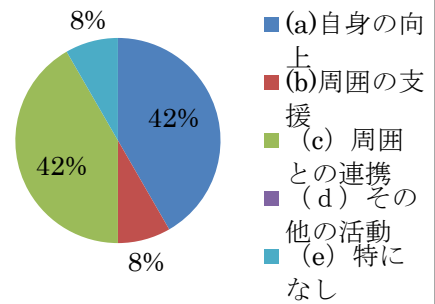
Q6 青年の例会参加回数



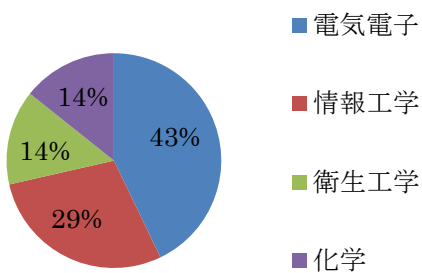
Q7-1 今後参加したい例会



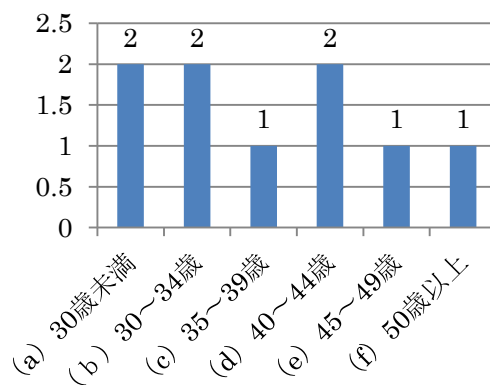
Q8 どのような活動



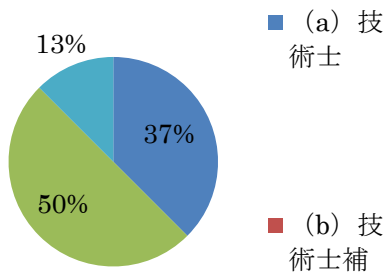
Q9ご自身について



年齢層



會員層



行事名	4月特別例会（青年技術士展2014 1次・2次試験合格者交流会）
日時	2014年4月26日（土）
場所	第一部：田中山ビル 9F 会議室、 第二部：葺手第二ビル 5F 日本技術士会会議室 A, B
講師、発表者	司会 丸山委員 青年委員会活動紹介 田中副委員長 国際交流活動紹介 安力川委員 サッカー・フットサル紹介 高橋委員補佐 インタビュー企画説明 杉山委員 グループワーク企画説明 昆野委員補佐 閉会挨拶 山本委員長 交流会 乾杯 昆野委員補佐
担当者： （○印：リーダー）	山本委員長、田中副委員長、品田委員、丸山委員、伊藤委員、昆野委員補佐、○杉山委員 当日参加委員（22名）
参加者数	第一部：参加者同士によるインタビュー、グループワーク 合計90名（一般67名、委員21名） 第二部：交流会 合計92名（一般67名、委員20名）

1. 背景・目的

青年委員では毎年4月に特別例会を開催し、技術士1次および2次試験合格者の歓迎会を行ってきた。昨年（2013年）より「交流」を目的とした企画を実施し、今回も昨年同様、交流を目的とした特別例会を企画、実施した。交流が必要な背景としては技術士試験に合格し、次のステップに進むに当たり同じような志をもつ仲間を見つけ、技術士仲間、技術士会で活動して欲しいという狙いがある。自己の技術研鑽だけでなく、新たな進むためにも、他部門の技術を有する合格者たちと交流すること、および参加者に満足してもらうことを目的とした。

2. 例会内容

第一部は田中山ビル 9F 会議室で実施し前半と後半に分けて実施した。前半は参加者同士がお互いを知るために行うインタビュー企画を実施。後半は映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー2」の舞台である2015年での技術をテーマにグループワークを実施した。参加者同士を知ってもらうために前半は「自己紹介」後半は「他己紹介」を実施してもらう内容。

第二部は葺手第二ビル 5F 日本技術士会会議室 A, B に移動し、参加者同士が食事をしながら、交流を深めた。

第一部 13:30～18:00

初めに丸山委員による企画内容の説明、タイムスケジュールについて説明。丸山委員は本説明後も総合司会を務めた。

2.1. 青年委員会紹介 田中副委員長

田中副委員長より、青年委員会の活動紹介と、特別例会参加者に向け今回の企画の趣旨説明を行った。森信三先生の言葉「人生、会おうべき人には必ず出会う。しかも、一瞬遅からず、早からず。しかし、内に求める心なくば、眼前にその人あれど縁は生じず。」を引用した説明は、これから技術士となって活躍しようとする参加者に対して力強い言葉であった。本企画で知り合った人たちは何かの縁であり、この縁は大切にすべきという趣旨のメッセージが会自体のモチベーションを上げることになったと感じている。

2.2. 国際交流活動紹介 安力川委員

国際交流活動の紹介として、昨年インドネシアで行われた CAFE031 & YEAFE020 の様子が紹介された。活動内容の紹介とともに、今後参加希望されるメンバーに向けて、金銭的な話、参加人数、日程など、どのような条件で活動するのかを説明したうえで、参加希望者を募集した。事前に規定を説明することはミスマッチを防げるためにも重要である。マレーシアとの国際交流に関しても募集がされた。

2.3. サッカー・フットサル紹介 高橋委員補佐

現在までの活動についての報告と、今後の活動計画について説明された。特に日韓交流試合は国際交流の役割も果たしている。次回開催までは期間がみじかかったが、定期的に情報発信することにより参加者が集まると期待したい。

2.4. インタビュー企画 杉山委員

インタビュー企画は昨年（2013年）実施の企画内容と同等の企画内容で実施した。

【ルール】

- ・1テーブル8人
- ・人数の足りないテーブルには委員を補充
- ・一回の質問時間は2分、お互いに質問して1組当たり4分

【実施状況】

インタビュー企画は決められた質問を何度か実施、さらに相手からも質問されることにより業務の中で普段誰かにヒアリングを行う機会の少ないエンジニアにとって、ヒアリング技術の向上につながるものと考えている。インタビュー企画を円滑に進める目的で、杉山委員と小野寺委員で実演を実施した。会場の雰囲気はとても活気にあふれていた。

2.5. グループワーク 企画説明 昆野委員補佐

バックトゥーザフューチャー2の舞台となっている1985年から描いた2015年の科学技術を題材に、映画内に登場するアイテムやインフラを実現するためにはどのような手法で行うかが話し合われた。グループワークの目的は、前半で行ったインタビュー企画で知り合ったグループ内の技術士情報を活用して、技術的な課題解決をするために必要な技術と人物を紹介する「他己紹介」であった。

テーマとしてはホバーボード、ホバーコンバージョン、未来の天気予報、ミスターフュージョン、犬散歩マシンの5つの技術実現に向け、各チーム活発に議論が繰り広げられ創意工夫した発表内容となった。本来の目的であった、他己紹介を行ったのは1チームにとどまったことは事前の説明で意図が伝えきれていなかったことも考えられ、次回以降は企画の段階で他己紹介をどのように活発化させるべきかを練る必要がある。

発表の際は杉山委員により、技術的な部分や参加者の技術を活用した内容に対する評価を伝えた。

2.6. 講評 山本委員長

山本委員長による今回の総評は、参加者同士の活発な交流に対する評価とともに、今回の交流会での趣旨を改めて再確認する話がされた。趣旨の再確認により、この後に開催された第二部交流会での、活発な交流にむけた雰囲気づくりがなされた。

2.7. 第二部交流会 18:15～20:15

ケータリングを手配し、昆野委員補佐による乾杯の発声で第二部交流会が開始された。
会の終盤に、グループワークで使用した絵の作者紹介も行われた。閉会の挨拶は杉山委員。

3. 成果と所感

今回多く聞かれたのは、第一部での企画は参加者同士で交流できる仕組みになっており、とても素晴らしいとのこと。参加者は他部門の技術士との交流も求めて参加している人が多く、第一部でも前半と後半で様々な人と話げできたのはとても満足できる内容のようだった。企画自体は昨年（2013年）に考案されたものだが、非常に良い企画だと感じている。参加者の中にはこのような交流会は年に一回ではなく数回実施してほしいとの要望があるほどだった。参加者が満足してくれたという点では、成功だったといえる。この会の趣旨としては、合格者をおもてなしすることが最終目的ではなく、青年委員の企画に継続的に参加してもらうこと、さらには技術士会に入会して青年委員として一緒に活躍してくれる人に巡り合うこと。そのため、特別例会単体での企画ではなく、5月以降のイベントとも連携した企画内容にする必要がある。

4. まとめ、次回以降へ

企画自体はこの会に参加したことのある委員が幹事長に就任するほうが、雰囲気や時間の流れがわかるためより良い会にできる。本会に参加しことがある委員が特別例会幹事長となることを推奨する。交流を目的とした企画は、参加者からも需要が大きい。特別例会以外にも参加者同士が交流できるような企画ができると良い。

参加者に何で知ったかを確認したところ、チラシ、人からの紹介が多かった。事前にHPで確認していた参加者も多くいた。HPやブログでの宣伝も重要であると感じた。

以上



運営委員会による打合せ風景



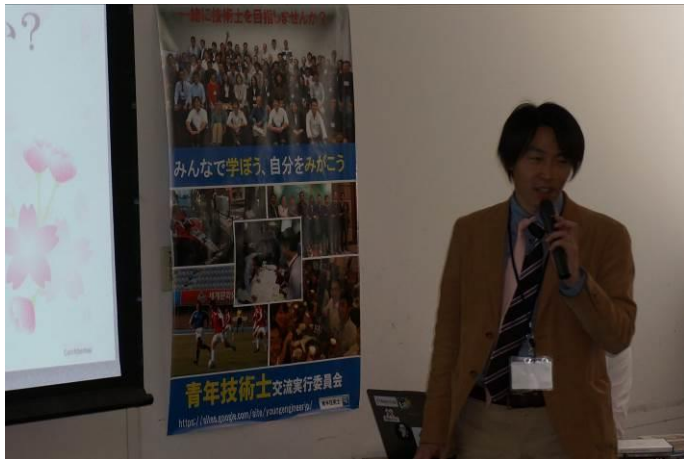
特別例会開始前の風景



特別例会の説明



説明時の会場



田中副委員長による青年委員会の紹介



安力川委員による国際活動の紹介



高橋委員補佐によるサッカー・フットサルの紹介



インタビュー企画の実演をする杉山委員(左)小野寺委員(右)



インタビュー企画



グループワークの企画説明をする昆野委員補佐



グループワーク開始直後



オブザーバーとして進行をチェックする石井委員



グループワーク発表



発表内容にコメントする杉山委員



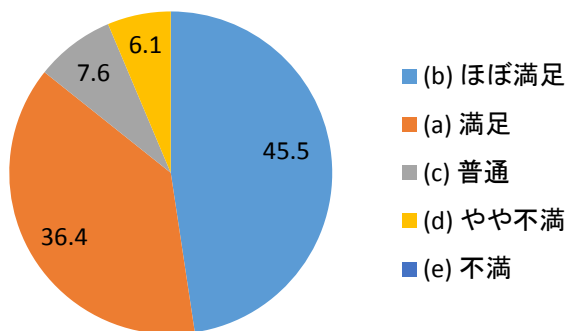
次回以降のイベントを紹介する石井委員



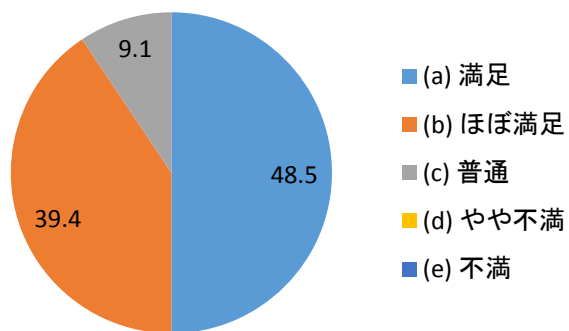
2部交流会

[外部アンケート結果]

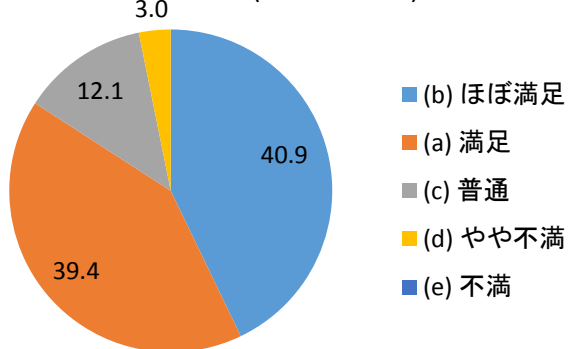
Q1-1.講師の話し方(インタビュー)



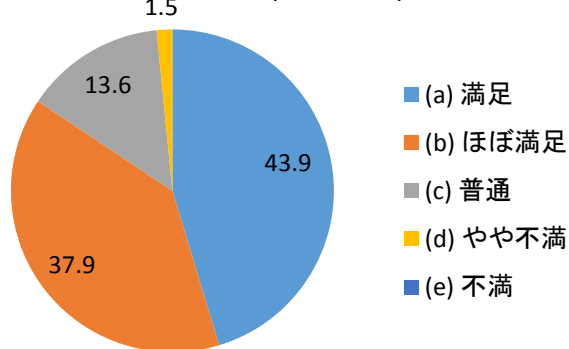
Q1-1.講師の話し方(未来会議)



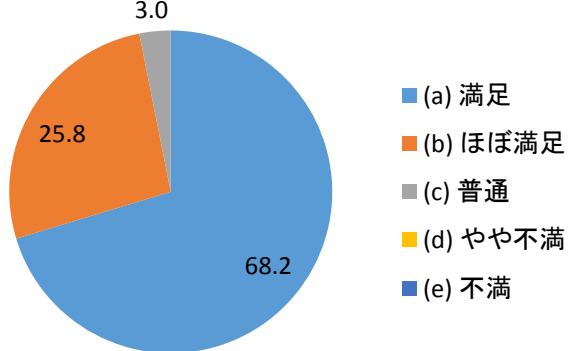
Q1-2.資料(インタビュー)



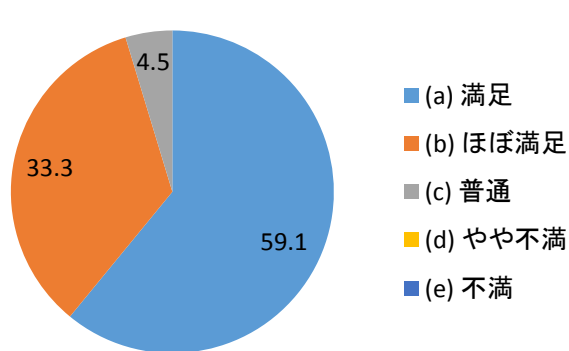
Q1-2.資料(未来会議)



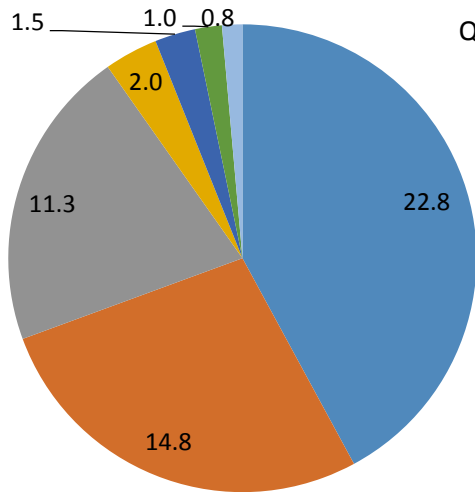
Q2-1.スタッフの対応



Q3.全体

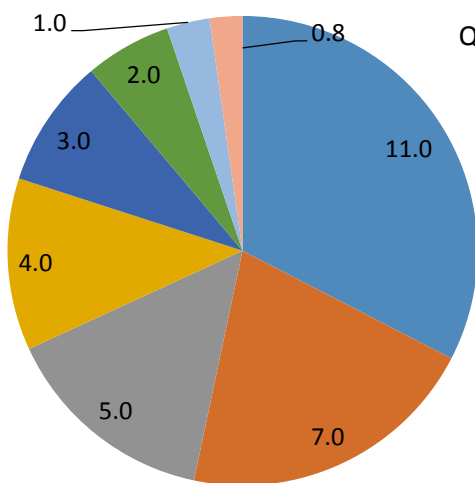


Q4-1.参加するまでの経緯・認知



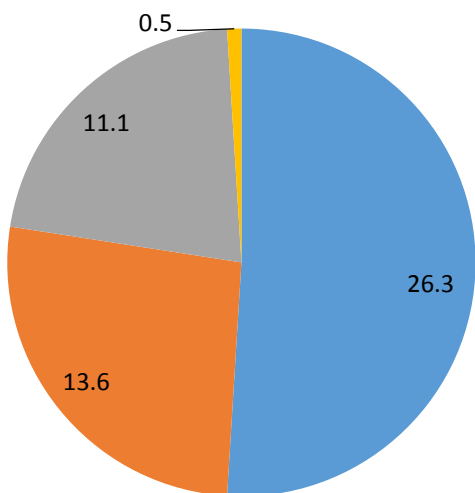
- (a) 日本技術士会の同報メール
- (c) 青年委員会のブログ
- (f2) その他の人からの紹介
- (g) 若手会員のメッセージ
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (e) 以前に参加した青年委員会の例会
- (b2) その他のHP
- (d) 月刊PEの行事予定
- (h) その他

Q4-2.参加するまでの経緯・判断



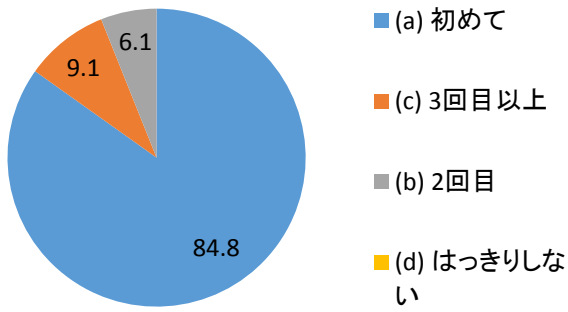
- (a) 日本技術士会の同報メール
- (h) その他
- (f2) その他の人からの紹介
- (d) 月刊PEの行事予定
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (g) 若手会員のメッセージ
- (c) 青年委員会のブログ
- (b2) その他のHP
- (e) 以前に参加した青年委員会の例会

Q5.参加した目的

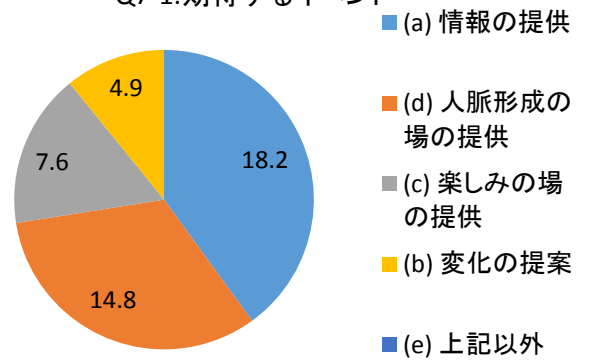


- (b) 参加者への興味(人脈の拡大)
- (a) テーマや内容に興味等
- (c) 青年委員会への興味
- (d) CPDのポイント取得
- (e) 上記以外

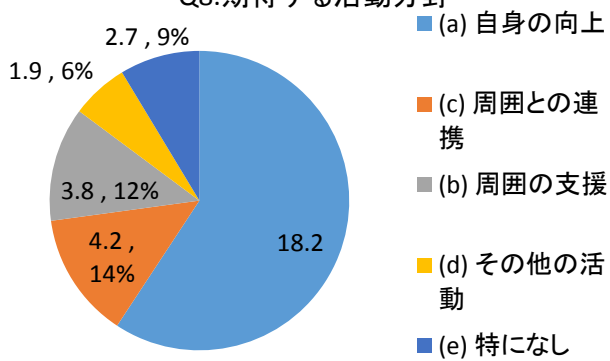
Q6.参加回数



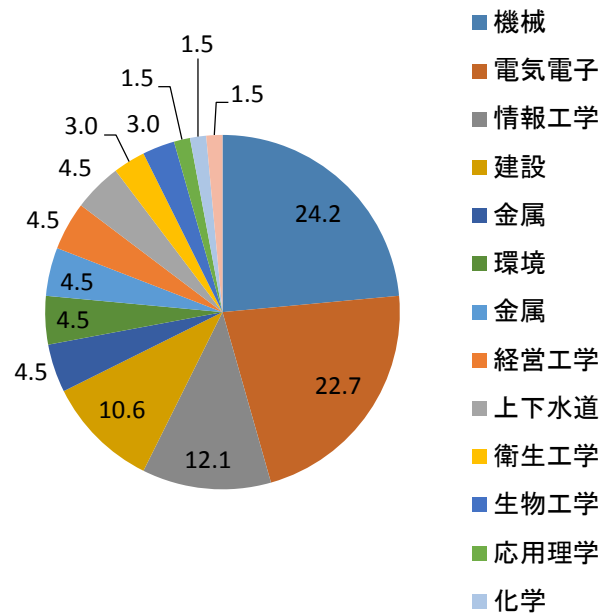
Q7-1.期待するイベント



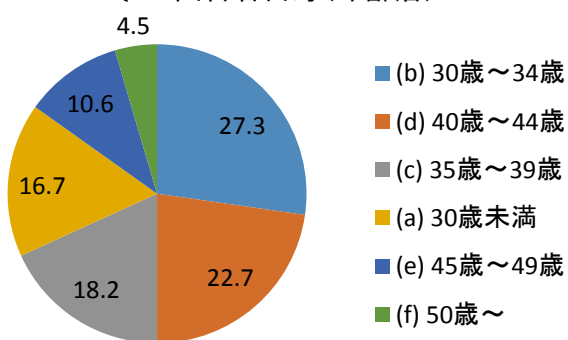
Q8.期待する活動分野



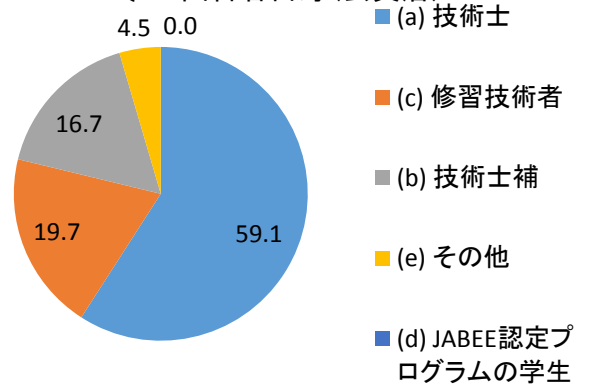
Q9-1.回答者自身(技術部門)



Q9-2.回答者自身(年齢層)



Q9-3.回答者自身(会員層)



[内部アンケート結果・良かった点]

名前	良かった点	事前準備	受付・開始前	青年紹介	インタビュー	GW	第二部	その他・全体
A	山本							●
	・良く練られた企画だ！の声が多かった。 ・例会メンバーの結束							●
B	小野寺							●
	・多くのニューカマーを青年活動、日本技術士会諸活動へ巻き込む絶好機となる、アトラティブな企画内容・細かな当日運営。 ・多くの人に申込みいただき、当日集まることができたこと。 ・例会幹事・メンバーの熱意が、場にいる全員に間違いなく伝わったこと。 ・BTFを選んだ着眼は素晴らしいです(昆野さん)。 ・青年紹介が、回を重ねるごとに洗練してきている(田中さん)。 ・空調管理も適切でした(田中さん)。 ・杉山節をまとめて堪能できたこと。			●		●		●
C	佐藤	●						●
	・幹事のみなさまの準備 ・杉山さんの司会 最初、緊張していた場が和みました ・グループ発表で、それぞれできちんとコメントされていた点はすばらしかったと思います。					●		●
D	細野						●	
	・BTFの映像がとても工夫されていたと思います。 ・始まる前にBGMを流したこと		●					
E	渡辺							●
	・各自、てきぱきと持ち場を担当していた点。 ・誰一人としてスタッフが、ヒマにしているような態度をしていなかった ・ほぼ定刻に開演した。		●					●
F	伊藤	●						●
	・当初は参加者が少ないのでは？という懸念があったが、最終的に沢山の人に来てもらえたこと。 青年委員の勧誘努力に感謝。 ・参加者から「参加して良かった」「良い刺激を受けた」との声が多いこと。 ・当日の動きに、青年委員のスマートさを感じたこと。 各自が「気づき」に基づく行動が来ている。							●
G	高橋						●	●
	・発表に対しての杉山さんの適切なコメント ・準備、片付けがスムーズ ・交流会の後の参加者数が例会の成功を物語っていると思う							●
H	昆野							●
	・他の部会例会にはないハイレベルな内容。 ・杉山氏・伊藤氏の場の雰囲気明るくする行動、トーク。 ・受付の手際は去年よりスムーズ(詳細記述は担当にお任せします)。 ・委員の必要動員数が多いのに、よく集まった。 ・お忙しい中、絵を描いてくださった皆様、有難うございました。		●			●		●
I	品田							●
	・最後のGr発表は見えておりませんが、インタビュータイムやGrワークは参加者同士積極的に話しているように感じました。 ・BGMを流していたのは、雰囲気を盛り上げる上で効果的だったと感じた。 ・欠席者が数名出たが、すべて連絡をいただいでおり、受付が楽であった。 伊藤さんをはじめ、参加者と個別に連絡を取っていただいた方々のおかげだと思います。		●					●
J	丸山							●
	・参加者が多く、会の目的である交流も行われていたようだった。 ・ステキな写真が多い。(まだ見ていない方はぜひご確認ください。)							●
K	田角						●	●
	・BTFの動画編集がちょうどいいカットで編集されており、テンポもよく、見る方も臨場感があってよかっただろうと思います。 ・参加者が一人もはずれなく、ガッチリとイベントに参加出来ているイベント構成。							●
L	中村	●						●
	・ドタキャンが(殆ど)無かった。 これは伊藤さんのフォローが良かったのではないかと思います。 これ程ドタキャンが少ない例会は、初めてかと思えます。 ・開会前のBGMが良かった。 あれで参加者の気持ちが高まったのではないかと思います。		●					●
M	太田							●
	・餡が機能した ・参加者を孤立させるようなことがなかった。アットホーム的だった(だからあんなにたくさん串特急に来たんだと思います)		●					●
N	田中							●
	・運営面でのミスはほとんどなかったのではないのでしょうか？致命的だったのはストラップの不足くらいですかね。 ともあれ、大変素晴らしい運営でしたね！ ・BTTFというテーマ。 映像やBGMが使って華やかでしたね。 ・丸山さんが、次回以降の例会の日程を繰り返し伝えていたこと。 丸山さん進行うまいですね。 ・伊藤さんの参加者との事前やりとり。 とても細かくフォローしていただき大変だっと思います。ありがとうございます！ おかげで連絡なしの遅刻・欠席もなかったですね。 他の祝賀会に参加したときも伊藤さんに逢うのが楽しみだと言っていた方もいましたよ。 ・インタビュータイムで台紙を用意したのはリピーターの人から大変好評でした。					●		●
O	村崎							●
	・非常に良く練られた企画で、会自体も盛り上がったこと。 ・説明用の絵や音楽、映像など、視覚や聴覚で盛り上げを訴えかける要素が多く、 青年らしい堅苦しく無い雰囲気を作ることができたこと							●
P	野口							●
	・オペレーションの煩雑さを参加者に覺られず、スムーズに進行できた点。 ・ドタキャンが少なく、しかも、そういう人からもきちんと連絡があった点。伊藤さんのメールマジックかと。	●						●
Q	嵐田							●
	・「絵で描く」を指示したのは効果的だったと思う。 ・題材の提示がよく練られていたと思う。 幹事のみなさんが長い時間かけて作り上げてきたのがわかったし、 参加者の方々にも伝わったと思います。					●		●

	名前	良かった点	事前準備	受付・開始前	青年紹介	インタビュー	GW	第二部	その他・全体
R	杉山	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュータイムで運営委員が率先して実施してくれていた ・ドタキャン対策は田中さん監督のもと、混乱が生じずにうまくできた ・委員への事前説明、情報が少なかったが全員が方向性を理解してフォローしてくれた。 		●		●			
S	石井	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、進行など、楽しい雰囲気を演出できた。 ・映画の上映権について触れていたことが非常に良かった。 					●		●
T	瀧川	<ul style="list-style-type: none"> ・BTTFの音楽をBGMとして流していたこと。 		●					
		<ul style="list-style-type: none"> ・杉山さんの話術。 会場が大いに盛り上がりました。 						●	
		<ul style="list-style-type: none"> ・田中さんの青年委員会の紹介 参加者の心を掴む導入でした。 			●				
		<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤さんの参加者への細やかな事前フォロー。 たくさんの人に参加していただけたのは伊藤さんの力によるところが大きかったのではないかと思います。伊藤さんファンの列をみていると思いました。伊藤さん、ありがとうございました！ 	●						
U	金丸	<ul style="list-style-type: none"> ・杉山さんと小野寺さんの実演 熱い回答例を事前に見せていただいたおかげで、インタビュー時参加者も初対面の方々の前で素直に自分の想いを話せたと思います。 				●			
		<ul style="list-style-type: none"> ・会場の雰囲気がにぎやかで盛り上がっていた 							●
		<ul style="list-style-type: none"> ・幹事のみなさんの司会、みなさんお上手でした ・伊藤さんの事前フォロー、あの人数を対応するとは、、、すごいです！ 	●						●

[内部アンケート結果・改善点]

	名前	改善したい点	事前準備	受付・開始前	青年紹介	インタビュー	GW	第二部	その他・全体
A	山本	・一般委員をもっと事前に巻き込んでよい →当日委員会で「(?)」の委員が多かった	●						
B	小野寺	・長丁場であるにも関わらず、給水できる場所(自販機)が遠いのが フキデと違って、不便である。ペットボトル1本では不足だった。 給水サービスが必要? ・いつも思うことですが、ネームバッジの中身って名刺が適当なんでしょうか?字が小さく読みづらく、名前で呼びかけづらいような気がします。受付でやや混乱しますが、マジックで大書きの ほうが、ベターである可能性?!							●
C	佐藤	・強いて挙げるなら、来年輕事へのプレッシャー?(CAFEO派遣もそうよね) ・私個人の反省点 化学が一人しか参加していなかったこと。 (申し訳ないです。3/22の化学部会歓迎会でアピールしたつもりでしたが...)							●
D	細野	・始まる前に時々給のテーブルを表すプレゼンがあったのですが、ずっと出しておけば参加者にわかりやすかったのではと思った。 ・受付を終えた方用とこれから受付を行う方用の2種類の入り口を作るといいと思った。 (給を渡すときももらった方とそうでない方の区別をつけたい)	●	●					
E	渡辺	・後半、時間が押したが、時間が押すことを踏まえてタイムスケジュールを組むといい ・タイムキーパーを適切にすると、もっと良い。 ・会場の後片付けに時間を費やした感じがする。							●
F	伊藤	・合格別に色を分けたストラップに足りない色が出た。 事前に数えておくべきだった。	●						
G	高橋	・第二部にも簡単な何かがあればよかった。 参加者からの感想、女性参加者へのインタビュー、最高齢者(80歳)と最年少者(21歳)の紹介など。 ・休憩のタイミングや水分補給が難しかった。 ・参加者で名刺を切らしての方も事前のPR不足? ・社用の名刺を自由に使えない方もいるかもしれませんが、何か別の方法があればいいのでは。 ・交流会も歓談だけでなく、10分程度イベントがあるといいかもしれません。 ・次回以降のPRは個別なので、パワポで繰り返し投影もありかも、スペースがすくないですが。	●						●
H	昆野	・当初で予算および幹事の権限が把握できると意思決定が楽だった。 ・タイムスケジュールに遅れがあった。15~20分程度。 (個人的には許容誤差ですが、もっと無理のない手もあると思います。) ・全員で頑張りすぎ、欲張り過ぎであり、無茶なレベルのイベントクオリティ。 成功したのはスタッフ全員の質やモチベーションに支えられた幸運とも言える。 なればこそ今後は調子に乗らず、負荷を再検討すべし。	●						●
I	品田	・幹事側の考えや進捗をもう少し早い段階で委員・委員補佐の方々と共有できるようにしたい。 ・委員会メンバーへの説明が不十分だった。(皆さまのサポートに感謝いたします。)	●	●					
J	丸山	・当日のスケジュールがタイトだった。 ・企画をメインで進めていただいた杉山さん、昆野さん、 参加者とのメールのやりとりをしていただいた伊藤さんへの負担がかなりのものだったと思います。 持続可能な運営にするための工夫ができたらとおもいます。	●						●
K	田角	・受付の入り口が奥の方にあり、「受付」を示す看板が案内の紙を用意しておくべきであった。 ・受付用のリストで、2部からしか参加しない人の分は、別のリスト にしておいていただくと助かります。 (1部でまだ来ない人を確認したとき、まぎらわしかったので) ・やはり途中にエレベーターのあるルートでは、会場からグループに して誘導するより、最初から所要所に案内人を配置する方が 確実と思いました。(退出する人も三々五々出てくるのでまとまらない) ・インタビューの人数は半分くらいでいいような気もしました。		●					●
L	中村	・名刺ストラップが色によって足りないものがあった。 それぞれの人数を確認しておくべきだった。 ・二部で、余興(誰かの挨拶とか?参加者の中から感想を言ってもらうとか?)があれば良かった。	●						
M	太田	・事前に示すインタビュー内容を絞った方がいい。夢とか語ってる時間がない。 (次のグループワークで活用できるような情報の収集を促す) ・インタビュー開始前に、名前と部門を埋めてしまうように促した方がいい (書く時間が惜しい。その前にテーブルで名刺交換してますし)				●			
N	田中	・技術開発会議で他已紹介がうまく機能していなかったこと。 ・それに関連して、 インタビュータイムのインタビュー内容と技術開発会議の関連が薄かったこと。 インタビュータイムで夢を語ってもらいたいなら、 後半グループワークもその情報を使えるようなものにすべきだったと感じました。 ・参加者の根本さんからの提案ですが、 グループワークの発表は直前に模造紙を写真にとり、 それをPCに取り込みプロジェクターで表示させるのはどうかと提案いただきました。 とてもいいアイデアだと思います。				●			
O	村崎	・担当者の負荷が非常に心配であったこと (準備期間が忙しい年度末をまたぐので、担当者を始めから増やすか、 もしくは負荷軽減を検討した方が良いかも。)							●
P	野口	・事前のルール説明も映画の予習も要らないが、「初参加の人は名刺一箱」とはしつこく伝えたほうがよかったかも。	●						
Q	鳶田	・一次会は田中山、パーティは茸手と書いてあったけれど、外に貼る案内と しては田中山だけを指示していれば良い。 茸手には、田中山に行くように指示する紙を貼ると良かったかな? ・技術士二次試験の願書を置いておくと良かった。 ・せっかく茸手にいたので、過去数年の年鑑を出しておいても良かった。		●					●

名前	改善したい点	事前準備	受付・開始前	青年紹介	インタビュー	GW	第二部	その他・全体
R 杉山	・GWは他己紹介が目的だったが、他己紹介をするチームが少なかった→参加者へもオブザーバーへも説明不足					●		●
	・休憩時間が短かった→15分くらい取れると良い							●
	・当日全体の流れを見るのは難しい。役割分担を決め、各ポイントに監督役を置き、任せるのが良いと感じた。受付、案内、資材、会計、機材、タイムキーパーなど。							●
	・委員への事前案内が不足していた。	●						
	・特別例会に参加した人を次回以降の例会に参加できるようにしたかったが、うまく誘導できなかった。→5月例会はできるだけ特別例会から続いて参加できるように企画が良いと思います。							●
S 石井	・交流会では一人になっている人がちらほら見えたので、青年委員は声掛けできると良いと思います。(会が終わってホッとしているのはわかりますがもう一息です)						●	
	・一人である人のほとんどが名刺を切らしているという理由だったので、本人が名刺を持っていなくても、交流できる仕組みがあると良い。							●
T 瀧川	例会担当以外のスタッフが、ディスカッションの時間中にすべきことがもっと明確だとよかった。他のスタッフが雑談をしているようではいけない。(程度問題ですが)					●		
	・ストラップが不足してしまったこと。事前の数量確認が必要だった。	●						
	・入り口の案内に名刺を2枚用意するよう記載していたため(前回のものを流用)、受付で1枚で良いと名刺を返す場面が開始当初続いていたこと。事前に前回のものが流用できるか確認する必要があった。	●						
	・インタビューの時間が足りなく、慌ただしかったこと。					●		
U 金丸	・インタビュー時に得た内容をグループワーキングで生かすのが難しかったこと。インタビュー内容をグループワーキングで活かせるよう、テーマを絞る必要があるかも!?					●		
	・入口と出口を分けて置いた方が良い。一番奥の受付を通らないと戻れないのは不便。各入口に人が立って、ネームプレートがない人は入れないなどの対応が良かったかも。		●					
	・人数が多く、暑かったので、飲み物を欲しがっている人が多かった。準備した方が良かったかもしれません。							●
	・名刺は名刺ではなく、大きな文字で書いてあるものの方がよい		●					
	名刺は字が小さくぱっと読めないのが、名前と部門が大きく書いてあった方がよい		●					
	・事前に委員への説明があった方がよい。実際やりながら理解した部分も多かった	●						
	・他己紹介がほとんど機能していなかった、ルールがあまり複雑だとすぐに飲み込めないのかも						●	
・GWの発表の仕方は工夫が必要かも。模造紙の内容が見えない。写真を撮ってプロジェクトで移すのはよい案						●		
・高齢の方もいらっしやっただけで、椅子があった方が良かった							●	
・途中から来られた方の資料を余分に用意がなかった								
私がドタキャン要因で入っていましたが、全て書き込んだ後に来られた方がいて、きれいな資料が渡せませんでした。たまたま消えるペンで書いていたので、消して渡すことになってしまいました。					●			

国際活動報告書

行事名	日韓技術士国際会議
日時	平成 25 年 10 月 17 日(木) ~ 平成 25 年 10 月 19 日(土)
場所	韓国水原市 ibis Ambassador Suwon Hotel
担当者: (○印:リーダ)	○高橋 義也、藤井 佳直(記)
参加者数	-

6. 背景・目的

第 43 回目となる日韓技術士国際会議が韓国水原市で開催され、今回のテーマである「未来科学技術時代における技術士の役割」について日本技術士、韓国技術士が議論を交わした。

7. 内容

式典・基調講演

韓国:「科学技術時代の到来による創造経済活性化と経済主体の役割」 李 氏

日本:「未来科学技術における技術士の役割」 富田 氏

第 1 分科会 国土・環境・資源・エネルギー

第 2 分科会 建設・安全・防災

第 3 分科会 技術者倫理・技術者資格・技術教育

第 4 分科会 電気・電子・情報・通信・機械

第 5 分科会 英語発表

今回の日韓技術士国際会議の開催都市は、世界文化遺産である華城があり、2002 年日韓共催のサッカーワールドカップの舞台にもなった都市であり、さらには世界的にも有名な Samsung 電子がある科学技術でも中心的な存在の水原市で開催された。今回のテーマは、「未来科学技術時代における技術士の役割」として日本技術士、韓国技術士がともに議論を行い、高い技術を発表し交流を行った。分科会の中では、発表だけではなく実演を交えた発表もあり言葉での交流以上の体験ができる講演もあり、大いに盛り上がった。

3. 成果と所感

- ・ 今回の開催地水原市の市長、副市長共に技術士であることから、技術士国際会議に対する協力が素晴らしかった。
- ・ 昨年度、お会いした韓国の技術史の方とも日韓親善晚餐会で会うことができ、とても楽しい交流となった。
- ・ 分科会では、スマートフォン事情が日本でも韓国でも同じような問題に直面していることがわかり、これに対する技術士としての役割について考えさせられた。
- ・ 基調講演ではこれからの科学技術時代への技術士の役割について聴講した。この講演の中で技術を身につけるだけでなく、その技術を如何にして社会に反映するかを常に考えることが技術士として重要であることを実感した。
- ・ 日韓技術士国際会議は両国の技術力の切磋琢磨もさることながら、個人レベルでの交流の輪を広げる場としても重要であると感じた。そのためには、他国の文化を知ること重要であるが、自国の文化・技術を知り相手に伝えることが重要であることを実感した。

4. 今後の展開

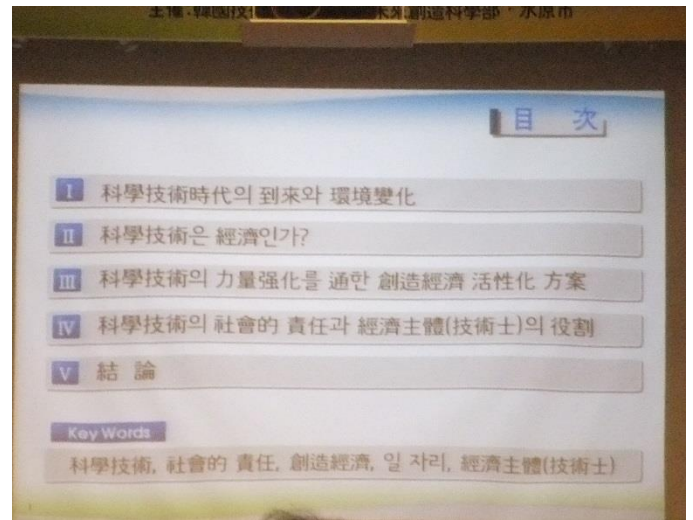
- ・ 今回の国際会議に参加して、日本国内でも技術士の知名度を上げていく努力が必要であると実感した。青年技術士交流実行委員会として、できる限りの努力をしていきたいと思ったとともに、次回の国際会議では多くの韓国技術士の方に日本のすばらしさ、日本技術士の技術力の高さを知っていただけるようにしていきたい。
- ・ 身につけた技術をどのように社会貢献するかは技術士全体の課題であり、国内・国外に反映させていく手段を議論する必要があると実感した。青年技術士交流実行委員会としても、社会貢献、国際貢献に対する技術士の役割を議論しアウトプットできるようにしていきたい。
- ・ 国際交流の最初の一步はお互いが直接会話できることであると考えている。そのため、韓国の方と直接会話ができるようにハンゲルの学習をしてきた。今回の晩餐会では3割程度しかハンゲルで会話ができなかったが、次回の国際会議では更にハンゲルで会話できるよう努力したい。

5. 写真

日韓技術士国際会議 開催



基調講演: 韓国



基調講演: 日本



日韓親善晚餐会



行事名	CAFEO31(内部開催 YEAFEO20)
日時	2013年11月9日～11月14日
場所	ジャカルタコンベンションセンター(インドネシア)
参加者	安力川幸司技術士(電気電子、情報工学)、坂東大輔技術士(情報工学)、 小池竜修習技術者(機械)
担当者: (○印:リーダー)	○安力川、坂東、小池(記)
参加者数	約200名

1.背景・目的

青年委員会の CAFEO への参加は、ASEAN 諸国との交流による青年層の委員会活動の情報交換、青年層の国際意識向上を目的として、2003 年度より継続されている。今回、2 国間交流の実現を目的とし、日本から 3 名がインドネシアで開催された CAFEO31(内部開催 YEAFEO Meeting 20)へ公費派遣者として参加した。

2. 派遣内容

2.1 準備

派遣準備として、以下 8 項目の準備を行った。

- ・ 目標設定
- ・ 名刺作成
- ・ プレゼント選定・調達(各国代表)
- ・ プレゼント選定・調達(個人宛)
- ・ カントリーレポートプレゼンテーション作成
- ・ 演舞検討・練習
- ・ アンケート作成
- ・ レター作成
- ・・・青年委員会としての国際派遣目的を設定
- ・・・国際派遣用の顔写真付き名刺を作成
- ・・・ASEAN 各国の代表とのプレゼント交換用
- ・・・ASEAN 各国の参加者へのプレゼント用
- ・・・YEAFEO ミーティングでのプレゼンテーション用
- ・・・フェアウェルパーティでの演舞用
- ・・・参加者の 2 国間交流に関する意識調査アンケート
- ・・・各国 YEC 委員長に向けた親書

2.2 参加

①日程は以下の通り。(添付資料①)

- 2013/11/9 (土) 移動、Dinner
- 2013/11/10(日) Arival and Registration、Welcome Party
- 2013/11/11(月) Opening Ceremony、CAFEO Meeting、Dinner
- 2013/11/12(火) YEAFEO Meeting、Bowling、Closing Ceremony
- 2013/11/13(水) 移動

②YEAFEO での達成事項は以下の通り。

- ・ YEAFEO Meeting への参加
- ・ YEAFEO Meeting において、日本国代表として Country Report を発表した。
- ・ Meeting 中および休憩中など、参加各国との意見交換を積極的に行った。

- ・ CAFEO Farewell Party において、日本文化紹介として空手および殺陣、阿波踊りを披露した。
- ・ 各国代表とのプレゼント交換において、日本から持参したプレゼントと日本の YEC 委員長名の親書を手渡した。

3. 考察

3.1 振り返り

- ・目標の2国間交流は、Facebookにて議論中であり、現時点では未達成。
- ・2国間交流で最も高いハードルは金銭面であるため、基本スタンスは「日本の YEC が行く」ことが必要。
- ・各国は日本 YEC を受け入れることは可能とのこと(添付資料②)
- ・派遣の在り方を再考する必要がある。(ASEAN の YEC は 30 歳以下(大学生多)であるため、CAFEO で探る方が現実的)

3.2 提案

今回の派遣から以下の3つの提案を行う。

①派遣の在り方

優先度	項目	備考
最高	複数年参加	日本の存在感に大きく影響。1年中活動する必要あり。 青年技術士交流実行委員から複数派遣するか、複数年の派遣を認めるべき
高	若手の参加	若手1名は必須
高	英語上級者	最低1名は必須
中	委員長の参加	各国は委員長がほとんど参加
中	人数増	5名程度に増員し、若手を広く募集
中	女性の参加	日本のみ女性なし

②日本代表団の在り方

従来	<ul style="list-style-type: none"> ・公費派遣と私費参加の参加者がおり、現地で初めて顔合わせる事が多かった。 ・公費派遣者に対する私費派遣者の位置付けが不明確であった。
今後	<ul style="list-style-type: none"> ・公費派遣者と私費派遣者とが事前に顔合わせを行う。 ・公費派遣者と私費派遣者とが当日連携する。

③英語版 Facebook を運営する。

3.3 引き継ぎ

- ・アンケートは目的を達成したため来年度以降は不要である。
- ・プレゼンテーションは、YEC の活動状況やイベント(例会)の報告を中心に行う。(今年は日本の紹介が多かった)
- ・2013年度の派遣の記録を一括してまとめ、青年技術士交流実行委員会へ提出する。

以 上

【添付資料①】CAFE031/YEAFEO20 参加状況



Fig.1 CAFE031 受付



Fig.2 Welcome dinner



Fig.3 CAFE0 Meeting



Fig.4 YEAFEO Meeting



Fig.5 Country report



Fig.6 Exchange Souvenirs



Fig.7 AWA dance



Fig.8 Samurai vs. Karate



Fig.9 Farewell party

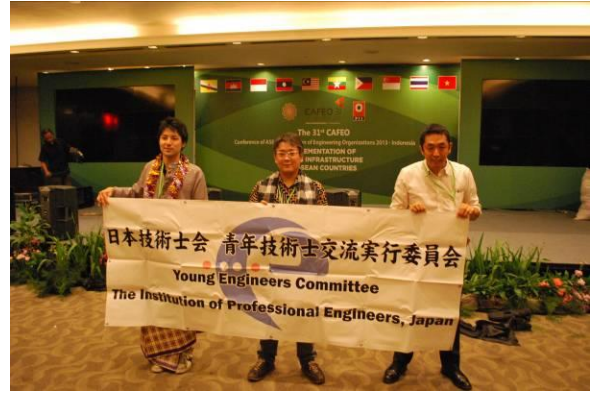


Fig.10 JYEC Delegates



Fig.11 Dinner w/ Malaysia



Fig.12 w/Indonesia,Malaysia,Thai,UK

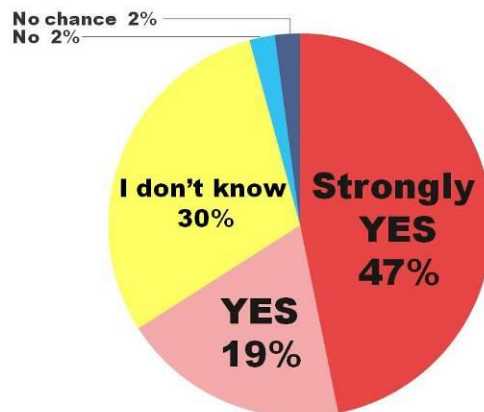
JP YECのカントリーレポートはどうだったか？



43

Fig.14 Questionnaire result 1

JP YECに会いに来てくれるか？



44

Fig.15 Questionnaire result 2

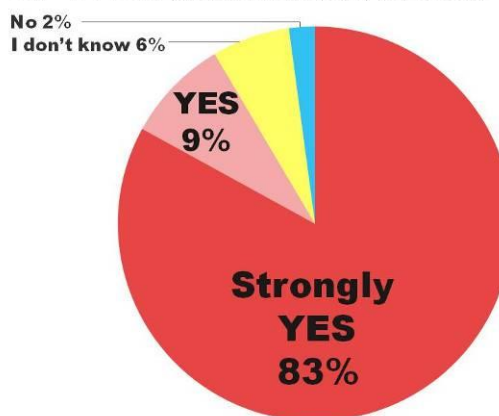
JP YECとどのような事をしたいか？



45

Fig.16 Questionnaire result 3

JP YECが訪問したら受け入れるか？



46

Fig.17 Questionnaire result 4

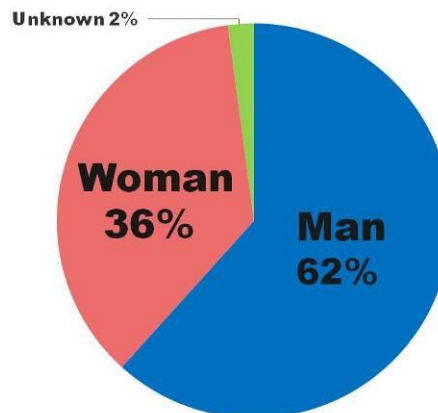
国別回答数



47

Fig.18 Questionnaire result 5

回答者男女比率



48

Fig.19 Questionnaire result 6

サッカー&テクノ 活動報告書

行事名	サッカー合同練習会
日時	平成 25 年 8 月 24 日(土)13 時 00 分～17 時 00 分
場所	新潟県 阿賀野川河川公園 多目的運動広場
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也、藤井 佳直(記)
参加者数	26名(北陸:13名、関東:13名)

8. 背景・目的

日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は10月に水原で行われる日韓親善サッカー大会を前に、技術向上を目的とした練習会を北陸本部と合同で実施した。

9. 内容

今回の練習会は、新潟開催だったにも関わらず北陸、関東から26名もの参加者が集まった。

当日は、夏の暑さが残る中の練習会となったが、適度に水分を取りながら練習会を実施した。当日の午前中まで雨が降っていたためピッチコンディションは、万全とはいかなかったが、本番の大会ではどのようなピッチコンディションになるか予想できないため、今回のピッチコンディションでのサッカーは、とてもよい練習になった。ストレッチと練習は、関東チーム、北陸チームに分かれて実施し、練習試合に挑んだ。関東チームは、久しぶりのサッカーだったため、フットサルの感覚からなかなか切り替えることができなかった。一方の北陸チームは、練習を重ねていることもあり連携がうまくいったため、1試合目は、北陸チーム優勢に進んだ。しかし、関東チームもそれぞれのポジションの役割やフットサルの経験から徐々にサッカーに慣れ始めると、形勢逆転して関東チームが得点を重ねていった。

今回の練習会では、連携までの練習には至らなかったが、サッカーの感覚を取り戻すとともにディフェンスの強化ができた。練習終了後は交流会を行い、練習の反省や日韓サッカーについて話あった。

3. 成果と所感

- ・ ピッチコンディションが悪いため、普段のフットサルではできているプレーがなかなかできなかったが、日韓戦前にサッカーを行うことができ、感覚を取り戻す良い練習になった。
- ・ 定期的に北陸本部との合同練習ができており、関東からの参加者も多くサッカーでの交流がますます広がっていることを実感した。
- ・ パス練習が多いため、シュート練習や連携の練習など、練習の工夫が必要だと感じた。今後は、パス練習以外の練習も考えていきたい。

4. 今後の展開

- ・ 関東では、フットサルの練習会の割合が多いが、今後はフットサルだけではなく、実践の感覚を忘れないようにサッカーの練習も取り入れていけるようにしたい。
- ・ 北陸本部との合同練習も定期的に行えるようになってきており、サッカーでの交流がますます広がっていることを実感できたため、この交流会を中部本部に拡大していけるように、今後も続けていけるようにしたい。
- ・ 次回は、水原での日韓親善サッカー大会のため、必ず韓国チームに雪辱を果たす。

5. 写真

練習前挨拶



練習風景



練習風景



練習風景



集合写真



行事名	テクノツーリズム（新潟）
日時	平成 25 年 8 月 25 日(日)9 時 00 分～13 時 00 分
場所	技術士センタービル 8 階 A 会議室（新潟市中央区新光町 10-2） 新潟浄化センター（新潟市東区下山 3-680）
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也(記)
参加者数	(統括本部)高橋 義也(記)

10. 背景・目的

統括本部と北陸本部とのサッカー合同練習会の翌日に、テクノツーリズムとして講演と現地見学（新潟浄化センター）を行った。今回は統括本部から 6 名の参加者が集まった。

11. 内容

(講演会:下水道のしくみと汚水の処理について 講演者:樋口 大輔様(オリジナル設計株式会社))

下水道には下水道法上の下水道と下水道類似施設があり、下水道法上の下水道は、公共下水道、流域下水道、都市下水路に分けられ、下水道類似施設は集落排水処理施設、コミュニティ・プラント合併処理浄化槽等に分類される。また下水の排除方式は、汚水と雨水を同じ下水管で流す合流式、汚水と雨水を別々の下水道管で流す分類式がある。

また、下水処理場では沈砂池、最初沈殿池、反応タンク、最終沈殿池、消毒設備の順に処理し、反応タンクの微生物が汚れを食べて浄化している。反応タンクでの処理は、8～10 時間程度を要する。

(見学会:新潟浄化センター)

講演合後、新潟浄化センターに移動した。当日は下水道わくわくフェスタが開催されており、下水道探検ツアーに参加した。下水道探検ツアーでは講演会の下水処理場の処理の内容を確認した。

3. 成果と所感

- ・ サッカーの合同練習会、懇親会、講演会、現地見学と行い統括本部と北陸本部で良い交流ができた。
- ・ 統轄本部の講演会の参加者はサッカーの参加者の約半数であった。

4. 今後の展開

- ・ 日韓親善サッカーお疲れさま会として、関東でサッカー合同練習会とテクノツーリズムを計画する。

以上

行事名	日韓技術士親善サッカー大会
日時	平成 25 年 10 月 17 日(木) 15:00 ~ 17:00
場所	韓国水原市 水原総合運動場(サッカー親善大会)
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也、藤井 佳直(記)
参加者数	日本:16名

12. 背景・目的

日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、韓国水原市で開催された日韓技術士国際会議の前夜祭/日韓技術士親善サッカー大会(本番)を実施した。

13. 内容

韓国開催の日韓技術士国際会議は、毎年サポートが素晴らしく、この度の日韓技術士親善サッカー大会の会場も韓国リーグ 2 部の水原 FC ホームグラウンドで試合をすることができた。ピッチコンディションも素晴らしく、スクリーンには「韓国対日本」と国旗を交えて表示され、国際マッチの公式試合を彷彿させる会場だった。また、観客席には歴代の日韓技術士サッカーの集合写真を飾っており、第 9 回目までの歴史を思い起こさせる演出がされていた。会場では、日本チームがそろ前から韓国チームがすでに練習を始めており、ホームでの負けが許されないかのような気持ちが伝わってきた。

日韓技術士親善サッカー大会の開会式では、出席できなかった水原市長の代理として副市長が急遽駆けつけ、選手に激励の言葉をおくった。次に、オープニングセレモニー(始球式)としてPK戦が実施された。

本試合では、日本技術士サッカー代表と韓国技術士サッカー代表がそれぞれの力をぶつけ合う良い試合となった。過去、日本の技術士チームは、韓国チームに押されることが多かったが今回の試合では、アウエーにもかかわらず優勢に試合を運ぶ形となった。前半は、韓国チームにすきをつかれて失点するが、その後日本チームが同点に追いつき、逆転劇を見せる盛り上がりを見せた。後半は、両チームとも全力であと1点を目指そうと必死の攻防が続いた。後半中ごろ、韓国チームが再度日本チームのすきをつくる形で、同点となりその後、両チームとも両国の本当の代表選手のように試合を行っていた。同点のまま試合終了後、選手たちの姿を見て観客からは、両チームに対して温かい拍手が送られた。

試合終了後は、激闘を終えた選手たち、観客たちとともに前夜祭(懇親会)が水原市内で開催され、韓国料理に舌鼓しながら試合の健闘をたたえあった。

<試合結果>

前半:日本 2 - 1 韓国 得点者:藤井さん(アシスト:麻生さん)、麻生さん(アシスト:沼中さん)

後半:日本 0 - 1 韓国

結果:日本 2 - 2 韓国 MVP:麻生さん(1ゴール、1アシスト)

3. 成果と所感

- ・ 日本開催とは違い、副市長がサッカーのために激励のあいさつに来ていただいたり、Kリーグのスタジアムで国際審判の方が笛を吹いていただいたりと親善試合から日韓技術士国際会議に対する韓国の気持ちが伝わった。国にとって技術士が高い価値があることを国外に伝えることとして日本も学ぶところがあった。
- ・ 試合では、日本がベストメンバーではなかったもののこれまでの交流を通じた結果が出たと感じた。今までの日韓戦では無かった有利な試合運びとともに1試合に2得点による逆転、試合展開からの得点は、大きな成長であると感じた。
- ・ 試合後は、日本技術士、韓国技術士ともに言葉の壁を越えた交流を深めることができた。サッカーを通しての国際交

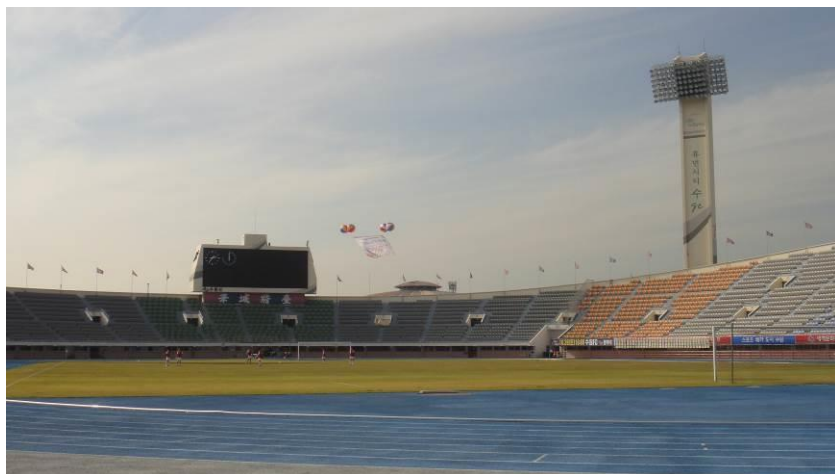
流が今後も続くことになれば、若手の参加も増え日韓技術士国際会議の発展につながると考えられる。心技体すべてにおいて交流できる国際会議として発展してほしい。

4. 今後の展開

- ・ 試合勘を忘れないように、今後はサッカーができるときはサッカーを行いたいと考えている。また、シュート数が少なかったため、シュート練習にも力を入れたい。
- ・ このサッカーというきっかけで北陸、中部、北海道の技術士の方と交流ができており、このような全国の技術士との交流を広げている活動は、技術士会では少ないため、今後は全国の技術士との交流を目指した活動につなげていきたい。
- ・ 次の日韓技術士国際会議のサッカーは記念すべき第 10 回大会のため四国・松山大会では、圧勝できるように準備をする。

5. 写真

試合会場(水原FC ホームグラウンド)



挨拶



試合風景



日本技術士サッカー代表



韓国技術士サッカー代表



行事名	1月例会 サッカーおよびテクノツーリズム
日時	平成26年01月18日(土) 13:00 ~ 15:00 / 平成26年01月19日(日) 9:30 ~ 12:00
場所	浜町 (サッカー交流) / ちよだプラットフォーム
担当者: (○印:リーダー)	○藤井 佳直(記)
参加者数	サッカー: 27名 / テクノツーリズム: 11名

14. 背景・目的

日韓親善サッカー大会での勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、韓国水原市で開催された日韓技術士国際会議の前夜祭/日韓技術士親善サッカー大会後のお疲れ様会を開催した。また、サッカーと合わせてテクノツーリズムも開催した。

15. 内容

[サッカー交流]

- 当日は、1月ということもあり寒い中ではあったが、西は四国、東は東北から参加者が集まり、サッカーを楽しんだ。元委員補佐の企業の後輩にも参加いただき、若手からベテラン技術士が交流するという他の技術士会にはない機会となった。
- サッカーは、3チーム(北陸チーム、関東チーム、パシコンチーム)に分かれ、1試合10分で行った。若手で構成されるパシコンチームがやはり優勢に試合を進めた。今回は、勝ち負けを決めずに交流として開催したため、MVP等は特に設けなかったが、満場一致でパシコンチームの女性の方がMVPとなった。今回も、大きなけがもなく交流することができた。

[テクノツーリズム]

- テクノツーリズムでは、もともと今野氏と荒木氏の予定だったが、急遽、今野氏のみ講演に変更となり、今野氏の講演とともに受講者とのディスカッションも行った。今野氏は、農林水産省の方で日本の農業について講演いただいた。輸入に頼っている日本は今後どうしていくか?日本の強みとは?弱みとは?受講者が出し合ったSWOT分析の中で日本を再度考え直すよい機会となった。日本の農業界を活性化させるための技術士として何ができるかなど勉強になった。
- S 強み:日本のブランド力、健康志向、安全、高品質
- W 弱み:生産力、流通力、競争がない、政策で守られすぎ
- O 機会:地産地消
- T 脅威:TPP(食料自給率)、風評被害

16. 成果と所感

[サッカー交流]

- 今回は、北陸、中部、四国、東北と各地から参加いただき、サッカー交流が徐々に活動の幅を広げていっていると感じた。また、サッカーを通しての技術士との交流ができるため、共通の技術ではない方とも交流できる良い機会となり、今回初めて参加された方からも今後もこのような活動をしていただきたいとお言葉をいただいた。
- 1月のため北陸など雪の中来ていただけたのは、とても感謝することであり、またこの活動の長きにわたる交流のおかげと思った。

[テクノツーリズム]

- 急遽講演方法を変更したことによって、単なる講師からの一方通行な講演だけではなく、参加者がそれぞれの意見を

出し合い、日本の農業について考える良い機会になった。今後日本の農業のために技術士としてどんな支援ができるのか考える機会にもなった。

4. 今後の展開

[サッカー交流]

- ・ 今後は、なるべく実践経験を増やせるようにフルコートのサッカーを行えるようにしていきたい。
- ・ 今回の参加者は、北陸、四国、中部、東北、関東と徐々に技術士サッカー交流の幅が広がりつつあるため、今後は関東開催だけではなく、北陸開催、中部開催、東北開催も視野に入れて活動していきたい。

[テクノツーリズム]

- ・ 今回講師を予定されておりました荒木氏が、ご都合により講演いただけない結果となり、参加者からもぜひ次回、講演を聴きたいという声もあったので、次回のテクノツーリズムがあるときには、ご講演いただけるか確認し、ぜひご講演いただけるようにしたい。

5. 写真

[サッカー交流]



パシコンチーム



北陸チーム



関東チーム



試合風景1



試合風景2

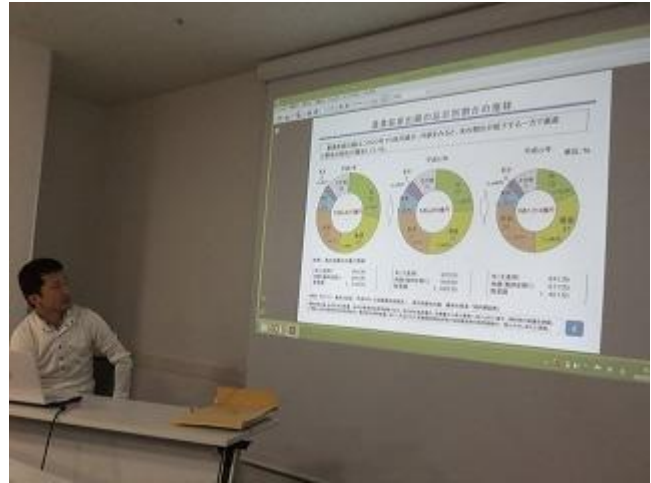


集合写真

[テクノツーリズム]



講演スライド



講演風景



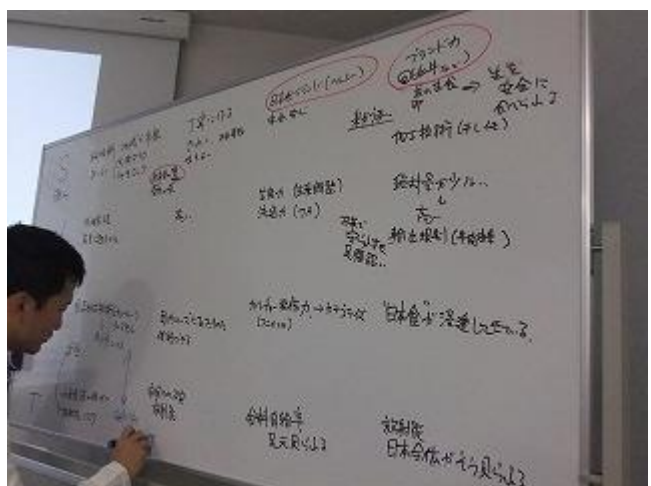
ディスカッション風景



受講風景



SWOT 分析



分析結果

行事名	統括本部、中部本部、北陸本部サッカー交流試合及びテクノツーリズム
日時	【講演会・現地見学】平成 26 年 3 月 15 日(土) 12 時 30 分～17 時 00 分 【交流会】平成 26 年 3 月 15 日(土) 18 時 00 分～ 【合同練習会】平成 26 年 3 月 16 日(日) 9 時 00 分～13 時 00 分
場所	【講演会】技術士センタービルⅡ 2 階コミュニケーションルーム 【現地見学】朱鷺メッセ ウェーブマーケット 【交流会】ホテル日航新潟 セリーナ 【合同練習会】みどりと森運動公園
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也(記)
参加者数	【講演会】15名(北陸本部:9名、統括本部:6名) 【現地見学】8名(北陸本部:3名、統括本部:5名) 【交流会】13名(北陸本部:7名、統括本部:6名) 【合同練習会】29名(北陸本部:17名、新潟大学:6名、統括本部:6名)

17. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバーを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として統括本部、中部本部、北陸本部とのフットサル合同練習会への参加、および技術士としての研鑽および地方本部との交流を深めるためにテクノツーリズムと穀粒会に参加した。

18. 内容

【講演会】

参加者は15名であり、統括本部からは6名の参加があった。統括本部のうち青年委員は2名の参加であった。

株式会社ナルサワコンサルタントの中村彰文氏から「自転車移動のススメ」と題して講演があり聴講しました。講演内容としては、自転車に限らず全ての交通機関に対する移動についての講演でした。その中で自転車移動が最も効果的な距離は5km未満の移動であり、長距離になれば鉄道等の公共交通機関が有効であり、一つの移動手段に頼らず複数の移動手段を複合的に活用できるインフラの整備が必要であるということも興味深い内容でした。また、講演の最後に聴講者から「移動」に求める価値観(経路を選択する理由等)や自転車移動の可能性、問題点についての意見を聞くことにより、全ての人が個人の価値観により移動経路を選択し十人十色であることが分かった。また、移動目的により個人でも異なる経路を選択することもおもしろい結果であった。今回の意見等が今後の自転車移動のインフラ整備の参考になればと思う。

講演会の2部のイベントとして利き酒大会が開催された。5種類の新潟の酒を1～5のカップとA～Eのカップにつがれ、1～5のカップとA～Eのカップの組み合わせとA～Eの日本酒の銘柄を当てるというものであった。また、利き酒中には和気あいあいと会話をしながら行い、地方本部との交流の一助になった。結果としては、全問正解する参加者はいなかったが、これからの現地見学に向けてのモチベーションの向上の手助けになった。北陸本部の運営側の気持ちが伝わるイベントであった。

【現地見学】

参加者は0名であり、統括本部からは5名の参加があった。

毎年恒例の朱鷺メッセで開催されている「にいがた酒の陣」で現地見学を行った。個人的には3回目の参加であるが、

年々入場者数が増加し会場では身動きが取れないほどであった。この「にいがた酒の陣」は 2 日間のイベントであり、全体で約 10 万人の入場者があり、新潟のお酒の威力を痛感させられるイベントであった。また、日本酒は米の種類や水の種類で味が異なることはもとより製法や貯蔵方法によっても味や香りが異なり日本酒の奥深さを感じた。また、それぞれの酒蔵において伝統を守りつつも新しいアイデアを生み出し、常に前進していくという心意気を感じ、向上心を常に持ち続ける必要性を感じる現地見学であった。

【合同練習会】

参加者は、統括本部、北陸本部、新潟大学からの参加であり、統括本部からは 6 名の参加があった。

最初は、統括本部、北陸本部、新潟大学を 4 つの混成チームに分けて、総当たりの試合形式で練習を行った。後半は、統括本部チーム、北陸本部 A チーム、北陸本部 B チーム、新潟大学チームの 4 チームに分かれて、総当たりの試合形式で練習を行った。天候のコンディションは前半やや風が強い程度であったが、後半は降雨もあり終了間際はボールが見えないほどの大雨となった。しかし、どの試合もチームバランスがよく、均衡した試合を行うことができた。

3. 成果と所感

全体的には北陸本部の担当者の方の手際がよく、講演会、現地見学、交流会、合同練習会と有意義な活動であった。ただ、統括本部の参加者は 3 月の業務多忙の時期と重なっていたため、ぎりぎりまで参加者の調整が必要であり、北陸本部の担当者にお手数をおかけしてしまった点は反省すべき点である。また、統括本部からの参加は延べ 7 名と例年に比べて少なく寂しかった。これは情報発信方法に要因があると考えられるので、改善すべき点である。

4. 今後の展開

年度末ということもあり参加者の直前でのキャンセルがあり北陸本部の担当者の負担が大きかったと思う。統括本部側での周知方法や連絡体制を整理すべきである。また、参加者が例年に比べて少なく、地方本部との交流の一環として、青年委員の参加者が増えるといいのではないかと考え、外部向けだけでなく、内部にも情報を発信していきたいと考えている。

5. 写真

・講演会の風景



・現地見学の風景

・利き酒大会の風景



・朱鷺メッセからの夕陽



・練習会の風景①



・練習会の風景②

